Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

我部政男・広瀬順晧　編

国立公文書館所蔵

公文別録総目録　追補

ゆまに書房

第四期　収録資料一覧

		コマ番号	目録頁
	［第107リール］		
12	自明治一五年至同一六年　公文別録　外務省　一	006～172	021
13	自明治一五年至同一六年　公文別録　外務省　二	175～310	028
14	自明治一七年至同一八年　公文別録　外務省　三	313～533	036
	［第108リール］		
15	自明治一七年至同一八年　公文別録　外務省　四	006～150	042
16	自明治一三年至同一六年　条約改正一件	153～428	045
	［第109リール］		
18	自明治十五年至明治十六年　公文別録　内務省　二	009～220	050
	［第110リール］		
86	北海道事件　一	009～180	055
87	北海道事件　二	183～406	059

［第111リール］

101	使鮮日記	009～075	062
102	朝鮮巡行日誌	078～130	063
103	朝鮮事件　一	135～243	064
104	朝鮮事件　（一）	246～378	067

［第112リール］

105	朝鮮事件　（二）	006～117	071
106	朝鮮事件　（三）	120～150	073
107	朝鮮事件　（附　使清之事）	153～180	075
108	朝鮮尋交始末　上	183～235	076
109	朝鮮尋交始末　中	238～286	077
110	朝鮮尋交始末　下	289～346	078
111	朝鮮国詳細	349～393	079

［第113リール］

112	明治八年　朝鮮江華島砲撃始末　一	006～136	080
113	明治八年　朝鮮江華島砲撃始末　二	139～331	091

［第114リール］

114	自明治六年五月至同七年一一月　朝鮮始末　一	006	～	194	104
115	自明治七年一二月至同八年四月　朝鮮始末　二	197	～	294	110
116	自明治八年四月至同年七月　朝鮮始末　三	297	～	474	114

［第115リール］

117	自明治九年至明治一五年　朝鮮始末続録	006	～	174	119
118	明治一五年　朝鮮事変始末　一	177	～	364	132

［第116リール］

119	明治一五年　朝鮮事変始末　二	006	～	192	148
120	明治一五年　朝鮮事変始末　三	195	～	437	166

［第117リール］

121	明治一五年　朝鮮事変始末　四	006	～	132	181
122	明治一五年　朝鮮事変始末　五	135	～	350	193
123	明治一五年　朝鮮事変始末　六	353	～	503	212

［第118リール］

124 明治一五年　朝鮮事変始末　七　006～166
125 明治一五年　朝鮮事変始末　八　169～314　236　226

［第119リール］

126 明治一七年　朝鮮事変始末　一　006～135
127 明治一七年　朝鮮事変始末　二　138～269　257　247
128 明治一七年　朝鮮事変始末　三　272～402　268
129 明治一七年　朝鮮事変始末　四　405～550　279

［第120リール］

130 自明治一五年至同一八年　公文別録　仏清事件　一　006～230　290
131 自明治一五年至同一八年　公文別録　仏清事件　二　233～416　300

［第121リール］

132 自明治一五年至同一八年　公文別録　仏清事件　三　006～247　311
133 自明治一五年至同一八年　公文別録　仏清事件　四　250～485　320

［第122リール］

134 自明治一五年至同一八年　公文別録　仏清事件　五　006～267　325

［第123リール］

138　大正五年　公文別録　南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件　006～277

［第124リール］

139　韓国併合に関する書類　006～299

※　各資料名の上の番号は簿冊番号。

［国立公文書館所蔵］

公文別録　第四期　総目録

（第107リール～第124リール）

目録凡例

一　本目録は国立公文書館所蔵「公文別録」（マイクロフィルム）の目録である。

二　各簿冊の名称は、原則として表紙の記述に従った。

三　件名の番号および件名は原則として原本各簿冊の目次をそのまま採用した。但し簿冊冒頭に目次が見当たらないものがあり、その場合は編者において適宜表題を付した。また、簿冊目次の表記が不充分と判断した箇所についても適宜補っている。一件の中に複数資料がある場合、原則として番号（アラビア数字）をふりその内容を明らかにした。その際の記載順序は、表題、作成者、受領者、年月日、内容の順である。

四　本目録では原則として各件名のはじまりのコマ番号を目録下段に表記した。なお、検索の便を図るため一件書類中の各書類にもコマ番号を付した場合がある。

五　各書類の題名は原題に依り、まま編者が適宜表記したものがある。

六　内容注記または添付資料等、説明ないし付属事項は、次行以降に一字下げて掲げた。

七　各書類の年月日は原則として資料の作成年月日を採用した。

八　年号表示は原則として元号表示「明治〇年」に統一した。明治五年までは太陰暦、明治六年一月一日からは太陽暦である。ただし、資料文中の表示が西暦のみの場合はそのままとしており、この場合月日も太陽暦による日付である。また、朝鮮・中国側の書類中で用いられる干支・元号もそのままとしている。

九　とくに［註］とことわり書きしたもののほか、（　）内も編者の註記である。

一〇　原本で旧体字を用いている場合、原則としていわゆる新字に置き換えた。原本の文言を生かす場合に歴史的仮名遣いを用いた場合がある。漢数字は原則として「〇、一、二、……九、一〇、一一、一二……」の表記に統一した。

一一　文書の作成者と受領者は原則として役職人名という表記に統一し、爵位等は省略した。

例　「内務卿山県有朋　太政大臣三条実美宛」

一二　上申や伺の書類中にそれに対する指令の書き込みがあるものについては、上申・伺の件名の直後に（付）として摘録した。

〔12〕

自明治一五年至同一六年　公文別録

外務省　一

（R107／006～172）

一　傭外国人バロン、シーボルトへ特別賜金の件　008

1　シーボルトへ銀貨一万円下賜に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月二九日

（付）上申の趣聞届　明治一五年八月一日

太政大臣三条実美書翰案　バロン、フォン、シイボルト宛　明治一五年八月一日

2　特別賜金の儀外務卿の上申通御裁可に付仰允裁　明治一五年七月三一日

（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一五年八月一日

二　海外機密費増加の件　012

1　機密金増額の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二七日

2　太政官密用費より三ケ年間毎年銀貨弐千円相渡　明治一五年一二月八日

3　外務省申請の通御允許可然に付副申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月三〇日

4　回議書　明治一五年一一月一七日

5　第一局上申　明治一五年一一月一四日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一五年一二月八日
6　太政官密用費より御下附分請求手続に付照会　外務大書記官宮本小一　内閣書記官宛
明治一五年一二月一二日
7　宮本外務大書記官へ回答案　書記官　明治一五年一二月一四日

三　海外機密費別途下付の件　018
1　海外機密金別途御下付の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一〇日
（付）上申の趣聞届　明治一六年二月二四日
2　外務省上申の義御聴許方上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一六日
3　回議書　明治一六年二月二〇日
4　第一局上申　明治一六年二月一九日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年二月二四日

四　下ノ関償金米国政府より返還の件　022
1　元治元年英米仏蘭四国と条約の際授受の下之関償金米国政府より逐々返還に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月二一日
（付）上申の通　明治一六年四月二七日

米公使来翰訳文　駐日合衆国公使ジョン、ヱ、ビンガム　井上外務卿宛　一八八三年四月一九日

日本償金資本に関するアメリカ合衆国上下両議院議決　一八八三年二月二二日認可

2　奏聞書　明治一六年四月二六日
3　回議書　明治一六年四月二四日
4　第一局上申　明治一六年四月二四日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年四月二七日

五　下ノ関償金の内より米国人バチヱルドル氏并ケース商会へ給与金の件

1　米金を以てバチヱルドル氏並ケース商会へ給与交付方上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一六年六月九日
（付）上申の趣聞届　明治一六年六月一三日
2　回議書　明治一六年六月一一日
3　第一局上申　明治一六年六月一一日
（付）外務省へ御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年六月一三日
4　下ノ関償金既に大蔵省へ交付に付払出方至急大蔵省へ御達相成度上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年五月一四日
（付）上申の趣大蔵省へ相達　明治一六年五月一八日
5　回議書　明治一六年五月一六日

6　第一局上申　明治一六年五月
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年五月一八日

六　在澳国維也納府大学博士スタインへ手当金給与の件　038
1　スタイン手当金費用別途御下付方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月一九日
（付）上申の趣大蔵省へ相達　明治一六年一一月二日
2　回議書　明治一六年一〇月二六日
3　第一局上申　明治一六年一〇月二六日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年一一月二日
4　スタインへ年額弐千円外務省より給与方上申　参議伊藤博文　在澳国大使館上野全権公使宛　明治一六年一一月八日

七　長崎県に於て巡査鴉片吸食の清国人拿捕に付具状の件　042
1　鴉片吸食の清国人拿捕の件に付関係書類差進並に事実取調の為名村司法大書記官及犬養検事出張方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月四日
（1）清国公使との往復書翰写
甲号　清国公使来翰　大清欽差大臣黎庶昌　井上外務卿宛　光緒九年八月二七日
（付）代理長崎正理事官郭万俊往来照会文・稟詞・東西医生検屍書・口述書六名分
乙号　清国公使への返翰　外務卿井上馨　大清国特命全権公使黎庶昌宛　明治一

六年九月二九日

乙号附属　取調書等書類綴

事件顛末に付上申　新地警察署長警部風間由美雄　長崎県令石田英吉宛　明治一六年九月一九日

事件経過報告・検事へ送付状・警部補稲次正足報告書・巡査江口峰吉他三名報告書・江口峰吉手続書・巡査原田熊次郎手続書・巡査宮津吾八手続書・巡査診断書・巡査岡崎謙次郎手続書・巡査峰進手続書・同診断書・巡査重松三郎手続書・巡査小川省次郎手続書・巡査道元常四郎他六名手続書・清国領事より報知の氏名書・雇宮川愛次郎手続書・証拠品目録・所持品目録・参考書・警部補稲次正足報告書・清国人魏亦娥診断書・黄紅弟他三名診断書・上申書

丙号　清国公使来翰　大清欽差大臣黎庶昌　井上外務卿宛　光緒九年九月二日

(2)寺島宗則前外務卿と清公使何如璋の往復書翰写

清国公使への書翰　外務卿寺島宗則　大清国特命全権公使何如璋宛　明治一一年一月二九日

清国公使よりの返翰　大清欽差大臣何如璋　大日本外務卿寺島宛　光緒四年正月六日（明治一一年二月七日）

清国公使への書翰　外務卿寺島宗則　大清国特命全権公使何如璋宛　明治一一年六月二七日

(3)開港場府県へ達　外務卿寺島宗則　開港場府知事県令宛・東京府知事・川路大警視宛　明治一一年九月二四日

（4）明治八年九月四日大日本署理欽差大臣鄭より大清欽命総理各国事務王大臣へ照会抜粋

2　御覧書　明治一六年一〇月一九日

3　回覧書　明治一六年一〇月四日

八上　米国人ハウス氏の功労に報酬し年金給与の件　156

1　米国人ハウス氏へ年金給与の儀に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月二九日

（付）上申の趣聞届　明治一六年一二月二一日

甲号　ハウスへ内翰案　井上馨　イ、ヱチ、ハウス宛　明治一六年一一月

乙号　特別年金給与証書　外務卿井上馨・大蔵卿松方正義　明治一六年一一月

2　回議書　明治一六年一二月三日

3　第一局上申　明治一六年一二月

（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年一二月二一日

4　外務省上申米国人への給与金支出方御達替相成度儀に付上申　大蔵卿松方正義　明治一六年五月二九日

（付）伺の趣聞届の旨御指令　明治一六年六月一三日

5　ハウス氏特別年金現住地の公使館・領事庁を経て渡方取計の儀照会　大蔵省総務局長渡辺国武　内閣書記官長小牧昌業宛　明治二二年三月四日

6　大蔵省へ回答案　内閣書記官長　大蔵省総務局長宛　明治二二年三月

7　ハウス氏特別年金本年六月分より外務省を経て交付の手続に変更方通知　大蔵省総務局

長渡辺国武　内閣書記官長小牧昌業宛　明治二二年三月二九日

8　ハウス氏特別年金交付方変更の件供高覧　会計局　明治二二年四月一九日

9　特別年金給与証書　外務卿井上馨・大蔵卿松方正義　明治一六年一一月

10　大蔵省へ御達案　明治一六年一二月二一日

自明治一五年至同一六年　公文別録

〔13〕　外務省　二　（R107／175～310）

八下　朝鮮国王世子冠婚の賀儀として御親書并物品贈進の件　178
1　朝鮮国王世子冠婚の賀儀として御国書并に物品を御贈進相成度義上申　外務卿井上馨　左大臣熾仁親王宛　明治一五年四月一八日
（付）上申の通　明治一五年四月二五日
御国書案　明治一五年
2　贈呈品目録案
3　昨九日国王世子加冠の礼挙行に付在朝鮮京城公使館報告　明治一五年三月九日
4　裁可書　明治一五年四月二四日
5　回議書　明治一五年四月二一日
6　外務卿上申の通御裁可可然に付伺
（付）御指令案　明治一五年四月二五日
九　朝鮮国王世子冠婚の賀儀として御贈品受取方の件　187
1　朝鮮国王へ御贈進の山砲並小蒸気船請取方何れへ引合可然哉伺　外務卿井上馨　左大臣

熾仁親王宛　明治一五年五月六日
（付）請取方陸海両省へ引合ふへし　明治一五年五月二〇日
2　回議書　明治一五年五月一〇日
3　第一局上申　明治一五年五月九日
（付）御指令按および陸軍省へ御達案按・海軍省へ御達案按　明治一五年五月二〇日

一〇　朝鮮国南陽麻山浦は開港場に不適当に付仁川港に定め渡航通商等差許方の件　1901

1　麻山浦開港に不適当に付仁川港に相定め明年三月以後我人民渡航通商差許方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月八日
（付）上申の趣聞届　明治一五年一二月二六日
（付箋）図面写中に付出来次第差進　外務省公信局　明治一五年一二月八日
天城艦南陽湾内測量到底開港には不適当に付具状　臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一五年一一月一六日
2　外務卿上申に添へき南陽湾実測絵図謄写差進　公信局長浅田徳則　内閣書記官宛　明治一五年一二月一九日
（付）朝鮮国忠清道南陽錨地略測図
3　回議書　明治一五年一二月一二日
4　第一局上申　明治一五年一二月九日
（付）御指令案および海軍省へ御達案　明治一五年一二月二六日

一一　朝鮮国政府より体恤金収入并金員分配方の件

1　朝鮮事件の遭害者遺族・負傷者への体恤金五万円当省受取に付分配方の儀御指令相成度上申
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二三日

（付）分配方の儀は大蔵省見込取調可申出　明治一五年一二月二六日

2　回議書　明治一五年一二月二五日

3　外務省上申の儀御指令に付伺

（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一五年一二月二六日

4　遭害者へ恤金分配方の義上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一四日

（付）銀貨五万円分配見込書
済物浦条約抜粋

5　奏聞書　明治一六年二月二四日

6　回議書　明治一六年二月一九日

7　外務省取調上申の通御裁決に付伺

（付）堀本礼造・佐川晃下賜金御達案　明治一六年二月二八日
外務省へ御達案・陸軍省へ御達案・大蔵省へ御達案　明治一六年二月二八日

8　朝鮮政府よりの収入并支払順序等未た本院へ何等通知無之陸軍省会計検査上差支に付照会
会計検査院検査官長岡義之　第一局内閣書記官井上廉宛　明治一六年八月一八日

（付箋）本件は御局にて処理相成候儀に付書類回付　第一局　内閣書記官局宛　八月二四日

9　故堀本礼造・岡内恪・池田平之進遺族扶助料下賜方達　太政大臣三条実美　陸軍省宛
明治一六年二月二八日
（付）扶助料内訳
10　遺族扶助料として銀貨壱万六千円本省払出切符を以て引渡　外務卿井上馨　陸軍卿大山巌
宛　明治一六年三月二日

一二　朝鮮国政府より体恤金分配残金処分方の件
1　恤金残額壱万弐千円朝鮮政府へ御進贈の千代田形修補費用に充当方上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一四日
（付）上申の通　明治一六年三月六日
2　御覧書　明治一六年三月五日
3　回議書　明治一六年二月一九日
4　外務卿上申の通御裁決に付伺
（付）御指令案　明治一六年三月六日
（付箋）本件は前日御指令の後外務卿上申引替に付改案更に仰御裁可
5　朝鮮政府へ千代田形艦御進贈の儀当分御差止方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一六年七月一七日
（付）上申の趣聞置　明治一六年八月二三日
6　外務省上申の通御聞置可然に付伺　明治一六年八月九日
（付）御指令按　明治一六年八月二三日

一三　朝鮮国仁川港常備軍艦下ノ関へ往復度数増加の件　229
1　朝鮮政府の事情・在朝鮮清官の挙動詳悉の為仁川港常備軍艦下ノ関往復度数増加並に費用別途支給方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二日
（付）伺の趣聞届　明治一六年二月一〇日　立田革書翰　井上大書記官宛　二月三日
2　回議書　明治一六年二月六日
3　第一局上申　明治一六年二月五日
（付）御指令案および海軍省へ御達案　明治一六年二月一〇日

一四　朝鮮国公使館警備兵中一中隊引揚方の件　234
1　朝鮮国形勢既に鎮静に付護衛兵一中隊引揚方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年七月三日
2　奏聞書　明治一六年七月五日
3　回議書　明治一六年七月三日
（付）陸軍省へ御達案　明治一六年七月五日

一五　朝鮮国蔚（ママ）陵島へ渡航の者召還方の件　237
1　数百の御国人猶潜行し伐木漁採に従事に付軍艦乃至警部巡査を派遣し無洩召還方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年九月六日

（付）上申の趣は内務省と協議取計へし　明治一六年九月八日
朝鮮国蔚陵島へ渡航者取調の件具申　山口県令原保太郎代理山口県大書記官近藤幸止　外務卿井上馨・内務卿山田顕義宛　明治一六年八月二〇日
松島景況書　萩警察署詰巡査横谷佐一　明治一六年八月一六日
2　回議書　明治一六年九月七日
3　第一局上申　明治一六年九月七日
（付）御指令案および内務省へ御達案　明治一六年九月八日

一六　朝鮮国に於て日本国人民貿易規則及税目設立の顛末外務卿復命の件　246
1　朝鮮国に於て日本人民貿易規則及税目設立の儀に付同国政府全権大使と会同議定の顛末復命書差出方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月二六日
（付）朝鮮国に於ける日本人民貿易規則及税目等議定復命書　外務卿井上馨　明治一六年一〇月一一日
朝鮮国に於て日本人民貿易規則・朝鮮国海関税目・通商章程続約・約定したる朝鮮国海岸に於て犯罪の日本国漁民取扱規則
2　御覧書　明治一六年一一月一三日
3　回覧書　明治一六年一〇月二九日

一七　朝鮮国に向ひ輸出する西洋品輸入税下戻の件　291
1　外国製産にして我邦に輸入し輸入税を既納したる物品を朝鮮に向て輸出する時は輸入税の返

還方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年九月
（付）上申の趣聞届　明治一六年一一月二二日
2　副書無之御照会に付き副書壱通差出　公信局長外務権大書記官浅田徳則　内閣書記官宛
明治一六年一一月二一日
3　外務省上申に付当省意見御問合に付回答　大蔵卿松方正義　外務部長参事院議官山口尚芳
宛　明治一六年一〇月九日
4　外務省上申参事院勘査進呈に付回議書　明治一六年一一月九日
5　第一局上申　明治一六年一一月八日
6　参事院審査報告　参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月二七日
（付）指令案

一八　朝鮮国政府より償還の填補金年賦約定の件　302
1　填補金年賦の儀に付朝鮮修信使と約定方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明
治一五年一一月一日
（付）約定文　填補金五拾万円十ケ年賦にて毎年五万円分五月一一月の両次に支弁
2　御覧書　明治一五年一二月七日
3　回覧書　明治一五年一一月二日
（付）外務省上申心得方大蔵省へ御達案　明治一五年一二月八日

一九　朝鮮国政府償還金納付方の件　306

1　朝鮮政府の填補金本年分墨銀五万弗受渡相済み到達に付該金納付方上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月一二日
（付）該金額は大蔵省へ納付すへし　明治一六年一〇月二〇日
2　回議書　明治一六年一〇月一三日
3　第一局上申　明治一六年一〇月一三日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年一〇月二〇日

自明治一七年至同一八年　公文別録

〔14〕　外務省　三　（R107／313～533）

一　行政規則改正を請ふの件　316
1　条約改正に方り我行政諸規則中改正を要すへき規則有之に付改正増損の手続方上請　司法卿山田顕義・外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月一三日
（付）別紙意見書の旨趣に依り改正案起草差出へし　明治一八年九月一一日
行政規則取調意見書
2　回議書　明治一八年七月二四日
3　意見書主意に基き改正等起案上申方御指令に付仰閣議
（付）御指令按　明治一八年九月一一日

二　朝鮮国釜山港我居留地を外国人雑居地となすの件　329
1　朝鮮国釜山港我居留地を外国人雑居地となすの義に付上申　外務卿代理参議伊藤博文　太政大臣三条実美宛　明治一七年二月六日
（付）伺の通　明治一七年二月二一日
島村臨時代理公使へ訓状案

甲案　朝鮮国釜山港居留地外国人雑居約定案
乙案　朝鮮国釜山港居留地内各国人居住規則
2　奏聞書　明治一七年二月一九日
3　回議書　明治一七年二月九日
4　第一局上申　明治一七年二月九日
（付）御指令案　明治一七年二月二一日
三　布哇国へ人民移住に付同国公使へ回答案の件　342
1　井上外務卿書翰　松方・川村・佐々木諸参議宛　四月二二日
布哇国へ移住民の儀別添同国公使への回答案に付御意見無之候はは御鈐印有之度
（付）布哇国公使への回答案
四　朝鮮国釜山港領事館付属医院廃止の事　346
1　朝鮮国釜山港領事館付属医院廃止の義上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月二五日
（付）伺の趣聞届　明治一八年八月二四日
2　大蔵卿へ御照会案　第一局　明治一八年八月一一日
3　外務省上申に付審按御聴許可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年八月一三日
4　回議書　明治一八年八月一五日

5　第一局上申案　明治一八年八月一五日
（付）御指令案　明治一八年八月二四日

五　米国政府より下ノ関償金返還に対する報酬として同公使館所用地無代永久貸与の件　353
1　米国政府の下ノ関償金償還に対し報謝として私有地を買上米国公使館に無地代無貸料にて貸与方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月一六日
（付）伺の趣聞届　明治一八年四月二四日
2　大蔵卿へ御下問案　第一局　明治一八年四月一七日
3　外務卿請求の件審案御裁可の上該国返還金の内より支出取計方上答　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月一八日
4　回議書　明治一八年四月一七日
5　第一局上申書案　明治一八年四月一七日
（付）御指令案　明治一八年四月二四日

六　瑞西国政府に於て設立の赤十字社へ加入の件　359
1　瑞西国政府に於て設立の赤十字社に我政府も加入方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月三日
（付）加入内問合方取計ふへし　明治一八年七月二五日
赤十字社の儀に付調査　軍医監橋本綱常
赤十字社規則

2　裁可書　明治一八年七月二〇日
3　回議書　明治一八年七月八日
4　外務省上申の儀外務卿より加入内問合可然に付仰高裁
（付）御指令案　明治一八年七月二五日

七　雇外国人バロン、シイボルトへ恩賜金授付上に関する約款中削除の件　370
1　シイボルト氏へ銀貨壱万円下賜の儀上申書中不穏当の一章取消至急御允許方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年八月三日
（付）上申の趣聞届　明治一八年八月一九日
2　会計検査院及大蔵省へ通牒案　明治一八年八月二〇日
3　回議書　明治一八年八月八日
4　外務省上請妥当に付聞置方伺
（付）御指令按　明治一八年八月一九日
（参照）明治一五年七月二九日外務卿井上馨上申および八月一日御指令

八　海外留学生派遣因て一九年度以降経費増額を請ふの件　376
1　学生特選留学申付度一九年度より全額の費用御下附方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月二五日
（付）経費増額の儀は予め難聞届　明治一八年八月二四日
2　大蔵省へ御照会案　太政大臣　大蔵卿松方正義宛　明治一八年七月二九日

3　外務省上申の件審案一九年度以降増額の請求は予め御聴許難相成に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年八月一〇日

4　一八年度費用の儀に付ては何分の御沙汰無之に付御照会　会計局長外務大書記官吉田二郎内閣書記官宛　明治一八年八月二六日

5　外務書記官へ回答案　内閣書記官　会計局長外務大書記官吉田二郎宛　明治一八年八月二九日

6　回議書　明治一八年八月一五日

7　第一局上申案　明治一八年八月一五日

（付）御指令案　明治一八年八月二四日

8　検査上要用に付明治一八年七月中外務卿上申海外留学生派遣費用の件書写至急御送付方御照会　河野会計検査院書記官　内閣書記官宛　明治二三年七月一一日

九　英国船エーダ号南洋マルシヤル群島航行の際漂着せし日本船の水夫殺害せられたる等聞知の件　386

1　マルシヤル群島にて漂着の日本水夫殺害・船舶焼却の報知有之神奈川県令并当省官員よりエーダ号船長并水夫へ推問に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年七月二三日

（付）池田吉松他八名に対する訊問調書　明治一七年七月一九日

英国船エーダ号船長ハーデー氏尋問筆記

2　御覧書　明治一七年八月五日

3　回覧書　明治一七年七月二四日

一〇　外務省御用掛後藤猛太郎南洋マルシヤル群島視察報告の件

1　水夫虐殺の事実取調景況視察の為め派遣の後藤猛太郎帰朝復命事件は此上査究するを止め姑く不問に付せられ候方得策に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年

（付）マルシヤル群島人種及人口多少・同島の風俗慣習
ラエ島に於て日本人遭害の始末
マルシヤル群島の方向箇数及距離・同島の気候並に晴雨の多少・同島地質の厚薄並に草木の種類
マルシヤル群島物産の種類及多寡・同島欧米其他各国との関係・同島貿易の実況（外国船舶出入の概数及輸出入物品並其概数）・島主と各島酋長との関係並に島主権限
マルシヤル群島港湾地形及其位置

2　御覧書　明治一八年九月一八日

3　回覧書　明治一八年四月二九日

一一　青木外務大輔公使にて伯林在勤の節ビスマルク公と国債募集の儀に付談話の写稟申の件

〔本文なし〕

〔15〕

自明治一七年至同一八年　公文別録

外務省　四

（R108／006～150）

一　在外公使館在勤書記官妻携帯費の件　008

1　御裁可済の在外公使館在勤書記官妻携帯費の儀実際不都合の廉有之に付更に改正実施方上申
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年八月二一日
（付）上申の趣聞届　明治一八年九月一一日
公使領事以下官員年俸表

2　在外公使館在勤書記官妻携帯費の件并清国及朝鮮国在留我邦人民取締の儀参事院へ御下付
第一局　明治一八年八月二四日

3　外務省上申の件参事院勘査進呈に付回議書　明治一八年九月三日

4　第一局上申案　明治一八年九月二日

5　参事院審査報告　参事院副議長山尾庸三　太政大臣三条実美宛　明治一八年九月一日
（付）指令案　明治一八年九月一一日
（参照）公使領事以下官員年俸表

二　布哇国派遣井上勝之助復命書　016

1　布哇国へ出張の井上勝之助より復命書差出に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一八年九月二六日
（付）復命書　大蔵権少書記官兼外務権少書記官井上勝之助　外務卿井上馨宛　明治一八年八月
第壹号　復命書附属書類　在布哇国本邦出稼人状況視察報告
第二号　復命書附属書類　布哇国外務卿へ照会往復書
第三号　復命書附属書類　布哇国外務卿と井上理事官対話大意
第四号　復命書附属書類　布哇国外務卿より我外務卿宛公簡写
2　御覧書　明治一八年一〇月三〇日
3　回覧書　明治一八年九月二八日

三　黒田内閣顧問支那地方遊歴中清仏交戦に付台湾封口禁制品検査の実況其他の件
1　清仏交兵台湾封鎖及戦時禁売品検査の概略并亜細亜東部各港里程調供台覧　内閣顧問黒田清隆　太政大臣三条実美宛　明治一八年一一月六日
（付）図目録
清仏交兵台湾封鎖及ひ戦時禁売品検査の概略
亜細亜東部各港里程調
2　御覧書　明治一八年一二月八日
3　回覧書　明治一八年一一月九日

四　汽船一艘を雇入本省書記官并警部巡査等を朝鮮国へ派遣の件

1　在留本邦人取締の為め巡査二拾名警部数名当省書記官一名を朝鮮国へ派遣方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年一二月一五日　144

（付）別紙甲号　金玉均所在の確査拘引要請の旨李鴻章電報

別紙乙号　漢城日兵乱党に付取締要請の旨電報

2　回議書　明治一八年一二月一五日

3　外務省伺の儀御允許に付伺

（付）御指令案および内務省へ御達案　明治一八年一二月一五日

自明治一三年至同一六年　公文別録

〔16〕

条約改正一件

（R108／153～428）

一　条約改正草案の事（昭和一八年一一月一三日引渡）　156
1　外務省上申条約改正草案裁可書　明治一三年六月五日
2　条約改正草案并関係書類回議書　明治一三年五月二六日
3　外務省取調の通御聴許に付仰高裁　外務部参議　明治一三年五月二五日
（付）上申の通の旨御指令案　明治一三年六月七日
4　条約改正草案進呈の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美　明治一三年五月二〇日
（付）条約改正草案并関係書類　拾三冊
日本及大不列顛修好条約并に附録覚書草案
日本及大不列顛両国間通商及航海条約草案
日本及大不列顛両国間通商及航海条約附録第一号
内達　外務卿井上馨　特命全権公使森有礼宛　明治一三年五月
内達　外務卿井上馨　青木・鮫島・柳原・長岡他宛　明治一三年五月
税関規則草案
日本港噸税規則

船税説略
擬定輸入税目
輸入税率
横浜港則草案（付　横浜港図）
費歩一定説明
各国輸入税率比較表

二　英国駐箚特命全権公使森有礼英国外務次官と条約改正談判　377
1　森有礼英国外務次官と条約改正の儀に付談判の次第上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一三年五月一三日
（付）一八八〇年三月一五日英国外務省に於て森氏とポンスホート氏との面談

三　特命全権公使森有礼より条約改正に関する報告　383
1　条約改正一件に関し森全権公使より申越に付上申　外務卿代外務大輔上野景範　太政大臣三条実美宛　明治一三年八月七日
（付）森全権公使より外務大輔ヂルク氏との面談大要報知の別信第四拾壱号の抜粋（六月一一日付）

四　条約改正予議会に於て我政府より提出の改正条款承諾の旨米国公使通報　387
1　条約改正予議会に於て我政府より提出の改正条款承諾の旨米国公使申越に付上申　外務卿

井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二四日
（付）在東京合衆国公使館ジョン、ヱ、ビンガム書翰　外務卿井上馨宛　一八八三年二月二六日
2　御覧書　明治一六年四月一〇日
3　回覧書　明治一六年三月二六日
五　榎本全権公使へ清国条約改正の儀訓示　392
1　明治六年日清条約満限に付改正希望通知の旨在清榎本公使へ訓示条約改正の義各政府よりの回答を待て清政府へ談判方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二四日
2　回覧書　明治一六年三月二七日
六　瑞典諾威政府条約改正に付意見書　394
1　我政府発議に対し瑞典諾威政府の意見同国弁理公使より申越に付進達　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月二日
（付）機密第八号　在横浜瑞典諾威公使館ハン、デル、ポット書翰　外務卿井上馨宛　一八八三年一〇月二五日
2　回覧書　明治一六年六月
七　在伊国浅野全権公使同国外務卿と条約改正談判筆記　400

1　在伊国浅野公使と同国外務卿マンチニー氏と談判好都合に相運候趣にて談判筆記差越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月二八日
（付）第一九号機密信　特命全権公使浅野長勲　外務卿井上馨宛　明治一六年九月二九日
別紙第甲号　一八八三年九月二七日伊国に於て浅野公使と伊国外務卿マンチニー氏との応接筆記
別紙第乙号　覚書
2　高覧書　明治一六年一一月二九日

八　条約改正に付英国政府の意見探偵書　418
1　今般英国政府より内々得候趣にて覚書差越に付上申　外務卿代理参議伊藤博文　太政大臣三条実美宛　明治一七年二月四日
（付）条約改正案に対する英国政府の意向見込に付覚書　外務省　一八八三年一二月一一日
2　回覧書　明治一七年二月五日

九　在独国青木全権公使より条約重修事件に付電報　423
1　条約重修事件に付在独青木全権公使より電報有之に付進達　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月二七日
（付）在独国青木公使より終期条款に対し英国政府の承諾を得たる旨独国政府の照会ありと

2　高覧書　明治一六年一一月二八日　井上外務卿宛　明治一六年一一月二五日の来電訳

〔18〕

自明治一五年至明治一六年　公文別録

内務省　二

（R109／009～220）

一　在馬関内務少書記官檜垣直枝より朝鮮国鬱陵島近況報告の件　011

1　鬱陵島近況報告差進　警保局長勝間田稔代理内務大書記官西村捨三　内閣書記官宛　明治一六年一〇月一二日

（付）鬱陵島渡航次第報告　檜垣少書記官　勝間田警保局長宛　明治一六年一〇月五日

御受書　幸田治三郎・松田与三郎　内務少書記官檜垣直枝宛　明治一六年一〇月五日

蔚（ママ）陵島出稼人演談筆記

2　高覧書　明治一六年一〇月一二日

二　檜垣内務少書記官より鬱陵島在住我国人民と共に馬関へ帰着の件　018

1　檜垣少書記官より電報に付上申　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月一六日

（付）鬱陵島より御国人民二五四名を連れ唯今馬関到着の旨電報　檜垣少書記官　明治一六年一〇月一五日

2　内務省上申回覧書　明治一六年一〇月一六日

三　在蔚陵島朝鮮国人民へ米苞給与の件　021

1　蔚陵島出張檜垣少書記官より伺出に付御聞届方上請　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月九日

（付）上請の趣特例を以て聞届　明治一六年一二月一〇日

在蔚陵島朝鮮国人へ給与の米苞代金出張費中用意金より御下渡方伺　内務少書記官檜垣直枝　内務卿山田顕義宛　明治一六年一一月一日

領収書　越後丸事務長補助片山常雄　内務省宛　明治一六年一〇月一六日

白米二五石受領証　朝鮮国鬱陵島長全錫奎　日本内務省書記官檜垣直枝宛　癸未九月一四日

2　回議書　明治一六年一一月二〇日

3　第一局上申書　明治一六年一一月二〇日

（付）御指令案　明治一六年一二月一〇日

四　山口兵庫両県令へ在馬関檜垣内務少書記官蔚陵島より引致の人民交付方の件　027

1　在馬関檜垣少書記官より電報に付上申　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月一六日

（付）山口兵庫両県令へ小官より引渡す人民を受取へき旨伝達ありたき旨檜垣少書記官電報　明治一六年一〇月一六日

2　回覧書　明治一六年一〇月一八日

五　朝鮮国蔚陵島出張檜垣内務少書記官復命の件

1　少書記官檜垣直枝儀客月二六日帰朝復命書差出に付上申　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一一月一二日　030

（付）蔚陵島出張復命書　内務少書記官檜垣直枝　明治一六年一一月

別紙第一号　伝令　鬱陵島長全錫奎　癸未七月

別紙第二号　願書　大日本人民在島人惣代（昇栄組兼旭組長林尚史・永井組長松尾巳之助・東京組長代理藤井孫二郎・森重組長森重与助・丸一組長高橋式蔵）　内務省少書記官檜垣直枝宛　明治一六年一〇月八日

別紙第三号　一〇月七日蔚陵島着幼学裴忠隠と応接筆記

別紙第四号　鬱陵島地図

別紙第五号　一〇月一四日蔚陵島へ廻航本船にて島長全錫奎幼学裴忠隠と応接筆記

甲号書契　開国四九二年九月

乙号書契　島長全錫奎　開国四九二年九月

丙号書契　朝鮮国鬱陵島長全錫奎　日本内務省書記官檜垣直枝宛　癸未九月一四日

甲号　蔚陵島より帰国人民二四三名本県赤間関にて引渡書　山口県令原保太郎　内務省少書記官檜垣直枝宛　明治一六年一一月七日

山口県へ交附分名簿・鬱陵島渡航経緯調書・死亡診断書

乙号　蔚陵島渡航三名請取書　兵庫県令森岡昌純　内務省少書記官檜垣直枝宛
明治一六年一〇月二三日
鬱陵島渡航経緯調書
丙号　蔚陵島より召連の御国人民九名請取書　警視総監樺山資紀　内務省少書記官
檜垣直枝宛　明治一六年一〇月二七日
鬱陵島渡航経緯調書
2　回覧書　明治一六年一二月二四日
3　内務省上申供高覧　第一局　明治一六年一二月二二日

六　新潟県下中頚城郡川谷村に於て雪なでの為め圧死者あり及石川県警部小倉信近を暗撃せし者逮捕の件　196
1　新潟県令永山盛輝及石川県警部長渡辺信介より電報に付供電覧　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月一六日
（付）雪なでの為め中頚城郡川谷村の三十余人圧死の旨新潟県令より電報　三月一五日
石川県警部小倉信近暗撃の犯罪者本日逮捕に着手の旨石川県警部長より電報　三月一五日
2　高覧書　明治一六年三月一六日

七　岐阜県下地方費徴収に関する件　202
1　岐阜県下地方費徴収に関する景況申出に付上申　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛

明治一六年二月三日

（付）県下東濃地方土木費徴収に関する現今の概況　岐阜県令小崎利準　内務卿山田顕義宛　明治一六年一月二六日

2　電覧書　明治一六年二月五日

3　岐阜県治水費不納者処分方の儀県令より具申に付供電閲　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月五日

（付）県下治水費不納者処分具申書　小崎岐阜県令　山田内務卿宛　二月四日

4　電覧書　明治一六年二月五日

5　岐阜県下治水費徴収に付申出に付上申　内務大輔土方久元　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一四日

（付）尓後各郡村とも漸次完納最早未納の町村も無之に付報知　岐阜県令小崎利準　内務卿山田顕義宛　明治一六年二月九日

6　高覧書　二月一五日

〔86〕　北海道事件　一　（R110／009～180）

一　独乙北部連邦公使フォンブランドより副島参議に贈る蝦夷地殖産の意見書　012
1　蝦夷地にて穀物・菜種・麻・蚕子・煙草・野菜・牛豚の養産就中農業或は畜牛をなすべき旨意見書翻訳文　独乙北部連邦公使フォンブランド　副島参議宛
二　波戸場建築事件等に付露国往復書並対話書写　026
1　対話書
（1）酸屋詰飯島三郎より申出候次第　明治三年三月九日
（2）魯シワンの使リセツニク口上　三月二七日
（3）竹田中通訳生を使シワンへ申入候次第　四月三日
（4）竹田中通訳生申入およびシワン応答　四月八日
（5）魯ポウコーニクの話　四月九日
2　往復書翰
（1）プレラドウェチ書翰訳文　一八七〇年三月二七日
（2）岡本監輔返書　明治三年四月一一日

（3）プレラドウェチ書翰訳文　一八七〇年五月九日
（4）岡本開拓判官返翰　明治三年五月二日

3　対話書
（1）ゼチコフ・ハノウと小実（チベシヤニ）留守少主典応接対話　明治三年五月
（2）陸軍次将の使オゴリフ申入および返答覚書　明治三年五月八日

三　函館在留孛国人ガルトネル氏へ貸地七重村取戻処分

1　七重村地所の儀孛公使館・ガルトネル往復書及約定書一綴差進方書翰　外務省　佐々木参議宛　七月一七日
（付）ガルトネル氏へ貸渡の地所此方入用に付相当の御処分方要請　寺島外務大輔・沢外務卿　孛公使館宛　四月一五日
金七万五千弗日本政府より早々御払方希望　ガルトネル　一八七〇年三月二四日
地所開拓に付蝦夷政府とアル、ガルトネル氏の約定および蝦夷島開拓人員の掟則アル、ガルトネル・北日耳曼国国士シ、ガルトネル　一八六九年七月二四日
ガルトネルとの談判経過報告　開拓使　外務省宛　二月二日
賊徒より米国ライスへ貸渡の地所同国公使と談判の上取戻方御取計上申　開拓使　外務省宛　明治三年三月二日
仏蘭西商人ハーブル賊徒より借受の地所取戻に付ミニストルへ御掛合方上申　開拓使　外務省宛　明治三年三月二日

アル、ガルトネル手記　一八六九年一一月一九日
四　横浜孛公使館に於て副島参議寺島外務大輔露公使ビウツヲフと樺太経界に就き応接の大意（明治三年一一月二日）　063
五　横浜米公使館に於て魯政府への掛合に付寺島外務大輔米公使と応接の大意（明治三年一一月四日）　074
六　米国農学教師ケプロン外三人雇入並謁見手続　079
1　学術実地兼備の人を米国に依頼し開拓局顧問として採用方建議
2　農業局総裁ケプロンの経歴・人格
3　米国農業教師ケプロン外三人内謁見手続
七　開拓次官黒田清隆上書樺太を棄つるの議　明治六年二月　094
1　姑く忍して樺太を捨て彼に用るの力を移すべき旨建議　開拓次官黒田清隆　明治六年二月
（付）辰年より壬申一二月迄樺太州御入用請取調高
樺太州諸調概略
歩兵一大隊経費概略
ゴンボート艦一歳経費概略

八　英公使より差出す土地譲替取調書　129
1　欧米諸国間の戦争・代価・便宜供与等による土地取得の前例に付英国公使覚書

九　横浜諸新聞抜粋庫負島を露国に譲るの説　131
1　横浜諸新聞抜粋返進　宮内卿徳大寺実則代理宮内少輔杉孫七郎　太政大臣三条実美宛　明治八年七月三一日
2　横浜諸新聞抜粋　庫負島　七月八日
3　横浜諸新聞抜粋　日本　七月一〇日

一〇　膽振国諸郡略図　141
1　虻田郡略図・概略図記
2　有珠郡略図・概略図記
3　室蘭郡略図・概略図記
4　糸晃別郡略図・概略図記
5　白老郡略図・概略図記
6　勇払郡及千歳郡略図・概略図記

〔87〕　北海道事件　二　（R110／183～406）

一　樺太釜泊魯国人乱暴漁家焼滅一件書　185

1　釜泊漁番家焼滅及漁民殞命経過報告　東大主典　庶務掛宛　明治五年一月一〇日　186

（付）当月七日釜泊漁番家焼失に付レーキシウ証言　明治五年一月
当月七日釜泊漁番家焼失並焼死に付福松証言　明治五年一月七日
当月七日釜泊漁番家焼失並焼死に付弁助証言　明治五年一月七日
当月七日釜泊漁番家焼失並焼死に付福太郎証言　明治五年一月七日
当月七日釜泊漁番家焼失並焼死に付弁助妻みと証言　明治五年一月七日
当月七日釜泊漁番家焼失に付エエトナシロヲマンケシユ証言　明治五年一月八日
釜泊漁番家焼失に付八百蔵証言　明治五年一月七日
釜泊漁番家焼失三人横死に付不審の心付証言　釜泊番人頭福松・弁助　明治五年一月一〇日
福太郎御訴　明治五年一月八日
仮埋葬三人死骸検察報告　川村雅直　明治五年一月
魯国罪人所持の鎗並小刀検察報告　川村雅直　明治五年一月

2　釜泊番家焼失横死は賊の所為と見分方上申　東大主典・羽山少主典　明治五年一月一五日　217
3　往復書翰写　219
（1）権判官堀基書翰　魯国兵隊首長テーフレラードウィチ宛　明治五年五月八日
（2）サガリン島兵隊首長テープレラードウィチ書翰　権判官堀基宛　一八七二年六月一〇日
（3）権判官堀基書翰　ポツトポルコーフニツク宛　明治五年五月一八日
4　魯人吟味役人エリスキー殺害現場取調経過訳文　222
5　死骸見聞仕候趣御届申上候書付　庶務掛出仕太田次郎　明治四年九月　225
（付）御見分書　クテカネク・エンカ・伝兵衛　太田次郎宛　明治四年九月二九日
クテカネク・エンカ口書　太田次郎宛　明治四年九月二九日
支配人代小次三助届書　庶務御役所宛　明治四年九月二七日
市蔵身上書
6　釜泊事件往復書翰写　231
（1）カルサコフ陣営魯国兵隊首長エリスキ書翰　長谷部権判官宛　一八七二年二月三日
（2）東大主典書翰　横浜庶務宛　一月八日
（3）カルサコフ陣営より罪人共脱走事件に付吟味掛執頭ロスタプチン書翰　長谷部宛
（4）釜泊番家の図
（5）長谷部権判官書翰　魯国兵隊首長ロスタプチン宛　明治五年一月二八日

（6）権判官長谷部辰連書翰　魯国兵隊首長ロスタプチン宛　明治五年二月九日
（7）兵隊仮首長ロスタプチン書翰　権判官長谷部宛　一八七二年三月一四日
（8）権判官長谷部辰連書翰　魯国兵隊首長ロスタプチン宛　明治五年三月二三日
（9）ロスタプチン書翰　権判官長谷部辰連宛　一八七二年四月二六日
7　釜泊事件対話書（明治五年正月七日より二月一八日迄）　樺太応接掛　245
8　釜泊事件対話書（明治五年五月七日より六月一日迄）　284
9　魯国罪人取調記録写　313
（1）追放罪人エヒーモフ申述
（2）追放罪人ワルワレンコ申述
（3）追放人クリーモフ申述
（4）追放罪人コワリスキ申述
（5）下等士官テモフエエフ申述
（6）兵卒アレキサンヂルほか九名申述
（7）下役人ヒヨドル・ジヤチコフ申述
（8）焼失現場取調書　ロスタプチン
10　釜泊漁民横死者三人姓名　350
11　抜粋書　ロスタプチン　351

〔101〕

使鮮日記

（R111／009～075）

一　使鮮日記　〔明治八年一二月九日～明治九年三月四日〕

〔註〕江華島事件に付き正副全権弁理大臣及随行員任命から朝鮮国渡航・修好条規締結・帰朝に至るまでの日録

011

〔102〕　朝鮮巡行日誌　（R111／078～130）

一　朝鮮巡行日誌　嘻、咪、惹迷斯（ゼ・エム・ゼームス）著　水野行敏訳　原書

一八七一年

［註］アメリカ艦隊朝鮮遠征に際しイギリス蒸気艦インペロルの朝鮮巡航時の記録を船程日誌（一八六六年七月三一日～八月二九日）の形式でまとめたもの。（海軍省罫紙）

079

〔103〕

朝鮮事件　一

（R111／133～243）

一　宗対馬守に命して外国事務輔の心得を以て朝鮮国交通を掌らしむ
1　宗対馬守へ達　明治元年三月二三日　136

二　宗対馬守に命して王政一新万機親裁の旨を朝鮮国に通達せしむ
1　宗対馬守へ達　明治元年三月二三日
2　宗対馬守へ達　明治元年六月一五日　137

三　朝鮮国に関する事件は大坂外国官へ稟せしむ
1　宗対馬守へ達　明治元年五月一〇日　139

四　宗対馬守従来朝鮮国交際事務取扱に付官位昇進
1　宗対馬守へ達　明治元年六月二八日　140

五　厳原藩より朝鮮国へ派遣せし大差使応接手続書　141

1　去己六月厳原藩より差出の大差使応接手続書　外務省　161
六　朝鮮国取扱は従前の手続を以て厳原藩へ照会せしむ
1　外務省へ達および厳原藩へ達　明治二年一〇月一四日
七　外務省出仕佐田白茅建策　162
1　朝鮮への皇使として上位華族精選希望の旨佐田白茅書翰　明治三年三月下旬
2　三〇大隊を以て朝鮮を伐つべき旨佐田白茅上書　明治三年三月
3　佐田白茅建策二通送付書　集議院　太政官宛　明治三年四月
八　外務省出仕佐田白茅外二名朝鮮国交際始末内探書　175
1　朝鮮国交際始末内探書　佐田白茅・森山茂・斎藤栄　明治三年四月
（付）朝鮮国王奉書・朝鮮国礼曹呉徳泳と宗義達往復書翰など
九　外務省出仕斎藤栄建議　209
1　皇使を発遣し累年私交の謬例を正し兵権を以て国威を示すべき旨斎藤栄建議　明治三年四月
一〇　佐田直寛外二名建議　214
1　支那天主堂を毀ち仏英米の砲艦天津来航に付皇威の朝鮮を畏服する好機会に付建議　斎藤

知一・森山秀晃・佐田直寛　明治三年六月

一一　参議木戸孝允建策　215
1　朝鮮公理に服せさる時は我断然の決無かるべからず臣渡海の事に付木戸孝允伺

一二　吉岡弘毅外二名朝鮮国派遣に付見込案並書契案　219
1　見込書並書契案送付書　外務省　弁官宛　明治三年九月二三日
（付）朝鮮行手続書　吉岡弘毅・森山茂・広津弘信
贈物内訳および用金仕決書
書契案　外務卿沢宣嘉　朝鮮国礼曹判書宛　明治三年
書契案　外務大丞丸山作楽　朝鮮国東莱令・釜山令宛　明治三年

一三　厳原藩朝鮮国交際に付建言　233
1　書契改撰忌諱の字句除き承諾可致の文体を以て御新政通報方厳原藩建議
2　建言の旨御採用相成難く出張官員帰朝交際公書往復見合に付伺
（付）外務省御達
3　〔一三―2と同文〕

〔104〕

朝鮮事件　（一）

（R111／246～378）

一　内諭　明治四年三月　247

二　厳原藩より家役辞退願出の儀此節被聞食候様致度旨沢外務卿意見　明治四年五月二五日　250

三　厳原藩知事宗重正東京へ御召　明治四年五月二七日　253

四　厳原藩知事宗重正朝鮮国交通家役被免　明治四年八月五日　254

五　宗重正外務官員に被命渡韓方取計の旨外務卿・外務大輔意見　明治四年七月　255

六　宗重正外務大丞任命　明治四年七月二九日　256

七　外務大丞宗重正朝鮮国へ被差遣　明治四年八月四日　257

八　吉岡弘毅成功目的の大略として厳原藩家役辞表御採用相成藩士を官員中に撰任して其情和を図る等建言　広津弘信・小林匡　明治四年五月　258

九　米国軍艦朝鮮へ発程に付渡韓の上米艦の挙動韓都の消息等内探の経過報告　広津弘信　明治四年五月　261
（付）知事参事衆と協議決定の目途条々大略

一〇　朝鮮礼曹への書契並宗外務大丞へ委任状案に付伺　外務省　正院宛　明治四年八月一五日　264
（付）書契草案および案文　外務卿源具視　朝鮮国礼曹宛
委任状草案および案文

一一　朝鮮国へ改制報知の手順書並書翰案に付伺　外務省　正院宛　明治四年一〇月二七日　273

一二　朝鮮国へ改制報知の手順書並書翰案に付再伺　外務省　正院宛　明治四年一一月一三日　274

一三　宗大丞より朝鮮国への書翰並森山茂広津弘信よりの伺書等写差出　外務省　史官宛　明治四年一二月一九日　276
1　書契案　大日本国従四位外務大丞平義達　朝鮮国礼曹参判宛
2　書契案　大日本国従四位外務大丞平重正　朝鮮国東莱釜山両令宛
3　〔一三―1の草案〕

4　〔一三―2の草案〕
5　現官新印使用に御決定の上は彼れ頑愚を呈し候ときは対州士民を韓土より引揚の覚悟等条々上陳　広津弘信・森山茂　明治四年一二月
6　滞韓の吉岡弘毅へ米艦襲韓の節の如く御内諭書要請等条々上陳　広津弘信・森山茂　明治四年一二月
7　〔一三―1の日本文草案〕
一四　森山広津朝鮮差遣に付蒸気船借入方周旋の旨正院より長崎県・伊万里県へ御達案　明治四年一二月　三〇五
一五　朝鮮国尋交の義に付伊万里県へ御沙汰御達済に候哉伺　外務省　正院宛　明治四年一一月三日　三〇七
一六　宗外務大丞よりの申出至急御評決有之度申進　外務省　正院宛　明治四年一一月三日　三〇八
（付）御新政報知一日も猶予仕り難く且つ歳遣船公私貿易漂人受渡草梁館詰合士民の進退等何たる御指揮なく痛心の旨上申　宗大丞　本省宛　明治四年一一月
一七　吉岡弘毅より彼地引揚の情状申述に付商民の儀は自由にまかせるべき等の条々御裁決方上申　外務卿副島種臣　正院宛　明治五年七月二四日　三一二
（付）彼地に在る我士官率ひ帰らしむへき旨外務大丞宗重正より朝鮮在留館司役への諭示文草

案

一八　書契中の文言・派遣使節・漂民等をめぐる朝鮮国の処遇経過条々　外務省罫紙　316

一九　代官所随員引揚・館司身上等に付条々上申の旨在対州広津弘信よりの来翰　朝鮮往復課宛
明治五年七月二八日　320
（付）在韓館司深見六郎来翰（内密御用略書）　広津弘信宛　七月二二日
通事より伝語官宛覚書　壬申七月一九日

二〇　朝鮮滞在浦瀬好裕着京状由内話の趣差出　朝鮮課　330
（付）先般一行引揚後動静如何探索の為滞韓いたし居候内小通事崔在守と申者より私席対話の
砌聞認候概略　浦瀬好裕　明治五年八月三日

二一　朝鮮海域附近米露中各国交通に付覚書（漢文）　342

二二　草梁館接収に際し在館士官・歳遣船・歳遣滞品・対州滞居漂民等の処置方針条々（断簡）
明治五年八月一〇日　344

二三　隣交始末物語句解　享保一六年八月　346

〔105〕　朝鮮事件　（二）　（R112／006～117）

一　朝鮮出張の花房外務大丞より別紙の通申越に付上申　柳原外務大丞　史官宛　明治五年一〇月一五日　007
（付）対州貿易署取糺草梁館接収事務に付花房外務大丞報告　外務大少丞宛　明治五年九月一七日

二　深見六郎館司・広瀬直行一代官・住永友輔二代官・米田喜三郎通詞・住永習三通詞辞令　外務省　明治五年九月一六日　011

三　漂民処遇に付回答要請　館司　明治五年六月　013

四　外務省派遣員差使等引揚に際し朝鮮国側へ論駁の旨伝喝書　館司　明治五年六月　014

五　朝鮮漂民金学成等厚情　明治五年六月二四日　026

六　復命書応接書往復書周急一件書尋交商量渋滞縁由略差出　花房外務大丞　史官宛　明治六年一月一三日　022
（付）尋交商量渋滞縁由略
　中古以来朝鮮交通沿革大略・一新報知以来尋交商量の手続概略
大差使入府中密使往来始末
深見六郎書翰　広津弘信宛　九月一日
朝鮮周急一件復命書　外務大丞花房義質　明治五年一一月
朝鮮御用復命略　外務大丞花房義質　明治五年一一月
往復書類
応接書取

七　草梁館詰代官共小通事等と内通致し大差使と東莱府使の面会を遮り候乎の聞有之取調候処館司深見正景一代官海津茂太郎外三人口書別紙の通に付司法省にて取調の上相当の御処置方御沙汰相成度上申　外務卿副島種臣　正院宛　明治六年一月　096
（付）大差使入府中密使往来始末口書（深見六郎一通・春日長十郎一通・海津茂太郎四通・上野敬助三通・中山喜兵衛九通）

〔106〕　朝鮮事件　（三）　（R112／120～150）

一　今般我人民保護の為め陸軍若干軍艦幾隻彼地へ差し置かれ此上使節を派遣し談判方協議に付上申　121
二　朝鮮国遣使の議不可に付岩倉右大臣奏議　126
三　具視奏状嘉納の旨詔書写　一〇月二四日　130
四　具視意見に付今朝勅答の旨史官を以て御達の旨岩倉右大臣口演案　131
五　右大臣意見に付今朝勅答の旨西郷以下へ達原書　132
六　参議四名辞表に付き大隈重信・寺島宗則・勝安芳・大木喬任・伊藤博文即時御登庸方上申草案　135
木戸参議宛
（付）板垣退助辞表　史官宛　明治六年一〇月二四日

江藤新平辞表　岩倉右大臣宛　明治六年一〇月二四日
副島種臣辞表　太政大臣代理右大臣岩倉具視宛　一〇月二四日
後藤象二郎辞表　史官宛　明治六年一〇月二四日
大久保利通辞表　史官宛　一〇月一七日
西郷隆盛辞表　一〇月二三日
木戸孝允辞職上申　明治六年一〇月一七日

七　大隈重信他四名即時御登庸方上申〔六と同文〕　木戸参議宛　一四三

八　岩倉公手翰原書〔表題のみ、編綴順序の誤りか〕　一四五

九　東莱府使釜山僉使等其属官に達する所を示令和館の守門に貼掲せしもの（明治七年三月広津弘信持帰）　癸酉一〇月二九日　一四六

〔107〕　朝鮮事件（附　使清之事）　（R112／153～180）

一　明治元年大修使書契写御入用に付差出　外務少丞　内史書課宛　明治六年一一月七日　154
（付）戊辰十月告王政復古の状先岡書契写　一一月
王政維新の報告書契写　一二月

二　弘信帰国尋交目途の建議大要条目草案の儘差出　広津弘信　楠本少丞宛　明治四年八月二二日　158
（付）朝鮮国尋交に付目途一〇ケ条目録および一〇ケ条目大要摘録

三　書契中字句論難に付東莱府伯書翰　大差使・館司宛　庚午三月　171

四　書契中不穏当箇所に付覚書　訓導安僉知・別差李主簿　館司宛　己巳一一月　176

五　書契中一二字句と印章改易の説に付覚書　訓導安僉知　館司宛　己巳一一月　177

〔108〕

朝鮮尋交始末　上

（R112／183～235）

一　編纂経緯　権少史金井之恭・大主記小野正弘　明治九年五月一日　184

二　例言　185

三　尋交始末撮要　明治元年三月～九年二月の対朝鮮国交渉事項摘録　186

四　朝鮮処分の論　190

五　対朝鮮外交経過　193

慶応四年　194

明治元年　194

明治二年　202

明治三年　212

明治四年（～三月）　232

〔109〕　朝鮮尋交始末　中　（R112／238～286）

明治四年（三月～）　239
明治五年　258
明治六年　275
明治七年（～六月）　279

〔110〕　朝鮮尋交始末　下　（R112／289～346）

明治七年（六月～）　290
明治八年　301
明治九年　333

〔111〕　朝鮮国詳細　（R112／349～393）

［註］経緯・地理・主要都市・軍事力・各道概況・鉱山等の事情書

〔112〕　明治八年　朝鮮江華島砲撃始末　一　（R113／006～136）

一　海軍省并に長崎県より雲揚艦牛荘に向け駛往し朝鮮国江華島に在て韓人俄かに砲撃の旨を報す　010

1　雲揚艦より電信の義に付上申　海軍大輔川村純義　太政大臣三条実美宛　明治八年九月二九日

（付）朝鮮奥化（ママ）島にて彼より大砲小銃暴発に付当艦より大砲小銃を発し上陸の旨報知　雲揚艦長井上海軍少佐　河村海軍大輔宛　九月二八日

2　海軍少佐井上彼の地引き揚げ今日入港の旨電報　長崎県令宮川房之　太政大臣三条実美宛　九月二八日発・着

二　長崎県より電報を以て滞韓の対馬人保護のことを候す　015

1　彼の国暴挙も図りがたく滞韓対馬人民引揚のため蒸気船雇入許可ありたき旨電報　宮川長崎県令　寺島外務卿・大久保内務卿宛　九月二八日発・二九日着

三　海軍省より我人民保護の為め長崎港碇泊の軍艦一艘釜山浦へ派出を候す　017

1　釜山浦皇館に派出の外務官員保護の為長崎港碇泊の軍艦一艘派出方上申　海軍大輔川村純

義　太政大臣三条実美宛　明治八年九月二九日
（付）雲揚艦より電報の義に付上申〔一―1と同文〕

四　在朝鮮外務少丞森山茂長崎港へ帰着　019
1　長崎県より外務少丞森山茂着港電報の儀上申　内務卿大久保利通　太政大臣三条実美宛
明治八年九月三〇日
（付）森山茂二一日韓地出帆昨夜当港着の旨電報　長崎宮川県令　大久保内務卿宛
明治八年九月三〇日
2　内務卿上申回覧書　史官　九月三〇日
3　春日艦去る三日着韓我公館并人民無事の旨電報　長崎県令宮川房之　外務卿・内務卿宛
一〇月八日

五　朝鮮国東南海岸に於て我雲揚艦砲撃の旨趣を地方官に令す　023
1　雲揚艦江華島より砲発に付上陸台場乗取り兵器を分取り長崎港まで回航の旨地方官へ御達
（付）史官本局議案（太政類典抄録）

六　森山外務少丞より朝鮮国事情を報す　024
1　外務少丞森山茂報告書　外務卿寺島宗則宛　明治八年一〇月四日

七　雲揚艦長海軍少佐井上良馨帰朝砲撃に遇ふ実況を上申す　028

1　雲揚艦朝鮮に於て砲撃に遇候義に付上申　海軍大輔川村純義　太政大臣三条実美宛　明治八年一〇月九日

（付）雲揚艦長井上少佐より彼より暴挙の始末別紙届出に付御届　伊東海軍少将　河村海軍大輔宛　明治八年一〇月五日

雲揚艦朝鮮に於て砲撃に遇候始末上申書　海軍少佐井上良馨　明治八年一〇月八日

八　春日艦長磯部少佐より釜山浦着港并に同地の景況を報告す（太政類典抄録）　035

1　本日釜山浦碇泊春日艦長より通信有之に付海軍省届　一〇月一四日

（付）春日艦長磯辺少佐届　海軍省宛

我公館官吏は雲揚艦の件は相知不申　森山事務官は大に疑惑の趣にて館内へ探索の者入込牧の島には兵士出張陣営造立致し海峡には数々筏を浮かへ平常無之相見申候

九　海軍省より雲揚艦江華島に於て砲撃の節分捕及死傷者等届出（太政類典抄録）　037

1　海軍省届出　一〇月一三日

（付）江華島に於て砲撃の節分捕の物品死傷の人名御届書　雲揚艦長海軍少佐井上良馨　明治八年一〇月一二日

2　雲揚艦分捕の品物速に正院へ御差出方申入　史官　海軍省宛

3　雲揚艦分捕の品物別記の通に付御査収の上御落手証要請　海軍省　史官宛

4　別紙証書御回の旨回答　史官　川村海軍大輔宛　一〇月一七日

5　雲揚艦分捕の品天覧差回の旨宮内省へ達　一〇月一八日
6　早速天覧に供すべく回申　宮内省　一〇月一八日
7　残り大砲其外兵器局へ格納に付御届　海軍省　一〇月二八日
8　雲揚艦去二五日帰艦に付御届　海軍省　一〇月二八日

一〇　在韓邦民保護の為め軍艦発航指揮官一名在勤　043
1　幹地在留人民保護の為め軍艦差廻に付指揮官員一人彼地在勤仰付方海軍省へ御達
明治八年一〇月一三日
2　今般春日号と交代の為孟春艦朝鮮へ一九日出発に付御届（太政類典抄録）　海軍省　一〇月一五日
3　軍艦春日号本月三日帰艦に付御届（同）　海軍省　一一月八日
4　鳳翔艦孟春艦と交代の為本日出帆に付御届（同）　海軍省　明治八年一一月二〇日
5　中属原田謙吉朝鮮渡航不得已儀に付聞届方上申（同）　内務省　明治八年一二月一五日
6　中属原田謙吉渡韓聞届の上旅費等給与取計方上申（同）　長崎県　内務省・大蔵省
明治八年一二月一日

一一　外務四等書記生山之城祐長に草梁館在勤を命す　045
1　外務四等書記生山之城祐長朝鮮国草梁館在勤辞令　明治八年一〇月一五日

一二　森山外務少丞朝鮮国より帰朝復命す　046

1　復命書　外務少丞森山茂　明治八年一一月四日
（付）再度渡韓拝命後日表　外務少丞森山茂

一三　参議黒田清隆議官井上馨を正副弁理大臣として朝鮮国に派遣す（附　使節の旨意訓条内諭及先発委員の口陳書）　0066

1　朝鮮の顛末に付臣に一切の機宜を委する旨（木戸孝允）上申　三条太政大臣宛　明治八年一〇月五日
2　陸軍中将兼参議黒田清隆特命全権弁理大臣として朝鮮国へ差遣方院省使庁府県へ達（太政類典抄録）　明治八年一二月九日
3　議官井上馨特命副全権弁理大臣として朝鮮国へ差遣方達（同）　明治八年一二月九日
4　朝鮮に使節を派遣するの旨意（同）　明治八年一二月二七日
（付）弁理大臣へ訓条
5　黒田特命全権弁理大臣へ内諭（同）
6　黒田特命全権弁理大臣黒田清隆へ達（同）　明治八年一二月二八日
7　釜山に派する委員口陳書（同）
8　朝鮮に使節を派遣するの旨意草案
9　朝鮮に派遣する特命全権弁理大臣に付する訓条草案
10　朝鮮政府と新に結約すへき交際条規及貿易条款の大意
11　弁理大臣名刺認方に付書翰　小牧昌業　巌谷宛　一二月二一日

一四　外務少丞広津弘信弁理大臣に先ち入韓訓導玄昔運と応接の旨を報す　0082

1　上申　外務大丞広津弘信　外務卿寺島宗則宛　明治八年一二月二三日

（付）訓導玄昔運甲号・乙号書翰　乙亥一一月二二日・二五日

応接書　明治八年一二月一九日・二一日

一二月二一日訓導別函并口陳書の元本提出の義府使の教意申述退席後浦瀬書記生寓へ来り内話の顛末

一二月二二日浦瀬書記生寓にて住永書記生共に訓導玄昔運と互に内話せし概告先報理事日誌抜粋

一五　黒田全権弁理大臣朝鮮国関係事件新聞紙に掲載を止めんことを稟す　0097

1　朝鮮関係事件新聞非掲載方御布達に付き書翰　黒田弁理大臣　土方大史宛　明治九年一月六日

2　朝鮮一件妄に新聞等へ伝播なき様相成度云々儀控一通至急御廻方要請　土方大史開拓幹事宛　明治九年一月七日

3　朝鮮関係事件新聞等へ掲載禁止の布告に付御手続方御照会　西村開拓中判官　土方大史宛　明治九年一月一二日

一六　特命全権弁理大臣朝鮮国へ発遣の趣意を各地方官に令す（太政類典抄録）　101

1　人民妄に浮議を生し方向を誤る等の事なき様各地方官へ内達　明治八年一二月一三日

2　別紙御達公然管内布達に及ばざるに付府県令参事へ副達　明治八年一二月一三日

3　当県士族六七九名より別紙願出に付滋賀県伺　明治八年一二月二二日
4　伺の趣憶測過慮の願意に付書面下戻方回答　一月二三日
5　滋賀県士族より朝鮮国一件問罪の師先鋒を仰付度出願の趣に付第二科議按　一月一八日

一七　開拓使所轄玄武矯龍函館の三艘当分海軍省に附属す（太政類典抄録）　103
1　玄武丸矯龍丸函館丸海軍省附属船として同省へ引渡方開拓使へ達　明治八年一二月二七日
2　黒田陸軍中将朝鮮国へ出張に付保護として開拓使所轄三艘被差遣度海軍省上申　明治八年一二月一五日
3　上請の趣聞届　明治八年一二月二七日
4　海軍省上請御聞届可然哉伺の旨第二科議按　明治八年一二月一八日
5　三艘今般御用済帰着に付附属船の名号相廃候条海軍省届　二月一二日

一八　外務省雇金麟昇に特命全権弁理大臣随行を命す（太政類典抄録）　104
1　本省雇金麟昇儀黒田清隆随従として朝鮮国へ差遣　明治八年一二月一五日

一九　黒田全権弁理大臣及随行官員参朝賜物并に酒饌料下賜（太政類典抄録）　105
1　参朝賜物は大久保弁理大臣の例に準し判任官は拝謁に及はす　明治八年一二月二八日
2　弁理大臣始随行の判任官へ賜物の儀先般大久保弁理大臣帰朝の節同様下賜可然哉判任官の儀も拝謁可然哉宮内省伺　明治八年一二月二八日
3　賜物の儀は伺の通判任官は拝謁に及はす候事　明治八年一二月二八日

4　宮内省伺左の通御指令可然哉伺の旨第二科議按
5　黒田弁理大臣出発帰朝両度賜饌料二四二円五〇銭二厘支払度大蔵省へ御達方宮内省伺　五月九日
6　上申の趣聞届　五月一七日
7　宮内省上申に付額外常費より金額渡方大蔵省へ達　五月一七日
8　宮内省上申の通大蔵省へ御達可然哉伺の旨第五科議按　五月一一日

一〇七

二〇　儀仗兵并に護衛艦進退を黒田弁理大臣に委任す（太政類典抄録）
1　儀仗兵并に護衛艦進退の儀御委任方特命全権弁理大臣黒田清隆へ達　明治九年一月五日
2　別紙の通黒田弁理大臣へ御沙汰に付海軍省へ達　一月五日
3　弁理大臣護衛の三艘の内雲春艦高雄丸帰着方海軍省届　三月一二日
4　日進艦儀一昨一五日帰着方海軍省届　三月一七日

一〇八

二一　黒田全権弁理大臣朝鮮国へ出発并に途中より報告
1　特命全権弁理大臣黒田清隆儀昨六日朝鮮国へ出発方開拓使届（太政類典抄録）　一月七日
2　本日神戸到着の旨報知（同）　黒田清隆　三条太政大臣宛　一月八日発
3　明日神戸出帆（同）　黒田清隆　三条太政大臣宛　一月八日発
4　英国軍艦モルルゴウ神戸より出帆（同）　黒田清隆　三条太政大臣宛　一月九日発
5　黒田弁理大臣儀九日神戸港出帆の旨開拓使届（同）
6　神戸にて石炭積入不充分に付石炭対州へ積回候様厳急御取計要請　黒田弁理大臣

大久保内務卿宛　明治九年一月一一日　113
7 諸船神戸着港一覧　115
8 黒田弁理大臣一〇日馬関到着本日同港解纜の旨開拓使届（太政類典抄録）一月一二日　116
9 黒田弁理大臣報告　大久保参議宛　明治九年一月一六日　117
一五日釜山に向け開行着船　未開野蛮は十分懲戒を加へざれば我の目的達し難く陸兵二大隊差遣の旨上陳　若し開戦の節は士族新募等は一切禁止せられたし
（付）黒田清隆・井上馨対馬到着江華島へ向かう旨報知に付館長代理外務四等書記生山之城祐長書翰　明治九年一月一五日
10 黒田弁理大臣一三日対馬着一五日釜山浦へ出発方報知　対馬国出張長崎県参事渡辺　大久保内務卿宛　福岡局一月一七日発・同日大蔵省着局　121
11 黒田弁理大臣報告　三条太政大臣宛　馬関局一月一七日発・一八日築地着局　122
一先つ懲らさゝれは其頑固を変せさるは必然　我よりは暴挙せさるは兼て約束の通り　若し破談に至れは各国へ宣布相成たし
12 陸軍中尉飯田を返し情実委細申進方報知　弁理大臣　太政大臣宛　馬関局一月一七日発・一八日築地着局　123
13 渡辺参事竹敷へ滞り居る旨報知　長崎宮川県令　大久保内務卿宛　長崎局一月二〇日発・同日大蔵省着局　124
14 黒田弁理大臣報告　大久保内務卿宛　明治九年一月二三日　125
今般申請の増兵は開戦の日に当り江華を占拠するは勿論彼を悔悟せしむるに足るへき丈け懲戒を遂くへきを目的と致すに付至急御尽力有之度

15　返事を待たず釜山より江華へ向け二三日出帆の旨報知　黒田弁理大臣　三条太政大臣・大久保参議宛　馬関局一月二四日発・同日築地着局　127

二二一　黒田全権弁理大臣随行官員出発（太政類典抄録）　128

1　安田定則・小牧昌業・永山武四郎・鈴木大亮・佐藤秀顕・松岡譲・小寺秀信・小田清重儀六日特命全権弁理大臣黒田清隆随行朝鮮国へ出発の旨開拓使届

2　外務大丞宮本小一・外務権大丞森山茂・外務四等書記生石幡貞儀全権弁理大臣に随行六日発航の旨外務省届　一月七日

3　写真并に見取図等取調の為開拓使一四等出仕甘利俊知一五等出仕河田紀一朝鮮国随行の儀別件の通取計に付黒田弁理大臣届　三月九日

4　今般江華島到達の上其軽侮を来し我国体を辱めさる様遵守致すへき条款に付黒田弁理大臣達　一月二五日

二二三　黒田全権弁理大臣及随行官員へ公報私信差立方　133

1　朝鮮出張中公報・私信の義は本使当出張所にて一纏に致し郵船便を以て長崎県へ向け差立開拓長官黒田清隆代理西村開拓中判官　史官宛　明治九年一月一二日

2　当省より大臣へ公信御差立方御手順に付外務省照会（太政類典抄録）　史官宛　一月一二日

3　公私書信共都て開拓使にて取扱の旨回答（同）　一月一三日

4　朝鮮出張中公信私信共本使当出張所にて一纏に致し郵便船を以て長崎県へ向け差立の旨開拓

使通知（同）　史官宛　一月一二日

〔113〕　明治八年　朝鮮江華島砲撃始末　二　（R113／139～331）

二四　外務権大丞野村靖朝鮮国へ派遣（附　三条太政大臣より黒田弁理大臣に贈らるゝ書翰并に野村大丞の報告書）
1　御用有之朝鮮国へ差遣方外務権大丞野村靖へ達（太政類典抄録）　一月一八日　146
2　外務権大丞野村靖朝鮮国出張として本日発程の旨外務省届（同）　一月一九日
3　一月一九日横浜港出帆二三日馬関着の旨野村権大丞届（同）
4　三条太政大臣書翰草案　黒田弁理大臣宛　147
儀仗兵といへど俄かに多数の兵員を繰り出すは内外に対し不都合少からず先つ我か分義の在るを示し不得已の場合に始めて戦争を公布すべき事
5　朝鮮に行く船の出帆日限及船の名承りたき旨報知　小寺秀信　三条太政大臣宛　馬関局　150
一月一八日発・同日築地着局
6　弁理大臣の御返事を持ち野村大丞来るまで満珠艦留置方承知の旨報知　小寺秀信　三条太政大臣宛　馬関局一月一九日発・同日本寮着局　151
7　黒田弁理大臣への御返事及朝鮮へ行く船の名承りたき旨報知　小寺秀信　三条太政大臣宛　馬関局一月一九日発・同日築地着局　152

8　今晩満珠艦にて韓地へ参る旨報知　小寺秀信　三条太政大臣宛　馬関局一月二三日発・同日築地着局　153
9　弁理大臣江華発錨手続　三条太政大臣　一月二三日　154
10　外務権大丞野村靖報告　黒田弁理大臣一月一七日釜山港揚碇二六日江華府着の筈私儀は釜山より弁理大臣出張先に到り御書翰及御口上の旨直に可申上　155
11　本日馬関到着小寺に面会私は釜山より大臣の処へ参る旨報知　野村外務権大丞　三条太政大臣宛　馬関局一月二三日発・同日築地着局　158
12　草梁館より野村靖報告　大久保参議・伊藤参議宛　二月一日　160
13　二月七日弁理大臣本船へ乗組御書翰及御口達の旨弁理大臣へ申入御答有之の旨野村外務権大丞届（太政類典抄録）　三月五日　163

二五　在馬関海軍少佐山崎景則と往復の電報（附　山県参議より正副弁理大臣に贈る書翰）　164

1　黒田弁理大臣電報の御返事受取たき旨報知　海軍少佐山崎景則　三条太政大臣・大久保参議宛　馬関局一月二四日発・同日築地着局

2　黒田弁理大臣には委しく返事せしにより別に返事を遣はさざる旨報知　三条太政大臣　鳳翔艦海軍少佐山崎景則宛

3　別紙写の通弁理大臣への書翰相認差立置候段御了承且大臣公へ上申可然　山県参議　大久保参議・伊藤参議宛　明治九年一月二四日

（付）陸軍卿山県有朋書翰　特命全権弁理大臣黒田清隆・同副全権弁理大臣井上馨宛

明治九年一月二四日
野村権大丞差遣候政府の内議は儀仗兵二大隊派遣は不可然との事に廟議一決の趣　出
征師の義は一報次第何時も派遣差支なし

二六　外務少丞広津弘信病気に付釜山浦より帰朝し先報復命書を呈す
1　釜山にて病あり辞して馬関まて帰還の旨報知　馬関広津弘信　一月二六日　169
2　釜山にて宿痾再発御暇相願相聞届に付帰京の旨御届　外務少丞広津弘信　外務卿寺島宗則
宛　明治九年二月三日　170
（付）宿痾再発御用に相立不申に付御暇賜はり帰京御許可願書　広津弘信　特命全権弁理
大臣宛　明治九年一月二〇日　（付箋）帰京願の趣聞届　明治九年一月二〇日
3　先報復命書（附　再渡大略より至帰京）　外務少丞広津弘信　外務卿寺島宗則宛　明治九
年二月三日　172
（付）先報理事日誌抜粋　176
訓導玄昔運甲号・乙号書　乙亥一一月二一日・一一月二五日
応接書　明治八年一二月一九日・一二月二一日　183
一二月二一日訓導別函并に口陳書の元本提出の義府使の教意申述退席後浦瀬書記生寓
へ来り内話の顛末　191
一二月二二日浦瀬書記生寓にて住永書記生共に訓導玄昔運と互に内話せし概略　194
明治九年一月一三日以後日誌抜粋　199
諸艦釜山廻航に付見聞書取　202

館長代理外務四等書記生山之城祐長書翰　明治九年一月一五日　204
明治九年一月一五日午後五時別差李濬秀呼入れ山之城四等書記生住永七等書記生尾間七等書記生面接
九年一月一七日陪通事金福珠金正植の両人住永辰妥へ対面を乞ふ　205
208

二七　三条太政大臣及大久保参議より弁理大臣に贈る書翰　212
1　三条太政大臣書翰　黒田全権弁理大臣・井上副全権弁理大臣宛　明治九年二月一四日
釜山浦御発錨尓後の景況如何相成候哉　海軍準備艦の外雇船も用意致し日夜焦心
2　大久保参議書翰　黒田全権弁理大臣宛　明治九年一二月一四日
貴官御辞京後は内外人民刮目翹首其一報を待居候　江華口御着艦爾来何等の御報知無之に付一同焦心苦慮
3　大久保利通追伸　黒田清隆宛
第一の懸念は支那政府関係の義に有之　御委任の件は十分の御見計を以て諸般の御趣旨徹底を冀望

二八　黒田全権弁理大臣朝鮮国王及接見大臣等と物品贈答（太政類典抄録）　218
1　国王并接見大臣以下へ別記の品贈与方黒田弁理大臣届　三月八日
（付）贈与品目録
2　朝鮮国王接見大臣及江華府留守よりの贈品受領可然哉に付黒田弁理大臣伺　三月七日
（付）伺之通　三月一二日

贈与品目録
3　黒田清隆伺の儀御聴許の旨第二科議按
二九　高雄丸乗艦の儀仗兵草芝鎮へ上陸の際脚艇覆没し兵卒溺死（太政類典抄録）　228
1　儀仗兵一六名乗艦の脚艇覆没二名溺死の旨黒田弁理大臣上申　三月七日
（付）大日本特命全権弁理大臣随員外務大丞宮本小一・外務権大丞森山茂照会書翰　江華府留守趙秉式宛　明治九年二月一〇日
志岐海軍大尉届（付　人相書）　黒田弁理大臣宛　二月一一日
三〇　遣韓事務整理の為め開拓使出張所中一局を設く（太政類典抄録）　231
1　本日より開拓使出張所内へ一局相設け本務関係の諸公文は総て弁理大臣の名を以て往復の旨
黒田弁理大臣届　三月七日
三一　弁理大臣帰朝復命（附　神宮御遙拝神殿御親祭に付正院休暇）　232
1　二月二七日条約鈐印の約成り二八日帰帆の旨報知（太政類典抄録）　江華府在留黒田弁理大臣　三条太政大臣宛　下ノ関局三月一日発・同日着
2　条約交換本日馬関へ到着の旨報知（同）　黒田弁理大臣　三条太政大臣宛　下ノ関局三月一日発・同日着
3　二日馬関出帆の旨報知（同）　黒田弁理大臣　三条太政大臣宛　下ノ関局三月一日発・同日着

4　明後日馬関出帆五日横浜上陸の旨報知（同）　黒田弁理大臣　三条太政大臣宛　下ノ関局三月一日発・同日着

5　来る五日黒田清隆・井上馨帰朝に付横浜新橋間上等の汽車乗用に充つべき旨工部省へ達（同）明治九年三月三日

6　途上警衛儀仗兵差出すべく陸軍省へ達（同）

7　五日太政官代へ臨御復命聞食方奏聞致すべく宮内卿へ達（同）

8　五日正院にて聞食に付参官致すべく右大臣参議及外内務大蔵卿并陸海軍大輔へ達（同）

9　新橋停車場官代間途上警衛として巡査御差出すべく警視庁へ通達（同）　三月三日

10　新橋停車場より直ちに参官御心得方東京府へ通達（同）　三月三日

11　黒田清隆・井上馨五日横浜着艦に付御心得方神奈川県へ照会（同）　三月三日

12　横浜大江橋御省出張所休憩所御借用方大蔵省へ史官照会（同）　三月三日

（付）一昨七年大久保弁理大臣清国より帰朝の節の手続を以て御仕向可然哉大史伺　三月三日

黒田・井上帰朝に付ては明治七年の節の手続を以て御仕向方御決裁の旨第一科議按　三月三日

御来意の通速に同港税関へ相達の旨大蔵省回答　史官宛　三月四日

御省出張所借用の儀今朝品川着艦に付借用に及ばざる旨大蔵省へ通達　三月四日

13　特命弁理大臣既に今朝品川着艦に付御心得方神奈川県へ史官通達（同）　三月四日

14　黒田清隆・井上馨帰朝復命の儀同時官代へ臨御方更に奏聞致すべく宮内省へ通達（同）　三月四日

15　五日一二時三〇分御出門正院へ臨幸の旨仰出され候段宮内省上申（同）　三月四日
16　五日午前九時三〇分御出門の旨宮内省上申（同）　三月四日
17　正院の職出迎等の式の有無及時限に付元老院照会（同）　史官苑　三月四日
　（付）五日午前一〇時正院にて復命式あり新橋駐車場迄三条太政大臣出迎の旨元老院へ史官回答　三月四日
18　黒田井上正副両弁理大臣へ勅語（同）　三月五日
19　黒田井上帰朝に付管下人民より四月五日奉祝の旨願出に付新潟県届（同）　三月三一日
20　神宮御遙拝並神殿御親察に付二三日正院休暇の旨院省使庁東京府へ達（同）　三月二二日
　（付）二三日正院休暇仰出可然哉大史申牒　三月二二日
　　正院休暇に付当省も休暇方文部省上申　三月二二日
21　外務大丞宮本小一外務権大丞野村靖外務権大丞森山茂四日朝鮮国より帰朝に付外務省届（同）三月五日
22　外務四等書記生石幡貞同浦瀬裕外務六等書記生荒川徳滋本月四日朝鮮国より帰朝に付外務省届（同）　三月七日
23　朝鮮国差遣の随行官員の内別記の通帰朝に付黒田弁理大臣届（同）　三月七日
　（付）帰朝官員・乗船・日時一覧
24　随行外務六等書記生中野彌太郎儀帰朝途中より草梁項日本公館へ出張に付黒田弁理大臣届（同）　三月七日
25　朝鮮国差遣の随員の内別記人員八日帰京に付黒田弁理大臣届（同）　三月九日
　（付）帰京軍人一覧

26　儀仗兵并護衛艦等へ配付の為対州并草梁項公館より随行の外務省御雇朝鮮通弁別記人員御用済に付公館へ差還の旨黒田弁理大臣届（同）　三月九日
（付）随行員一覧
27　朝鮮国へ随行の陸軍少将種田政明儀本月六日帰京の旨陸軍省届（同）　三月二〇日
28　途上鎮台歩兵二大隊を整列且騎兵一小隊・騎兵半小隊を随従方取計うべく陸軍省布達　明治九年三月四日
29　復命書　特命全権弁理大臣黒田清隆・特命副全権弁理大臣井上馨　明治九年三月五日

三二　正副弁理大臣朝鮮政府と交換の修好条規御批准　251
1　今般朝鮮国と条約取結の旨布告　太政大臣三条実美　明治九年三月二二日
（付）修好条規条文
2　朝鮮国と条約交換に付従前の例規に照し御布告可然哉大史議按（太政類典抄録）　三月一二日
（付）布告案
3　朝鮮国条約御批准の儀外務省取調の通御渡可相成哉大史議按（同）　五月一九日
（付）朝鮮国条約御批准案二通御下渡方外務省上申　五月一一日

三三　弁理大臣随員より朝鮮国写影進呈（太政類典抄録）　256
1　彼地にて写取の写影弐拾九葉御回に付弁理大臣申牒　四月六日
2　弁理大臣上呈の写真御覧済に付返進の旨宮内省上申　四月一四日

3　写真上申弁理大臣随員供高覧の旨第一科申牒

三四　黒田全権弁理大臣より上呈する使鮮始末及使鮮日記印刷配付を候す　257
1　黒田清隆より上呈の使鮮始末及使鮮日記印刷の上各省長官へ配付の儀御允許可然哉伺　明治九年五月三一日
（付）御指令案　伺之趣聞届

三五　朝鮮事件を清国政府へ報知の為め特命全権公使森有礼に訓条を付与す（太政類典抄録）　258
1　大清政府に朝鮮国事件の起由と我趣意の向ふ所を告げ我政府の大清政府と誠を推すを須要とすべき旨特命全権公使森有礼へ訓条　明治八年一一月二〇日
（付）北京在留公使に付する訓条漢訳

三六　森全権公使及広津外務少丞と往復の電報　261
1　広津への日限は一月中旬に改め神戸まで送るべき旨指示　伊藤参議　神戸森有礼宛
2　別函の日限新規に書いて送るまではその地にて待受くべき旨指示　伊藤参議　神戸広津弘信宛
3　対馬に渡り御用を済ませて鳳翔または満珠丸を待ちたく要望　神戸広津弘信　三条太政大臣宛　一二月七日発
4　広津への訓条中一月一日を一月間と改めよと広津へ御指令要請　神戸森有礼　三条太政大臣宛

三七　在北京森全権公使より達する機密報告書

1　機密別信第一号の一　英公使ウエート氏と対談の大略報知　北京森有礼　両大臣・寺島外務卿宛　明治九年一月一三日　265

2　機密別信第一号の二　鄭書記官と総弁周家　の面談及我と宝鑑・成林・夏家鎬の問答要旨報知　森有礼　両大臣・外務卿輔宛　明治九年一月一三日　267

（付）一八七五年一二月二四日申報抄録

3　当一〇日総理衙門にて晤談の筆記送覧の旨報知　北京森有礼　寺島外務卿・鮫島外務大輔宛　明治九年一月一三日　269

（付）機密別信第一号の四　魯公使ブッフ氏談話の大意報知　北京森有礼　両大臣・寺島外務卿宛　明治九年一月一三日

明治九年一月一〇日森公使総理衙門にて清国諸大臣と晤談大意覚書

江華島砲撃事件の経緯説明（漢文）

4　機密別信第三号の一　北京森有礼　両大臣・外務卿宛　明治九年二月三日　288

（付）光緒元年一二月一四日清国総理衙門にて晤談筆記（漢文）

晤談筆記送付書（漢文・日訳文）　周家　穎川・竹添宛　一二月二六日　機密別信第三号の二　明治九年一月一〇日晤談筆記（漢文）

大清欽命総理各国事務王大臣照会（漢文）　大日本国欽派駐京全権大臣森宛

光緒二年正月

大日本国欽差全権大臣森照会（日文・漢訳文）　大清欽命総理各国事務王大臣宛

明治九年二月一日
5　機密別信第二号の一　互相京地に交際官を駐箚せしむる約の類でなく唯領事官の京地及諸開港場に置く事のみを約するを要とする旨提議　北京森有礼　寺島外務卿宛　明治九年一月二〇日　316
（付）衙門より接収せし覚書　一二月一八日（我明治九年一月一四日）　大日本国欽差全権大臣森照会　大清欽命総理各国事務王大臣宛　明治九年一月一五日
6　機密別信第二号の二　朝鮮属国の主張をめぐる書翰応酬状況　北京森有礼　寺島外務卿宛　明治九年一月二〇日　321
（付）大清欽命総理各国事務和碩恭親王大臣照会　大日本国欽派駐京全権大臣森宛　光緒元年一二月一二日
大日本国欽差全権大臣森照会　大清欽命総理各国事務王大臣宛　明治九年一月一九日
7　機密別信第二号の三　朝鮮事破るるに備へ天津芝罘牛荘に領事心得に類する官員を置き清国に中立を守らしむるに注目せしむべき旨提議　北京森有礼　寺島外務卿宛　明治九年一月二〇日　324
8　機密別信第二号の四　天津副領事池田寛治儀領事に被仰付方上申　北京森有礼寺島外務卿宛　明治九年一月二〇日　325
三八　黒田全権弁理大臣随行正院御用掛末松謙澄月俸旅費等支出方　326

1　末松謙澄月俸旅費等は朝鮮国出張費の内より支出方黒田弁理大臣へ通達（太政類典抄録）
　史官　明治八年一二月二八日
2　末松謙澄月給は正院より支給致したき旨御回答　弁理大臣随行安田開拓少判官　土方大史
　宛　明治八年一二月二九日

三九　海軍省稟請運送船舶概費金交付　328

1　運送船舶概額金御下付被仰付度上申　明治九年一月二九日
2　海軍省上申に付大蔵卿へ内達可然哉伺　明治九年一月二九日
　（付）金六万円別途渡の儀取計の旨御内達按　太政大臣　大蔵卿宛

太政類典第二編外国交際諸官員差遣の部索引抄録〔本文なし〕

一　遣韓使護衛艦船并海兵発遣費用交付
一　同運送船概費交付
一　同渡航艦船入費不足金交付
一　弁理大臣差遣に付費用金交付
一　同諸費用大蔵省へ時々達次第交付
一　陸軍省非常費仮に交付
一　陸軍省糧米の儀大蔵省と協議処分
一　井上副弁理大臣支度料手当金等参議相当を以て支給
一　森山理事官渡韓費用決算方

一　野村外務権大丞旅費遣韓費の内より支給
一　随行諸官員手当金等は副島大使大久保弁理大臣使清の例に憑る
一　随行海軍省傭英人ゼームス外一名慰労として物品贈与
一　同ゼームスへ給料遣韓費より支出
一　同外務省傭金鱗(ママ)昇手当随行官員の比例を用ふ
一　海軍官員并兵員の加俸は蕃行加俸規則に準す
一　在留人民保護の為め派出せし海軍官員の手当は一般の定規に拠る
一　江華府滞在中其他賄并郵船及汽車賃現費を以て支弁
一　費用中韓銭交換に付欠減
一　黒田弁理大臣以下一行の者賞与
一　海軍省十七等出仕土屋文樹外二名へ賞与

太政類典第三編第一九巻索引抄録〔本文なし〕
一　黒田弁理大臣随行の水火夫賞与漏の分交付

太政類典第四編第一三巻索引抄録〔本文なし〕
一　元海兵隊軍曹桑原静哉黒田弁理大臣に随行朝鮮国へ出発に付賞与

〔114〕　自明治六年五月至同七年一一月　朝鮮始末　一　（R114／006～194）

一　伝令門将及小通事等処　　癸酉五月　　008
（付）此書は朝鮮国東萊府使・釜山令使等へ伝令せし書にて官庁の門に貼付せしものとの旨添状

二　牛荘事情書外務省より差出に付供高覧　　土方大内史・杉浦権大内史　　五月二九日　　013
1　牛荘出張申付の当省十等出仕武市正幹より彼地事情申出に付差出　　外務大少丞　史官宛　　明治六年五月二三日　　014
（付）牛荘事情書　　外務十等出仕武市正幹　　明治六年五月
2　朝鮮よりの報知　派東韓地奥義制より来翰中に陳述の彼地目下の形景〔断簡〕　　明治七年一月三〇日附　　017
3　牛荘事情書外務省より差出に付供高覧　　土方大内史・杉浦権大内史　　五月二五日　　018
（付箋）牛荘商法一条に付尚精密取調方大原従四位に御達　　五月
4　朝鮮よりの報知〔二―2の続〕　　明治七年一月三〇日附・三月六日附　　020
（森山茂・広津弘信付箋あり）

三　伝令守設門将（広津弘信三月中持帰東莱府使釜山僉使等其属官に達する所の示令和館の守門に貼掲せしもの）　癸酉一〇月二九日　025

四　朝鮮国交通維持の方法見込に付申試　森山茂　寺島公宛　明治七年一月　027

五　森山茂朝鮮差遣御沙汰書・御委任状　明治七年五月一五日　032

六　外務省六等出仕森山茂より別紙到来に付拝呈　横山租税権助・林海軍大佐　大隈長官宛　明治七年六月五日　035

（付）韓地の事情漂民殺害等の儀渾て無之等の旨報知　森山茂　横山租税権助宛　六月三日

七　韓地国論一変何分か其目的を達し其の端緒を得べき時に付宗大丞下向方企望の旨森山茂公信寺島外務卿宛　明治七年六月三一日　037

（付）森山茂見込書　明治七年六月

朝鮮近情探聞書

八　五月一九日小通事金福珠と住永辰妥の内話写　046

九　通事崔在守・金福珠等との応接筆記（六月一四日・一五日・二〇日・二二日）　浦瀬裕　050

一〇　和館内外見聞書　古谷豊次郎　明治七年六月二四日　065
（付）古谷豊次郎筆談筆記
暗行御史従人李周善馬牌

一一　当今韓国の伝説等書取報告　浦瀬裕　六等出仕森山茂宛　明治七年六月二日　073

一二　朝鮮国景況報告　荒川徳滋　森山六等出仕宛　明治七年六月二日　075

一三　韓地の景況聞取書　長崎県八等出仕厳原支庁詰上村直則　森山宛　明治七年六月五日　083

一四　伝令設門将（甲戌五月七日）・伝令守門将及通事等（甲戌五月一五日）　085

一五　外務省六等出仕森山茂贈翰拝呈　横山貞秀・林清康　大隈長官宛　明治七年七月一三日　088
（付）森山茂書翰　横山貞秀宛　七月二日
六月一四日着韓　国王親政大院君排斥東萊府使等免黙　内地征韓論征蕃の事等悉く聞知し台湾出兵に寒心せる模様にて此機に投し御下手の次第にては其端緒を得へし

一六　森山茂来信并応接書類一綴

1　宗大丞出発速に御評決方重て代奏の旨報知　外務省六等出仕森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治七年八月二三日　092
（付）略見込書
2　時は逐次好都合に付宗大丞対馬下向のみ屈指相待の旨報知　外務六等出仕森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治七年八月二一日　095
3　彼れ漸く我に応するの勢ひ相見候に付広津弘信に渡韓仰付要請　森山茂　外務卿宛　八月二三日　099
4　八月一五日金福珠・南孝源と浦瀬裕・森山茂の晤談筆記　森山茂　明治七年八月一九日　102
5　八月一六日内裨将南孝源就館帰途通事金福珠へ低語せし気向に投し尚再来を促さんか為め浦瀬をして福珠に内示せしめし口陳書（明治七年八月一七日）および金福珠の陳述筆記（八月二〇日）　125
6　釜山僉使より薪炭供進の命に付報知　外務六等出仕森山茂　外務大少丞宛　明治七年八月二一日　131
7　外務省六等出仕森山茂至急帰京の旨指令　明治七年八月一九日　133
8　一月を不出本意を可達見込にて暗行御史小生に媚を呈し候旨報知　森山茂　長崎支局横山租税権助宛　八月三一日　134
（付）暗行御使三名による森山茂宛詩頌
9　去四日新訓導玄昔運・別差玄済舜と対面応答大略報知　外務省六等出仕森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治七年九月五日　136
（付）森山茂書翰　幹伝官宛　明治七年九月

九月四日訓導と談判筆記　外務省六等出仕森山茂　明治七年九月五日
10 終に別紙の通約定相纏り候に付柳原公へも御申通方要請　森山六等出仕　横山租税権助宛　九月四日　150
（付）三ケ条を以て政府回答を取ること約せる旨森山茂電信
約定三ケ条　訓導玄昔運・別差玄済舜　外務省出仕森山茂宛　甲戌七月二三日
（我九月四日）
11 在朝鮮国森山六等出仕より彼国近状委細申越に付写一綴回進　外務卿寺島宗則　太政大臣三条実美宛　明治七年九月九日　152
（付）森山茂来信并内謁応接概要
12 広津弘信・石幡貞・山之城祐長・尾間啓治朝鮮国在勤仰付　明治七年一〇月八日　155
一七 自明治七年五月乃至一〇月朝鮮事件取扱手続撮要　外務省六等出仕森山茂　明治七年一〇月二五日　156
（付）イ号書　林三伊に示して按廉使に転報せしむるの書（幹伝官浦瀬、明治七年七月二一日）および金福珠をして東莱府使に転報せしむるの書（幹伝官浦瀬裕、明治七年八月）
ロ号書　封中小石を孕まし墻外より投入せし通事崔在守の書
ハ号書　約定三ケ条　訓導玄昔運・別差玄済舜　外務省出仕森山茂宛　甲戌七月二三日
ホ号書　九月八日訓導の入館を促かすに輸し来る片紙　七月二八日

ヘ号書　幹伝官・三代官書翰　訓導宛　明治七年九月九日
ト号書　朝鮮国左将軍従二品趙寧夏来書　森山桐陰宛　九月二四日接到
チ号書　森山茂書翰　趙寧夏宛　明治七年九月二五日
尋交略節次・附録　外務省出仕森山茂　幹伝官宛　明治七年九月四日
リ号書　太凡谷より来簡　甲戌八月一五日（九月二七日達）
ヌ号書　八月二六日曽て約する所の期日至るを以て訓導の就館を達するに回簡（幹伝官・三代官宛、八月一六日）および幹伝官浦瀬・三代官住永書翰（訓導宛、明治七年九月二七日）
ル号書　所約三件中第二件決定回報下来の旨報知　訓導玄昔運　館長宛　甲戌八月一八日
ワ号書　外務省出仕森山茂口演　明治七年一〇月
カ号書　口演　明治七年一〇月
ヨ号書　漂民送受暫間仮式
タ号書　東莱府使朴斎寛書翰（館長・外務省出仕森山公宛、甲戌八月）および外務省出仕森山茂書翰（東莱府使朴公宛、明治七年一〇月二日）

一八　広津弘信・石幡貞・尾間啓治朝鮮国発程可見合事（明治七年一一月四日）および住永辰妥朝鮮国草梁館在勤申付（明治七年一一月二四日）

〔115〕　自明治七年一二月至同八年四月　朝鮮始末　二　（R114／197～294）

一　森山茂理事官として朝鮮国差遣（明治七年一二月二七日）および広津弘信・石幡貞・尾間啓治同行申付（明治八年一月一〇日）　199

二　森山茂応接心得方御指令案差上に付至急御沙汰伺　外務卿寺島宗則　太政大臣三条実美宛　明治八年一月三一日　200

（付）朝鮮国に於て応接の間可相心得条々　太政大臣三条実美　二月二日

三　森山茂朝鮮国差遣に付ては途中より何の官に不限同行いたし度旨申出候共差許間敷旨達　太政大臣三条実美　明治八年一月　202

四　朝鮮国来使の義に付心得方伺　外務卿寺島宗則　太政大臣三条実美宛　明治八年一月一九日　203

（付）朝鮮国来使の議

五　外務卿寺島宗則指令および諭示状　205
六　外務大丞宗重正書翰　朝鮮国礼曹参判宛　明治八年一月　207
七　外務少丞森山茂万一病気の節は広津弘信へ代弁の件
1　外務卿上申の通被仰付哉伺　明治八年二月四日　210
2　於朝鮮国理事官病故等の節代弁の儀に付別紙の通御達方至急相伺　外務卿寺島宗則　太政大臣三条実美宛　明治八年二月四日
3　森山茂事務取扱兼候節は本任の儀副官外務六等出仕広津弘信へ付与可致事　太政官　明治八年二月四日
（付）大蔵卿伊達宗城欽差全権大臣として清国差遣に付ては万一事務取扱兼候節は全権の義外務大丞柳原前光へ付与可致事　太政官　明治四年四月
八　朝鮮国草梁公館詰の者より彼地近況探険の次第外務省より上申の件
1　外務省上申供高覧　三月二七日　214
2　草梁公館詰の者より彼地近況探偵の次第申越に付差送の旨森山理事官広津副理事官申越方上申　田辺外務四等出仕　土方大内史宛　明治八年三月二五日　215
（付）二三日厳原着仕候処在朝鮮国公館より大院復立入城等探偵の次第申来の旨報知　外務六等出仕広津弘信・外務少丞森山茂　全権公使柳原前光・外務少輔山口尚芳宛　明治八年二月二三日　216

在朝鮮国大日本館公信　在対馬州森山外務少丞・広津外務七等出仕宛　明治八年二月一七日　218
八年二月一四日訓導玄昔運との応接筆記　浦瀬裕・住永辰妥・住永友輔　明治八年二月一四日　218
二月一五日金福珠の内話大要報知　218
探索撮要　外務五等書記生浦瀬裕　明治八年二月一七日　218

九　朝鮮国派遣理事官より対話書差越の件
1　対話書外務省より差出に付供高覧　明治八年三月二九日　237
2　朝鮮国派遣理事官より差越の対話書一括御回　田辺外務四等出仕　土方大内史宛　明治八年三月二八日　238
（付）応接書取（明治八年二月二五～二六日・三月一～三日）　239
イ号書　森山茂・広津弘信口陳書　明治八年二月二五日　239
ロ号書　二月二八日訓導より来書　239
ハ号書　訓導玄昔運・別差玄済舜書翰　理事官・副官宛　239
ニ号書　訓導書翰　乙亥正月二七日　239
ホ号書　浦瀬五等書記生・住永七等書記生書翰　明治八年三月四日　239

一〇　在朝鮮森山広津両理事官彼国に於て対話の件
1　森山広津両理事官対話の次第田辺太一より差出に付供高覧　明治八年四月一七日　273

（付）森山理事官広津副理事官朝鮮国訓導玄昔運対話書差越に付写取回送　外務省四等出　274
仕田辺太一　大内史土方久元宛　明治八年四月一五日　275
訓導玄昔運との対話筆記（明治八年三月二一日・二三日・二四日）

〔116〕　自明治八年四月至同年七月　朝鮮始末　三　（R114／297～474）

一　朝鮮書類広津弘信より差出の件
1　広津弘信より差出の朝鮮書類供高覧　四月二二日　299
2　一昨一五日帰京に付談判書往復書日記抜粋彼国景況見聞概略書将来変常見込書録上の旨上申
広津弘信　寺島外務卿宛　明治八年四月一七日　300
（1）日記抜粋（二月二五日～四月三日）
（2）往復書類
イ号書　大日本国理事官森山茂・同副官広津弘信口陳書
ロ号書　訓導書翰　浦瀬宛　二月三日
ハ号書　訓導玄昔運・別差玄済舜書翰　理事官・副官宛　乙亥正月二五日
ニ号書　訓導書翰　乙亥正月二七日
ホ号書　浦瀬五等書記生・住永七等書記生書翰　訓導宛　明治八年三月四日
ヘ号書　書翰
ト号書　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥二月一七日
チ号書　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥二月二四日

リ号書　訓導書翰　幹伝官・三代官宛　乙亥二月二四日（我八年三月三一日）
ヌ号書　別差書翰　幹伝官・三代官宛　乙亥二月二四日（我八年三月三一日）
ル号書　大日本国理事官森山茂・副官広津弘信書翰　明治八年四月一日
（3）昨年来朝鮮国改革及其他の景況概略　明治八年四月一七日
（4）常変見込書　広津弘信　明治八年四月一七日
（5）応接書取（明治八年二月二五～二六日・三月一～三日）

二　朝鮮在留広津弘信外彼地応接書取附別記外務省より一冊上申に付供高覧　三月三〇日　365
（付）訓導玄昔運・別差玄済舜との対話筆記（明治八年三月二一日・二三日・二四日・二七日）

三　旧東萊府使旧訓導斬罪崔在守投獄等探聞の次第差出の上広津六等出仕に速に再渡仰付方願上
外務少丞森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治八年四月一九日　386
（付）朝鮮国探聞日誌（四月一二日～一九日）

四　玄済舜本日入館水道船廃徹（ママ）漂民送受旧訓導等処断の義に付談判の旨報知方追啓　外務少丞森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治八年四月二〇日
（付）四月二〇日別差玄済舜入館候に付応接標目

五　我は騎虎の勢に付必ず積年の御威信相達すべく広津上申の儀御尽力方要請　森山茂　柳原全権公使・山口外務少輔宛　明治八年四月一九日　395

六　公信一号中使清弁理始末処蕃趣旨書取落に付後信の節御差立方要請　外務少丞森山茂　全権公使柳原前光・外務少輔山口尚芳宛　明治八年四月二〇日　398

七　旧訓導切られ在守獄に下ると届出の旨四月二四日下ノ関より電報方報知　399

八　明治八年朝鮮国事務取扱概略及往復書　400

1　本年二月至六月朝鮮国尋交事務弁理始末概略　402

2　理事要略（明治八年二月二五日～七月三日）　405

（付）イ号書　大日本国理事官森山茂・副官広津弘信口陳書　明治八年二月二五日

ハ号書　訓導玄昔運・別差玄済舜書翰　理事官・副官宛　乙亥正月二五日

ト号書　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥二月一七日

チ号書　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥二月二四日

ル号書　大日本国理事官森山茂・副官広津弘信書翰　明治八年四月一日

3　往復書　420

（1）甲号　訓導玄昔運書翰　理事官宛　乙亥四月五日

（2）乙号　大日本国理事官森山茂返書　明治八年五月一四日

（3）丙号　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥四月一二日

（4）丁号　大日本国理事官森山茂・副官広津弘信返書　明治八年五月一七日

（5）戊号　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥四月一四日

（6）己号　浦瀬書記生書翰　訓導玄公宛　明治八年五月一九日
（7）庚号　訓導書翰　幹伝官宛　乙亥四月一六日
（8）辛号　訓導玄昔運書翰　理事官・副官宛　乙亥五月二一日
（9）壬号　訓導書翰　幹伝官・三代官宛　乙亥五月三一日

九　内話探聞書及朝鮮国清国関係見込書
1　六月三〇日訓導私寓に来り相咄し候大略　浦瀬裕　明治八年六月三〇日　432
2　午後第一時商人野田清三郎宅へ金福珠入来談話聞書　河村万次郎　明治八年六月二五日　433
3　館内入来の韓人・都より帰来の設門々将佯よりの噂話報告　河村万次郎　明治八年六月二八日　435
4　朝鮮国尋交事務経過および清韓関係見通に付録上　広津弘信　明治八年七月一五日　438
　　439

一〇　在韓理事官森山茂公信綴
1　森山茂よりの来信写差出に付御回　外務卿寺島宗則　太政大臣三条実美宛　明治八年八月一七日　446
2　進退時機に付上陳の旨外務少丞森山茂書翰　外務卿寺島宗則宛　明治八年七月一六日　447
3　第八号公信　金知事の挙動等に付報知　外務少丞森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治八年七月　452
（付）対馬州西津漂民七名護送に付訓導玄昔運・別差玄済舜書信（附漂民七名問情記、外務七等書記生住永宛、乙亥六月一七日）および対馬州西津漁民受領に付大日本館長書信

（明治八年七月一九日）
知事金聖始書翰（住永友輔宛、乙亥六月一四日）および金知事と住永辰妥并住永友輔面晤三回接話要領・金福珠と住永辰妥接話要領（住永辰妥）
4 第九号公信　空留は益なく失体無限に付速に進退御指令方要請　外務少丞森山茂　外務卿寺島宗則宛　明治八年七月二五日　467
（付）知事金聖始書翰（住永友輔・住永辰妥宛、乙亥六月二一日）および住永七等書記生返書（金知事宛、明治八年七月二三日）
5 英軍艦ホルキ号入港状況等報知の旨外務少丞森山茂書翰　外務少輔森有礼宛　明治八年八月九日　460
（付）丁卯艦碇泊の縁由に付陪通事金正極尋問の大意報知の旨住永七等書記生書翰　明治八年八月五日　471

〔117〕　自明治九年六月至同一五年四月　朝鮮始末続録　（R115／006～174）

一　外務大丞宮本小一を理事官として朝鮮国へ差遣並に訓条（太政類典抄録）　014

1　外務大丞宮本小一理事官として朝鮮国へ差遣に付辞令並訓条　明治九年六月七日

（付）外務大録河上房申等七名随行辞令　明治九年六月一七日

〔朝鮮国修信使金綺秀等来航　九年五月二七日外務省上申太政類典第二編外国交際諸官員差遣の部に載す〕

二　朝鮮国修信使より外務卿及大丞へ書束並に物品を贈る（太政類典抄録）　018

1　朝鮮国修信使より外務卿及外務大丞宛現品差出に付受納可否及分配方に付外務省伺　明治九年六月一二日

（付）受納可致候事但大丞宛贈品は接伴主任の正権大條にて受納の事　六月一二日

甲号　贈品添状　朝鮮国礼曹判書金尚鉉　日本国外務卿宛　丙子年四月

乙号　贈品添状　朝鮮国礼曹参判李寅命　日本国外務大丞宛　丙子年四月

丙号　外務卿宛贈品目録　丙子年四月

丁号　外務大丞宛贈品目録　丙子年四月
2　外務省伺贈品受納の儀及分配の儀に付御指令案伺の旨第二科議按　六月五日
3　朝鮮国参書参判への返書に付外務省御届　六月二八日
（付）外務卿返書　外務卿寺島宗則　朝鮮国礼曹判書金尚鉉宛　明治九年六月一七日
正権外務大丞返書　外務権大丞森山茂・外務大丞宮本小一　朝鮮国礼曹参判李寅命宛　明治九年六月一七日
三　朝鮮国修信使来朝に付東萊府使口陳書並訓導より贈る条陳書（太政類典抄録）　023
1　朝鮮国より修信使来朝報知の旨外務省上申　明治九年四月二二日
（付）朝鮮国修信使条陳書　訓導玄昔運　丙子三月一五日
朝鮮国修信使名簿
口陳　朝鮮国東萊府使洪祐昌　丙子三月一五日
修信使遣差の儀報知の為尾間書記生東京派遣の旨書翰　館長代理　訓導宛　明治九年四月一〇日
2　外務省上申供高覧の旨第五科申牒　四月二四日
〔朝鮮国修信使帰国　九年六月一九日外務省届太政類典第二編外国交際諸官員差遣の部に載す〕
四　外務大書記官花房義質等朝鮮国より帰朝（太政類典抄録）　029
1　朝鮮国出張外務大書記官花房義質等四名昨二〇日帰朝に付外務省上申　明治一一年一月二一

一日

〔朝鮮国代理公使花房義質復命書　一一年三月四日進呈太政類典第三編第一八巻に載す〕

五　外務大書記官兼代理公使花房義質を朝鮮国に差遣す（太政類典抄録）　030

1　朝鮮国派遣に付外務大書記官兼代理公使花房義質及外務権少書記官近藤真鋤へ達　明治一一年一一月一八日

六　花房代理公使釜山到着の後在留管理官をして東莱府使へ応接せしめし景況並に往復書簡　031

1　花房義質より東莱府使への応接景況並に往復書簡を以て具状に付供覧　森有礼　岩倉右大臣宛　一二月一六日

（付）徴税停止の儀に付管理官東莱府使談判の状況報知　代理公使花房義質　寺島外務卿宛　明治一一年一二月四日

豆毛鎮の税関設置徴税は明治九年八月の議定違反に付徴税停止要請の儀に付管理官山之城祐長・東莱府伯尹致和の往復書翰（明治一一年一一月二九日付山之城祐長書翰・戊寅一一月八日付尹致和答書・明治一一年一二月二日付山之城祐長返書）

2　代理公使花房義質報告書回議書　明治一一年一二月一七日

七　花房代理公使外一名朝鮮国より帰朝（太政類典抄録）　041

1　花房代理公使・近藤権少書記官本日帰朝に付外務省届　明治一二年一月九日

〔朝鮮政府専断課税に付応接始末　一二年一月花房代理公使上陳太政類典三編第一八巻に載す〕

〔在朝鮮国山之城管理官釜山港貿易景勢及該国情に付建白　一二年三月五日外務省上申同上〕

八　花房代理公使外一名朝鮮国へ派遣並に花房公使に付与する訓条（太政類典抄録）　042

1　朝鮮国派遣に付外務大書記官兼代理公使花房義質・外務権大書記官近藤真鋤へ達　明治一二年三月一四日

2　訓条　外務卿寺島宗則　代理公使花房義質宛　明治一二年

（付）甲号　訓条付属　開港手続

乙号　訓条付属　朝鮮政府に求むへき七件

九　軍艦鳳翔号乗組の者朝鮮東莱府遊歩の際暴挙に遇ふを以て釜山浦管理官山之城祐長同道東莱府伯へ談判の始末　048

1　朝鮮回航鳳翔艦彼国に於て暴挙に逢候義談判の始末伊東中将より届出に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一二年五月七日

（付）東莱府遊行の際朝鮮人民暴行に付再ひ管理官同行及談判候顛末御届　鳳翔艦長海軍少佐山崎景則　東海鎮守府指令長官海軍中将伊東祐麿宛　明治一二年四月一六日

鳳翔艦長より朝鮮国人民暴行の始末及東莱府伯へ談判顛末等届出に付御届　海軍中将伊東祐麿　海軍卿川村純義宛　明治一二年五月六日

2　鳳翔艦士官水兵へ彼の民飛礫の始末報告　在釜山港管理官山之城祐長　外務大輔森有礼宛　明治一二年四月二五日

（付）甲号　四月一六日東莱府に至りし始末並応接の形行　山之城祐長　明治一二年四月

昨日投石の者処断等報知二通　東莱伯尹致和　管理官山之城祐長宛　己卯三月二五日（我四月一六日）

武田邦太郎・大石又三郎診断書　矢野大軍医　山之城管理官宛　明治一二年四月一五日

乙号　本月一六日山之城管理官東莱府東軒に於て府伯に面晤し談判畢て府伯より酒饌を設け饗応したる謝礼且つ起居問安の為め物品を贈らるるを携へ使として莱府に抵るの始末　吉村平四郎　明治一二年四月一八日

3　海軍省上申御覧書　明治一二年五月一六日

4　回覧書　明治一二年五月八日

一〇　外務省五等出仕前田献吉管理官として朝鮮国釜山港在勤を命す（太政類典抄録）　072

1　外務省五等出仕前田献吉管理官として朝鮮国釜山港派遣に付達　明治一二年五月一七日

一一　花房代理公使等朝鮮国より帰朝（太政類典抄録）　073

1　代理公使花房義質等五名一昨二日帰朝に付外務省届　明治一二年一一月四日

一二　前田管理官朝鮮国より帰朝（太政類典抄録）

1　外務省五等出仕前田献吉昨一八日帰朝に付外務省届　明治一二年一二月一九日

〔鳳翔高雄両艦長朝鮮国仁川湾済物浦を開港場と為すへき意見　一二年七月一四日海軍省上申太政類典第三編第一八巻に載す〕

〔朝鮮国訓練大将趙寧夏等鳳翔艦来観顛末　一二年一〇月一日海軍省上申同上〕

〔在朝鮮花房代理公使より元山津其他開港談判等景況申報　一二年九月一一日外務省進達同上〕

〔花房公使の建議により朝鮮政府へ寄贈品議定（附　陸軍省所蔵の銃器寄贈）　一三年二月五日同一一月一七日外務省伺定太政類典第四編第一一巻に載す〕

〔朝鮮国在勤管理官の名称を廃す　一三年二月二三日外務省伺定太政類典第四編第一三巻に載す〕

〔在朝鮮国領事官の訓令を定む　一三年五月一四日同上〕

〔同第一〇条中追加　一三年九月一三日同上〕

〔在朝鮮国領事館へ民刑裁判取扱規則を令す　一三年六月二日同上〕

一三　花房代理公使朝鮮国へ派遣（太政類典抄録）　0075

1　朝鮮国派遣に付代理公使花房義質へ達　明治一三年三月一〇日

一四　花房代理公使を弁理公使に任し朝鮮国京城在勤を命す（附　訓条並御国書案）（太政類典抄録）　0076

1　弁理公使任命朝鮮国京城在勤仰付の旨花房義質へ達　明治一三年四月一七日

（付）訓条案　外務卿　花房義質宛　明治一三年

朝鮮国へ御国書案　外務卿井上馨

〔外務省五等出仕前田献吉を総領事に任し元山津在勤を命し外務権少書記官近藤真鋤を領事に任し釜山浦在勤を命す　一三年二月二一日達太政類典第四編第一三巻に載す〕

〔前田領事外一名へ委任状を付与す　一三年三月一日外務省上申同上〕

一五　米国公使より朝鮮国政府へ添翰の請求に応す　0082

1　コモドール氏朝鮮国再渡航に付米国公使より同氏書簡に拙官の書簡を付添の上朝鮮政府へ届方再応請求の謝絶は穏当ならず添書方可然に付外務省伺　明治一三年五月二四日

（付）伺の通　明治一三年五月二五日

甲号　合衆国海軍水師提督軍シユフエルトの為在朝鮮日本官吏並朝鮮官吏に対する書翰御贈附方依頼　合衆国公使館ジョン、エ、ビンハム　外務卿井上馨宛

一八八〇年三月一二日
乙号　御来意に応じ難き旨返書　外務卿井上馨　アメリカ合衆国特命全権公使ジョン、エ、ビンハム宛　明治一三年四月七日
丙号　米国軍艦チコンデラ号其港へ参着の節は使事に及ばざるも滞泊中は周旋尽力方申達　井上外務卿　朝鮮釜山在勤近藤領事宛　明治一三年四月
丁号　朝鮮国官吏宛の閣下御書翰中へコモドールの該国宛和親信書御封入方依頼ジョン、エ、ビンハム　外務卿井上馨宛　一八八〇年五月二一日

2　外務省伺の通御裁可に付伺の旨内閣書記官議案　明治一三年五月二四日

一六　朝鮮政府の返簡を米国公使に転致す

1　米国公使の請求に応し近藤領事を経由東莱府伯より該書簡転達候処同国政府より返書到来に付上申　外務大輔上野景範　太政大臣三条実美宛　明治一三年八月六日
（付）甲号　朝鮮国への添翰　外務卿井上馨　朝鮮礼曹判書宛　明治一三年五月二九日
乙号　添翰返書　朝鮮国礼曹判書尹滋承　日本国外務卿井上馨宛　庚辰六月
丙号　朝鮮政府の返簡開封の上其写送り来る旨通知　外務大輔上野景範　米利堅合衆国特命全権公使ジョン、エ、ビンハム宛　明治一三年八月四日

〔朝鮮国修信使金宏集来航並に謁見　一三年八月一〇日入京の旨外務省上申太政類典第四編第一一巻に載す〕

〔金宏集帰国の旨外務省より通知　一三年九月七日同上〕

一七　金宏集信使として再航の内報並に雑報　花房義質　外務卿井上馨宛　明治一四年四月一日　0092

1　去二七日特命あり金宏集信使として日本へ派遣方決定に付内報

（付）李万孫等数百名入京仁川開港拒否等の上疏に付経過報告

一八　韓人より岩倉井上両氏に贈りし仁川開港談判に付軍艦要迫論の出所探索書進達　花房義質　外務卿井上馨宛　明治一四年四月一日　0096

1　別信第一一号　其意を同じくする李載兢等四氏が李献愚をして軍艦要派の意を岩井両公に伝達方疑へき所なき旨報告

一九　近藤領事より朝鮮僧無不探問書進達す　0098

1　機密信第四号　李東仁の同志僧無不なる者より李万孫の上疏李東仁の逃亡李載兢の物故等の情勢聴取に付内陳　釜山浦領事近藤真鋤　井上外務卿宛　明治一四年四月一四日

二〇　花房弁理公使李献愚徐光範と面晤の旨報告　弁理公使花房義質　外務卿井上馨宛　明治一四年四月一三日　0101

1　機密信第一二号　徐光範・李献愚の談話要旨報告

二一　花房弁理公使より閔永翊（ママ）王命を奉し東行の旨報告　0107

1　機密信第一四号　尹雄烈より閔永翊王命を奉じ潜に日本に向て相発の由談話大略報告　弁理公使花房義質　外務卿井上馨宛　明治一四年四月一八日
（付）弁理公使花房義質書翰　礼曹判書洪祐昌宛　明治一四年四月一六日

二二　近藤領事より朝鮮紳士一一名我国へ渡航の旨報告　一一二
1　洪英植・魚允中等一一名日本渡航に付出帆遊覧予定視察分担等報告　領事近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一四年四月二八日
2　朝士遊覧一〇名の他同行一名追加に付通知　金善根　近藤真鋤宛　辛巳三月二八日
3　朝士および随員姓名

二三　近藤領事より朝鮮国安東の儒士李万孫建白の伝聞書を呈す　一一七
1　近藤領事より李万孫の成行に付申出あり供覧　外務卿代理外務大輔上野景範　太政大臣三条実美宛　明治一四年六月二九日
（付）機密信第一二号　安東の儒士李万孫建議の爾後同人成行に付本港での伝聞送呈　在釜山領事近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一四年六月一七日

二四　花房弁理公使将来の方略等稟議の為め一時帰朝（太政類典抄録）　一二〇
1　政府中主和者の勢難支趣あり内地旅行大丘（ママ）行商の議実行困難にて便宜一時帰朝方申達し去月三〇日帰京に付外務省上申　明治一四年七月二〇日

二五　朝鮮京城公館より朝鮮国より咨問に対し清国礼部回咨謄書及魚允中秘密奏上筵説密書天津大概を上程す並に続報　122

1　朝鮮京城公使館より機密信申越に付き供覧　外務卿井上馨　左大臣熾仁親王宛　明治一五年四月二五日

（付）入手の清国礼部回咨謄本両国間情実推測に要用の書類に付差出及魚允中動向等の旨報告

礼部回咨謄書・魚允中秘密奏上筵説・密書天津大概

2　機密信報回覧書　明治一五年四月二五日

3　魚允中旧里へ引籠候処数日前考選官任命不日天津出発の旨続報に付上申　外務卿代理外務大輔上野景範　左大臣熾仁親王宛　明治一五年四月二七日

4　外務省続報回覧書　明治一五年四月二九日

二六　朝鮮一件書類整頓方並に往復書　152

1　関係書類悉皆謄写は不便利に付右書類中より要領抄出し大略を通覧可致様編纂希望　明治九年一月一五日

2　外務卿御承知の由に付朝鮮一件最初視察発遣以来一切の関係書類御廻し相成度御掛合　金井権少史　外務大少丞宛　明治九年一月一〇日

3　朝鮮書類綴込中不明の廉或は公私混淆の分も可有之御承知ありたく慶応二年より明治元年の分明治二年の分都合二冊差進　外務大少丞　権少史金井之恭宛　明治九年一月一〇日

4　韓国一件書類取纏に付紛失なき様奉願　金井宛　一九日

5 翻訳掛にて翻訳の外国新聞の内朝鮮関係論説不少に付朝鮮書類の一部に致し整頓致したく稿
本借用希望　一月二三日

6 朝鮮並支那関係の反訳諸新聞回進　反訳係　本局宛　三月四日

7 朝鮮事務書類御借覧の義に付証書御回送右書類庚午の部一冊差進　外務省記録局長　権少
史金井之恭　明治九年二月二日

8 広津弘信昨七年三月中帰朝の節指示の書類に付正院へ上呈の書類及機密の事は一切無之旨回
答　外務省　史官本局宛　明治八年一〇月一五日

9 本日御返却の朝鮮事務書類辰己の部査収並に前以て借用証御差廻の上庚午の部差進　外務
省記録局　金井権少史宛　明治九年一月三一日

10 朝鮮事務書類の儀照会に付当省記録局にて書籍類出納取計に付同局より回答の旨通知　奥
外務三等書記生　金井権少史宛　明治九年一月三一日

11 朝鮮並支那関係反訳諸新聞御回進　反訳係　本局宛　二月二日

12 反訳諸新聞客歳九月よりの分類別編纂相済みに付差進　反訳掛　本局宛　一月二七日

13 朝鮮書類庚午の部査収辛未の部目今広津少丞へ援付に付御用済の上は回送の旨通知　外務
省記録局　金井権少史宛　明治九年二月二八日

14 朝鮮事務書類庚午の分一冊借用証　金井権少史　外務省記録局宛　一月三一日

15 明治二年朝鮮事務書類借覧方特別の御依頼に付御参照済次第御返却相成度該書差進　外務
記録局　金井権少史宛　明治九年四月一四日

16 明治二年朝鮮事務書類借覧照会に付該書目今取調の義あり調済次第回送の旨回答　外務省
記録局　金井権少史宛　明治九年四月一三日

17　朝鮮事務書類甲戌の部査収右書類中往翰不見当趣照会及朝鮮交際録至急差出の来諭に付回答
外務大少丞　金井権少史宛　明治九年三月二四日

18　朝鮮事務書類癸酉の部査収甲戌の図書類差進　外務省記録局　金井権少史宛　明治九年三月一九日

19　朝鮮事務書類癸酉の分一冊借用証　金井権少史　外務省記録局宛　三月一六日

〔118〕　明治一五年　朝鮮事変始末　一　（R115／177～364）

一　朝鮮国激徒我公使館を襲撃するを以て弁理公使花房義質等長崎に帰港せし旨を報す　183
1　本月二三日激徒数百人公使館襲撃済物浦より長崎到着に至る経過大要報告　花房義質　外務卿宛　明治一五年七月三〇日

二　水野大尉筆記朝鮮事変の概況　185
1　水野大尉筆記　朝鮮事変

三　朝鮮国居留人民保護の為め海軍省に令して軍艦を回航せしむ　202
1　朝鮮国へ軍艦四隻回航の儀海軍省へ御達按　明治一五年七月三一日
2　海軍省へ御達奏聞書　明治一五年七月三一日
3　朝鮮国へ清輝比叡二艦回航の儀海軍省へ御達に付伺　明治一五年八月一九日
（付）御達按
4　清輝比叡回航の義表向御達無之ては差支不少に付公達御取計方内議　南郷海軍権大書記官　内閣書記局宛　明治一五年八月一九日

5　去月三一日附を以て軍艦四隻回航公達至急御取計方照会　南郷海軍権大書記官　内閣書記官宛　明治一五年八月二日

四　金剛日進天城の三艦品海抜錨　207
1　金剛日進天城三艦本日品海出発に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年七月三一日
2　海軍省届回覧書　明治一五年八月一日

五　在朝鮮元山港奥義制より激徒暴挙の原因及碇泊軍艦仁川へ航行の電報到達の件　209
1　奥義制より電報あり海軍省へも東海鎮守府長官より電報に付進達　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一日
（付）甲号　元山領事官より朝鮮兵暴挙に付彼我死者数・原因等報知の電信　奥義制　外務卿宛
乙号　磐城艦本日下関着石炭等積込次第仁川へ出帆の旨電信　東海鎮守府　海軍省宛　八月一日接到

六　弁理公使花房義質に訓条を付与し復朝鮮国に赴かしむ　212
1　朝鮮事変に付弁理公使花房へ訓条付与致したく至急御裁令に付伺　外務卿井上馨　太政大臣三条実美　明治一五年八月一日
（付）上申の通　明治一五年八月二日

七月二三日朝鮮京城の事変報告の趣により更に特別の命令を下し京城に進行し朝鮮政府と談判を開かしむるに付其方向を示す為に内閣の義を経て付与の訓条　外務卿
2　花房公使へ訓状按裁可書　明治一五年八月二日
3　花房公使へ訓条按回議書　明治一五年八月一日
（付）御指令案　明治一五年八月二日
4　朝鮮政府に対する要求の件条々
5　訓条案中特別記載の朝鮮政府に対する要求の件は専ら本官へ御委任ありたく特に上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二日
6　開港所占拠諸島の占領を以て要償の抵当となす強償処分の公告文案花房公使に内授方建議草案　参議山県有朋　明治一五年八月七日
（付）ボアソナード試草強償処分の公告文案

七　在朝鮮国領事副田節東莱府使公書を奉し来館の始末を報す　228
1　機密信第二七号　東莱府使来館此度の事変は朝鮮国の内難に付弁解の旨報知　領事副田節弁理公使花房義質宛　明治一五年八月三日
（付）朝鮮政府より貴政府へ書契差出の意を領事館を通し本国報知の旨公書　東莱府使宛
壬午六月一一日
朴永圭より海津陸軍中尉聞取の暴動の経緯・事情
漢城灰燼・毀没の家および死傷大臣姓名

八　外務卿井上馨を馬関に派出す　238
1　外務卿井上馨下ノ関へ出張仰付に付辞令案　明治一五年七月三一日
2　奏聞書　明治一五年七月三一日
3　外務卿井上馨出張辞令（辞令録抄録）　太政官　明治一五年七月三一日
九　陸軍少将高島鞆之助を朝鮮国に派遣す　241
1　陸軍少将高島鞆之助朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三一日
2　奏聞書　明治一五年七月三一日
3　陸軍少将高島鞆之助朝鮮国差遣に付辞令案　明治一五年七月三一日
4　陸軍少将高島鞆之助朝鮮国差遣辞令　太政官　明治一五年七月三一日
5　陸軍少将高島鞆之助本日出発に付御届　明治一五年八月二日
一〇　陸軍少将高島鞆之助及海軍少将仁礼景範に訓条を付与す　246
1　海軍少将仁礼景範朝鮮国へ出張仰付の事回議書　明治一五年八月二日
2　逆徒と戦端を開き候節は海港に拠り守備を為すべき旨訓示　太政大臣三条実美　海軍少将仁礼景範宛　明治一五年八月三日
3　訓示草案　太政大臣三条実美　海軍少将仁礼景範宛　明治一五年
4　海軍少将仁礼景範へ訓条案奏聞書　明治一五年八月三日

一一　雇仏国人ボアソナード在朝鮮各国使節に示す公告案を呈す　250
1　公告の草案送付猶同様の公告を支那英米公使に送付可然旨書翰　ボアソナード　井上宛
一八一二年八月
（付）朝鮮に於る米利加合衆国の（英吉利帝国の）艦隊提督宛公告文案

一二　陸軍歩兵大佐堀江芳介外三名に高島少将随行を命す　254
1　陸軍歩兵大佐堀江芳介外二名高島少将随行仰付に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三一日
2　陸軍歩兵大佐堀江芳介外二名高島少将随従朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月一日
3　陸軍歩兵大佐堀江芳介外二名高島少将随行辞令案回議書　明治一五年八月一日
（付）辞令案　八月一日
4　陸軍歩兵大佐堀江芳介外二名高島少将随行辞令　太政官　明治一五年八月一日
5　陸軍砲兵大尉藤井義信高島少将随行仰付に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二日
6　陸軍砲兵大尉藤井義信本日出発に付即時御沙汰御取計方要請　陸軍歩兵大佐児島益謙　内閣書記官宛　明治一五年八月二日
7　陸軍砲兵大尉藤井義信高島少将随従朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月三日
8　陸軍砲兵大尉藤井義信高島少将随行辞令案回議書　明治一五年八月二日
（付）辞令案
9　陸軍砲兵大尉藤井義信高島少将随行辞令　太政官　明治一五年八月二日

一三　海軍中尉西直資釜山浦近況視察の為め朝鮮国に派遣す　263

1　西中尉釜山浦近況視察の為朝鮮国出張方至急御許可上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三〇日

2　海軍中尉西直資朝鮮国へ出張の事奏聞書　明治一五年九月一四日

3　海軍中尉西直資朝鮮国出張辞令案回議書　明治一五年九月一二日

（付）辞令案　七月三一日

一四　陸軍会計一等副監督吉沢直行外三名を朝鮮国に派遣す　266

1　陸軍会計一等副監督吉沢直行外三名朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三一日

2　陸軍会計一等副監督吉沢直行外三名朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月一日

3　陸軍会計一等副監督吉沢直行外三名朝鮮国差遣辞令案回議書　明治一五年八月一日

（付）辞令案　八月一日

4　陸軍会計一等副監督吉沢直行外三名朝鮮国差遣辞令　太政官　明治一五年八月一日

一五　陸軍会計一等書記重山琢磨外五名を朝鮮国に派遣す　270

1　陸軍会計一等書記重山琢磨外五名朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三一日

（付）伺の趣聞届　明治一五年八月一日

2　陸軍省伺の儀御允許に付伺　明治一五年八月一日
（付）御指令按　明治一五年八月一日

一六　陸軍砲兵曹長坂西良一外一名を朝鮮国に派遣す　272
1　陸軍砲兵曹長坂西良一外一名朝鮮国に差遣に付伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋
太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月一日
2　陸軍省伺の儀御允許に付伺　明治一五年八月一日
（付）御指令按　明治一五年八月一日

一七　陸軍歩兵大尉原正忠を朝鮮国に派遣す　274
1　陸軍歩兵大尉原正忠朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月三日
2　陸軍歩兵大尉原正忠朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月三日
3　陸軍歩兵大尉原正忠朝鮮国差遣の事辞令案　八月三日

一八　陸軍工兵監護堀口詡静外三名を朝鮮国に派遣す　277
1　陸軍工兵監護堀口詡静外三名朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋
太政大臣三条実美宛　明治一五年八月四日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月四日

2　陸軍省伺の儀御允許に付伺　明治一五年八月四日
（付）御指令案　明治一五年八月四日

一九　陸軍会計軍吏小野田為賛外一名を朝鮮国に派遣す　279
1　陸軍会計軍吏小野田為賛外一名朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月四日
2　陸軍会計軍吏小野田為賛外一名朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月四日
3　陸軍会計軍吏小野田為賛外一名朝鮮国差遣辞令案　八月四日
4　陸軍歩兵大尉原正忠朝鮮国差遣辞令および陸軍会計軍吏小野田為賛外一名朝鮮国差遣辞令太政官　明治一五年八月三日・八月四日

二〇　陸軍省稟議朝鮮事変に依り準備として第六軍管々下予備軍召集を裁可す　283
1　談判如何なる状況に立ち至るやも難計に付第六軍管々下予備軍召集致したく伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月二日
2　陸軍省伺に付奏聞書　明治一五年八月二日
3　陸軍省伺の儀御裁可に付回議書　明治一五年八月一日
（付）御指令案　明治一五年八月二日

二一　陸軍省朝鮮国の情況に由り第一軍管々下予備軍召集を候す　286

1　第一軍管々下予備軍召集の儀預て御許可相成度伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月三日　（付）伺の趣聞届　明治一五年八月七日　289
2　朝鮮事件今後の情況に由り第一軍管々下予備軍召集の事奏聞書　明治一五年八月五日
3　陸軍省上申の儀御裁可に付回議書　明治一五年八月四日　（付）御指令案　明治一五年八月七日

二二　陸軍省第二第三第四第五軍管々下予備軍召集を候す
1　今後の状況に由り第二第三第四第五軍管々下予備軍召集の儀予て御許可相成度伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月五日　（付）伺の趣聞届　明治一五年八月一〇日
2　陸軍省伺奏聞書　明治一五年八月八日
3　陸軍省伺の儀御裁可に付回議書　明治一五年八月七日　（付）御指令案　明治一五年八月一〇日

二三　金剛日進天城三艦兵庫港着発の電報　292
1　三軍艦兵庫着発の儀電報あり御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月四日　（付）金剛天城日進兵庫入港出艦日時報知の電報三通　海軍省宛　明治一五年八月三日
2　海軍省届回覧書　明治一五年八月五日

3　金剛艦馬関着の義仁礼少将より電報あり御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月五日
（付）午前六時着艦に付届　仁礼少将　海軍省宛　明治一五年八月五日

二四　海軍卿電報を以て金剛艦速かに発航すへき旨を仁礼少将に令す　297
1　馬関金剛艦仁礼海軍少将へ電令に付御届　川村海軍卿　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月五日
（付）甲号　清国公使の天津総督宛電報新編翻訳に付進達　佐々木工部卿　川村海軍卿宛
明治一五年八月五日
清国公使より天津総督への電文（一日・三日・四日発信）
乙号　支那より使節と軍艦朝鮮派遣方報知あり片時も早く仁川へ発艦あるべき旨指令
川村海軍卿　金剛艦仁礼海軍少将宛　八月五日

二五　金剛天城両艦馬関発港の電報　301
1　金剛艦より電報到来に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月五日
（付）近藤領事朝鮮人一名乗組明日発港報知　仁礼海軍少将　海軍省宛　八月五日
2　金剛天城両艦馬関発航の義通報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月一〇日
（付）今朝釜山へ行く旨報知　天城艦長瀧野海軍中佐　川村海軍卿宛　明治一五年八月

一〇日
金剛艦明朝発航に付御届　金剛艦中艦隊司令官仁礼海軍少将　川村海軍卿宛　明治一五年八月五日

二六　朝鮮国王妃大臣死亡大院君執政等の旨電報到達　306
1　磐城艦長青木少佐より電報到達に付上申　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月五日
（付）釜山浦無事国王無事王妃大臣貴官一三名死亡大院君執政の旨電報　磐城艦長青木少佐　川村海軍卿宛　八月四日

二七　清国政府軍艦を朝鮮に派遣するの旨同公使黎庶昌より通報並に復書　308
1　清国政府軍艦を朝鮮へ派遣の旨黎公使より申越に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月五日
（付）高麗の速やかな乱党厳拿懲弁を願う旨書翰　欽差大臣黎庶昌　外務卿井上馨宛　光緒八年六月二一日
軍艦二三艘にて馬建忠を朝鮮国に派し貴国の為調停の筈に付通告　清国特命全権公使黎庶昌　外務卿代理吉田清成宛　光緒八年六月二二日
我政府既に計画あり貴国を煩わすには及ばざる旨返書　署外務卿吉田清成　欽差大臣黎庶昌宛　明治一五年八月五日
更に紛議の端緒を開くは貴我共に不好に付兵艦発遣の儀は速に御差止方要請の旨書翰

草案および漢訳文

二八　清国公使の啓文に由り山県参議の意見書

1　清国公使啓文中の「調停」に付三つの場合を想定対策方意見書草案（断簡）　山県有朋　317
明治一五年八月

2　花房公使へ支那の干渉拒絶すべき旨の訓条示されたり但し朝鮮所属論に渉り支那出張官と目的外の葛藤回避を要する旨覚書

3　山県有朋意見書草案（二八―1の続）　明治一五年八月

二九　清国公使黎庶昌より日本使館其属邦に在るを以て兵を派し護持すへき旨等の照会並に照覆　324

1　清国公使黎庶昌より書翰差出に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月九日

（付）南北洋師船陸軍を派し属邦の救済並に属邦内の条約国日本使館の保護に当たるべき旨通告　欽差大臣黎庶昌　署外務卿吉田清成宛　光緒八年六月二六日（我八月九日）

我国は朝鮮を待つに自主を以てし清国の派兵護持は葛藤招来の危惧ありとの旨回答書面および草案

朝鮮は我が属邦に付派兵に葛藤と謂う所なく貴外務卿の再考要請の旨書翰　欽差大臣黎庶昌　署外務卿吉田清成宛　光緒八年六月二九日

本国は約に拠り朝鮮と議弁に付貴国と関係なき旨返翰書面

三〇　朝鮮事変我国駐在の各国公使へ通知　330
1　朝鮮事変に付半公信の書式英文にて本邦駐在各国公使へ通知方上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月六日
（付）朝鮮事件に関する政府の意向は純然たる平和主義にある旨通知文　外務卿井上馨各国公使宛　一八八二年八月二日

三一　朝鮮事変に付熾仁親王随員西徳二郎をして露国景況を探知せしむ　334
1　魯国政府の挙動最も注意すべきに付熾仁親王随員西徳二郎をして魯国形況探知方取計度上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月七日
2　朝鮮事件機密上申の諸件は洩候様の議無之様御注意方申上　吉田清成　三条相公・岩倉右府宛　八月六日

三二　外務大書記官竹添進一郎外一名を朝鮮国に派遣す　338
1　外務大書記官竹添進一郎外一名朝鮮国差遣辞令案回議書　明治一五年八月七日
（付）辞令案　八月七日
2　外務大書記官竹添進一郎外一名朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月七日
3　外務大書記官竹添進一郎外一名朝鮮国差遣辞令（辞令録抄録）　太政大臣　明治一五年八月七日
4　参事院議官補中山寛六郎朝鮮派遣・ボアソナード試草公告案差出等に付報告　山県有朋井上馨宛　八月七日

三三　比叡艦、品川丸、明治丸、名護屋丸馬関着発の電報　342
1　比叡艦、品川丸、明治丸、名護屋丸馬関着発の日時報知の電報　井上外務卿　参事院議長山県参議宛　八月七日発・八日着

三四　大蔵大書記官渡辺国武を朝鮮国に派遣す　344
1　大蔵大書記官渡辺国武朝鮮国出張仰付に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月九日
2　大蔵大書記官渡辺国武朝鮮国出張の事奏聞書　明治一五年八月九日
3　大蔵大書記官渡辺国武朝鮮国出張辞令　太政官　明治一五年八月九日
4　大蔵大書記官渡辺国武朝鮮国出張辞令案回議書　明治一五年八月九日
（付）辞令案　八月九日

三五　大蔵一等属曽根静夫外一名渡辺大書記官随行を命す　348
1　大蔵一等属曽根静夫外一名渡辺国武随行申付に付伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月九日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月九日
2　大蔵省伺の儀御允許に付伺　明治一五年八月九日
（付）御指令案　明治一五年八月九日

三六　陸軍砲兵大尉熊谷宣篤外三名を朝鮮国に派遣す
1　陸軍砲兵大尉熊谷宣篤外一名朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　350
明治一五年八月九日
2　陸軍工兵曹長秋月栄太郎外一名朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月九日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月九日
3　陸軍砲兵大尉熊谷宣篤以下四名朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月九日
4　陸軍砲兵大尉熊谷宣篤以下四名朝鮮国差遣辞令案および御指令案　明治一五年八月九日
5　陸軍砲兵大尉熊谷宣篤外一名朝鮮国差遣辞令　太政官　明治一五年八月九日
三七　陸軍省御用掛准判任小林志津三郎を朝鮮国に派遣す　355
1　陸軍省御用掛准判任小林志津三郎朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月一〇日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月一〇日
2　陸軍省御用掛准判任小林志津三郎朝鮮国差遣御指令案　明治一五年八月一〇日
三八　陸軍々医副藤田嗣章外二名を朝鮮国に派遣す　357
1　陸軍々医副藤田嗣章外二名朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月二二日
2　陸軍々医副藤田嗣章外二名朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年八月二二日

3　陸軍々医副藤田嗣章外二名朝鮮国差遣辞令案　明治一五年八月二二日
4　陸軍々医副藤田嗣章外二名朝鮮国差遣辞令　太政官　明治一五年八月二二日

三九　陸軍三等看病人石原嘉市外七名を朝鮮国に派遣す　361

1　陸軍三等看病人石原嘉市外七名朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月二二日
（付）伺の趣聞届　明治一五年八月二二日
2　陸軍省伺の儀御允許に付伺　明治一五年八月二二日
（付）御指令案　明治一五年八月二二日

〔119〕 明治一五年 朝鮮事変始末 二 （R116／006～192）

四〇 朝鮮国出張官吏需用の韓銭交換方順序 012

1 今般朝鮮国入出張の官吏及軍人軍属韓銭交換方順序被相定度外務陸海軍三省へ御達案仰高裁
第一局 明治一五年八月七日
（付）御達按 明治一五年八月七日
韓銭交換手続 大蔵省

2 朝鮮国出張官吏及軍人軍属韓銭交換方順序の事回議書 明治一五年八月七日

3 朝鮮国出張官吏韓銭交換方の儀に付外務省へ御達方伺 明治一五年八月九日
（付）韓銭交換の儀朝鮮国出張の渡辺国武と協議方領事へ達取計の旨御達按 明治一五年八月九日

4 韓銭買入に付渡辺の釜山派遣は相場騰貴し宜しからす呼び返へされて宜しき旨電報訳および原文 井上外務卿 太政官三条宛 明治一五年八月一三日下ノ関発

5 過刻電報中官船は韓銭の誤訳に付通知 内閣書記官 明治一五年八月一三日

6 韓銭買入の件に付渡辺呼返方上申取消ありたき旨電報訳および原文 井上外務卿 太政大臣宛 明治一五年八月一三日馬関発

四一　日進艦馬関着港の電報　021

1　日進艦馬関門司浦に到着の旨電報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月八日

（付）日進艦今朝門司浦到着の旨報知　日進艦長坪井海軍中佐　川村海軍卿宛　明治一五年八月八日馬関発

四二　清輝艦品海を発し神戸並に門司浦に着す尋て朝鮮に進航　023

1　迅鯨艦修復出帆難に付清輝艦発遣の義御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月六日

2　清輝艦昨八日品海出発に付再御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月九日

3　清輝艦神戸港着の旨昨夜電信あり速かに同港出発の旨相達に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一一年

4　只今着の旨電報　中山　山県参議宛　八月一一日馬関発

5　清輝艦今日門司浦へ着の旨電報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月一二日

6　清輝艦本日門司浦出発朝鮮へ向け進航の旨電報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月一四日

四三　侍従長山口正定清輝艦に搭し朝鮮国に赴く　029
1　清輝艦へ乗込朝鮮出張に付本日当地出発の旨御届　侍従長山口正定　内閣書記官宛　明治一五年八月八日

四四　比叡艦横須賀を発し神戸に着す尋て竹添中山両書記官本艦に搭して仁川に航す　030
1　比叡艦昨八日横須賀出帆に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月九日
2　比叡艦馬関着の電報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月一一日
3　比叡艦仁川へ向け馬関出帆の旨電報あり御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月一一日
4　竹添中山両書記官乗組仁川に向け出艦に付御届　比叡艦長有地大佐　海軍省川村海軍卿宛　明治一五年八月一一日発
6　花房帰任後の形情を探る為本日比叡艦発遣方太政大臣へ稟すべき旨要請　馬関井上　吉田宛　明治一五年八月一一日発

四五　花房公使高島少将等明治丸に搭し馬関解纜の電報　035
1　明治丸花房高島等乗組出艦の旨電報文および訳文　井上外務卿　太政官三条宛　明治一五年八月一〇日下ノ関発

四六　郵船滞港時限短縮を稟候す　037

1　別紙電報の趣に付早速三菱へ相達哉又は外務省へ照会同省より相達可然哉に付御指揮伺
明治一五年八月一二日

（付）郵船滞港の期限短縮方政府より三菱本社へ命令あるべき旨第一九六号電報原文　井上外務卿　山県参議宛　明治一五年八月一二日下ノ関発
雇汽船なし飛脚船東京丸の時間を早めて帰京の他策なき旨第一〇一号電報原文　井上外務卿　山県参議宛　明治一五年八月一二日下ノ関発
第一九六号電報訳文
仁川馬関間の通信船は一〇ノット以上のものにあらざれば用なき旨電報原文　井上外務卿　山県参議宛　明治一五年八月一六日

四七　海軍中将榎本武揚を特命全権公使に兼任し清国在勤を命す　043

1　今般支那政府の挙動最も注意を要すに付速に特命全権公使御撰任御派遣方上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月六日

2　海軍中将榎本武揚特命全権公使兼任清国在勤辞令　明治一五年八月一二日

四八　西郷参議北海道より帰京奉命の電報　045

1　西郷参議根室巡視中二三日中に当地帰還の旨電報　函館県時任　内閣書記官宛　明治一五年八月一一日函館発

2　西郷参議へ書面を以て御達の趣通知の旨電報　郷田青森県令　三条太政大臣宛　明治一

五年八月一一日青森発

3　本月二〇日頃青森県着の由報知ありとの旨電報　島岩手県令　三条太政大臣宛　明治一五年八月一一日盛岡発

4　帰京御達拝承玄武丸着船次第帰京すべき旨電報原文および訳文　西郷参議　三条太政大臣宛　明治一五年八月一三日函館発

5　二六日出帆の玄武丸に乗込帰京致すへき旨電報　西郷参議　三条太政大臣宛　明治一五年八月二三日函館発

四九　清国天津総督より軍艦二艘を芝罘に派すべき旨を上海の道台に命ぜし事を報す　052

1　天津総督五六百の兵と軍艦二艘を芝罘に派遣方上海の道台に命ぜる旨清国官吏内密談に付報知　上海品川　外務省吉田宛　明治一五年八月一三日

五〇　清国登州に向け解纜の汽船にカルトリツヂ積載並に兵士を朝鮮に派するの旨電報　053

1　在上海品川総領事より電信申越に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一四日

（付）芝罘近傍登州に向け解纜の清国会社の汽船にカルトリツヂ三十万発積載同所より一千の兵を朝鮮に派遣の旨報知　品川　外務省吉田宛　八月一四日

五一　在馬関宮本外務大書記官より朝鮮政府の書翰転致　055

1　在馬関宮本外務大書記官より朝鮮政府の書翰三通の意を採取本省へ転致に付上申　外務卿

代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一五日

（付）統理機務衙門廃止・鬱陵島の樹木伐採への苦情・大院君執政両国の友誼持続希望に付書翰三通朝鮮より接到の旨電報　下ノ関宮本　外務省吉田宛　明治一五年八月一五日発

宮本より朝鮮の事に付電報の旨報知　外務省吉田大輔　太政大臣・参議宛　明治一五年八月一五日発

五二　伊藤参議より朝鮮事変に露清関係の事情を維納公使館に報知すへき旨電報　0058

1　魯国又は支那の孰れが朝鮮の事件に手出しせしか維納公使館まて直接報知指示　維納伊藤　八月一四日

五三　上海領事より清人馬建忠等朝鮮へ派遣及丁汝昌帰着等の電報到達　0060

1　在上海品川総領事より本日電報に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一六日

（付）馬建忠本月五日朝鮮へ向け芝罘出帆の旨来電訳　品川総領事　吉田宛　一八八二年八月一六日発

朝鮮派遣の馬建忠及水師提督丁汝昌は全権を帯ひす欽差の名義を有せさる旨来電訳

品川総領事　吉田宛　一八八二年八月一六日発

2　在上海品川総領事より本月一六日電報に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一七日

（付）汽船エーシン号今朝当地発水師提督丁氏報告の為朝鮮より帰着の旨電報訳　品川総領事　吉田宛　一八八二年八月一六日発

五四　在米国高平臨時代理公使より米国と朝鮮と条約の情況を報す　065
1　在米国高平臨時代理公使より電報申越に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一六日
（付）朝鮮条約上院に付したるも議院閉会前に討議する時間なき旨電報訳　高平臨時代理公使　外務省宛　一八八二年八月一四日発

五五　英船飛魚号艦長ホスキン氏朝鮮接待委員と対話訳文　067
1　在馬関宮本外務大書記官より電報申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一八日
（付）英船飛魚号乗組たる久水の復命書に付報告　宮本　外務卿宛　明治一五年八月一七日発・着
飛魚号船長ホスキン氏韓地にて接待委員高永喜と対話内容　宮本　外務省宛　一八八二年八月一七日発・一八日着
2　宮本外務書記官電報回覧書　八月一九日

五六　参事院議官井上毅を朝鮮国に派遣す　072
1　参事院議官井上毅朝鮮国差遣辞令　太政官　明治一五年八月一九日

五七　海軍少佐田中綱常仁川港近況視察の為め同上　　073

1　海軍少佐田中綱常仁川港近況視察の為至急朝鮮国出張仰付に付上申　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一九日

2　海軍少佐田中綱常朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年一〇月一二日

3　海軍少佐田中綱常朝鮮国出張辞令案　明治一五年一〇月九日

4　海軍少佐田中綱常朝鮮国出張辞令　太政官　明治一五年八月二〇日

五八　朝鮮国礼曹判書李会正より外務卿に贈る書翰三通　　077

1　仁川及京にて殺害の日本人埋葬・国太公執政等報知の書翰　朝鮮国礼曹判書李会正　日本国外務卿井上馨宛　壬午六月

2　統理機務衙門廃止・礼曹復活の旨報知の書翰　朝鮮国礼曹判書李会正　日本国外務卿井上馨宛　壬午六月

3　鬱陵島にて貴国人樹木伐採に付抗議の書翰　朝鮮国礼曹判書李会正　日本国外務卿井上馨宛　壬午六月

4　朝鮮国礼曹判書書翰回覧書　明治一五年八月二一日

五九　金剛日進明治比叡清輝の諸艦仁川入港の電報　　082

1　朝鮮国派出仁礼海軍少将より電報に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月二一日

（付）金剛他四艦着港・公使本官高島入京日付等報知の電文　仁川港金剛艦仁礼海軍少将
川村海軍卿宛　明治一五年八月二一日発・着

六〇　花房公使朝鮮京城に到着の電報　〇八四
1　一六日花房公使京城着城内人心平穏の旨報知の電報訳　馬関宮本小一　井上外務卿宛
明治一五年八月二一日馬関発
2　一号暗号落手の旨報知の電報　宮本　佐久間書記官宛　明治一五年八月二〇日下ノ関発

六一　花房公使護衛兵朝鮮京城に入るの電報　〇八六
1　花房公使護衛兵一中隊半と共に京城内に入り未た本談判開かさる旨上申の電報　馬関菊地
中尉　参謀本部山県中将宛　明治一五年八月二一日発

六二　海軍省稟請朝鮮国発航の軍艦航海費交付　〇八七
1　朝鮮国発航の軍艦航海費用目下経費内より差繰に付別途御下付相成度上請　海軍卿川村純
義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月七日
（付）上申の趣聞届　明治一五年八月二一日
金剛・日進・天城・迅鯨各艦六ケ月分航海費概算　海軍省　明治一五年八月
2　朝鮮国発航の軍艦海費内訳書御送附に付通知　海軍権大書記官南郷茂光　太政官第一局内
閣書記官井上廉宛　明治一五年八月一五日
（付）朝鮮国へ発航軍艦航海費概算雑給庁費内訳書　海軍省　明治一五年八月

3　海軍省上請回議書　明治一五年八月一六日
4　海軍省申請の金額御下付可然に付仰高裁　第一局　明治一五年八月一六日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年八月二一日

六三　海軍主計中監荒川勇居外一名を朝鮮国に派遣す　099
1　海軍主計中監荒川勇居外一名石炭貯蓄場実験並運送都合見計として朝鮮国仁川港へ出張に付至急御裁可上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二一日
（付）上申の趣聞届　明治一五年八月二二日
2　海軍主計中監荒川勇居外一名朝鮮国出張の事奏聞書　明治一五年九月一四日
3　海軍主計中監荒川勇居外一名朝鮮国出張辞令案および御指令按　明治一五年九月一二日
4　海軍主計中監荒川勇居外一名朝鮮国出張仰付去る二三日発途に付御届　海軍卿川村純義
太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二五日

六四　在上海品川総領事より日本在留清公使へ朝鮮事変に関する回答書の趣を総理衙門に通知せし旨を報す　103
1　上海品川総領事より電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二四日
（付）日本在留清国公使へ御回答の趣総理衙門へ通知一九日今回の清国政府の処置は日本と更に関係なしとの回答の旨報知の電報訳　品川総領事　吉田宛　一八八二年八月二三日発

二千の陸兵軍艦汽船四隻に乗込一八日登州発の旨報知の電報訳　品川　外務省井上
宛　明治一五年八月二三日発

六五　在馬関宮本外務大書記官より韓人尹雄烈の事を電報す並に回報　106
1　在馬関宮本外務大書記官より電報到来に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月二五日
（付）尹雄烈生存の旨釜山浦の形状に付奥村遠心へ尋問の旨等報知の電報訳　宮本　井上
宛　一八八二年八月二四日下ノ関発
2　宮本外務大書記官電報に対し回答申遣に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一五年八月二五日
（付）尹雄烈に面会し彼の意見及暴動以後韓国の模様に付聴取り報知すへき旨電信案　井
上　馬関宮本宛　明治一五年八月二四日
3　外務卿電報案回覧書　明治一五年八月二六日

六六　花房公使電報を以て米国軍艦モノカシー艦長の好意勧解承諾可否　112
1　在下ノ関井上毅より電報あり答電に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治
一五年八月二五日
（付）甲号　花房氏は米清二国の好意勧解承諾も差支なき哉御訓令要請の旨電報和訳
井上毅　外務卿宛　明治一五年八月二四日
乙号　朝鮮に忠告し神速に相当の満足を与えしむるに止まらしめは領承すへき等の旨

回答　井上外務卿　井上毅宛

六七上　海軍省に令して孟春艦を朝鮮国に回航せしむ　115

1　孟春艦至急朝鮮国へ回航取計に付海軍省へ御達案　明治一五年八月二六日

2　孟春艦昨二八日発艦に付朝鮮廻航の義公達御取計要請方照会　南郷海軍権大書記官　内閣書記官宛　明治一五年八月二九日

3　孟春艦仁川港へ向け本日品海発艦に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二八日

4　海軍省届回覧書　明治一五年八月三〇日

六七下　帆前船開運丸釜山より帰航　119

1　在下ノ関宮本大書記官より電信到来に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二八日

（付）帆前船開運丸釜山より来る等の旨報知の電報　宮本　井上外務卿宛　八月二八日発

2　宮本外務大書記官電報回覧書　明治一五年八月二九日

六八　磐城天城両艦長朝鮮釜山浦近況報告　122

1　在元山津磐城艦長青木少佐より報告に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月二八日

（付）朝鮮国元山津景況報告　磐城艦長海軍少佐青木住真　海軍卿川村純義宛　明治一五年八月一九日
2　磐城艦長報告回覧書　明治一五年八月二九日
3　天城艦長報告東海鎮守府より届出に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一五年八月三一日
（付）在釜山浦天城艦長より朝鮮国釜山現今の景況見聞の儀届出に付進達　東海鎮守府司令長官代理海軍少将松村淳蔵　海軍卿川村純義宛　明治一五年八月三〇日
現今当地景況見聞の御届　天城艦長海軍中佐滝野直俊　海軍少将松村淳蔵宛　明治一五年八月二三日
4　天城艦長報告回覧書　明治一五年九月一日

六九上　在上海領事品川忠道報告清兵朝鮮へ派遣の員数　131
1　ヒットマンより朝鮮派遣の清兵合計三千人との旨報告に付報知　品川　井上外務卿宛　八月二七日上海発
2　品川総領事電報回覧書　明治一五年八月二九日

六九下　花房公使より条約締結並清人馬建忠大院君を諭して支那軍艦に搭し天津に発航するの電報到達　132
1　過刻上申の電報の外更に二通電報到達に付上申および花房弁理公使より電報到来に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月三日

（付）朝鮮国正副全権委員来り談判を開き三〇日大満足にまで条約締結の旨報知の電報
花房　井上外務卿宛　九月二日馬関発
日韓両国間約定の大要報知の旨電報　中山書記官　外務卿宛　九月二日馬関発
北京にて査問すべく二六日丁汝昌大院君を連れ天津へ出帆の旨報知の電報　花房
井上宛　九月二日馬関発

七〇　花房公使談判の概況報告　139
1　朝鮮国との談判経過報告の電信訳　下ノ関宮本　井上外務卿宛　九月三日発

七一上　在朝鮮港軍艦進退並迅鯨艦帰港の電報　142
1　仁川仁礼海軍少将並下ノ関迅鯨艦より電報到来に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月三日
（付）金剛比叡日進磐城各艦進退に付報知の電報　仁礼海軍少将　川村海軍卿宛　明治一五年九月二日
公使三一日馬関着及迅鯨艦内修復の旨報知の電報　迅鯨艦福島海軍大佐　川村海軍卿宛　明治一五年九月二日下ノ関発
2　朝鮮国派遣の軍艦進退の儀中艦隊司令官海軍少将仁礼景範より届出に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一五日
（付）迅鯨日進金剛比叡各艦進退の儀に付御届　済物浦停泊金剛艦海軍少将仁礼景範　海軍卿川村純義宛　明治一五年九月三日

3　迅鯨艦修復落成の旨届出に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月八日

4　迅鯨艦御用済に付直に帰航方相達の旨御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一五日

5　朝鮮国派遣軍艦進退の儀並迅鯨艦帰航の事回覧書　明治一五年九月一八日

七一下　新聞紙雑誌等に掲載する朝鮮事変に係る論説を検査す　一五〇

1　一般の動静民業の挙正にも差響き候儀に付朝鮮事件に係る新聞紙等掲載の件々都て検査実施に付伺　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月

（付）伺の通　明治一五年八月二五日

朝鮮事変関係論説雑報に付警視庁府県庁に検査掛を設け検査の上掲載取計の旨達案

内務卿　警視庁・府県宛

左の数項を目途とし取捨の上記載せしむべき旨訓示案　内務卿　各庁府県長官宛

2　内務省伺回議書　明治一五年八月二二日

（付）御指令案

七二　朝鮮事変に関し架空の論説謾言を掲載し人心を煽動するの新聞社員諸官庁の門に入るを禁絶す　一五四

1　諸官庁出入禁絶の明治日報・報知新聞・時事新報の三社改悛の模様に付出入差許方可然付伺　明治一五年九月四日

2　朝野新聞・自由新聞の社員向後諸官庁出入禁絶の旨書面草案

3　時事新報社員向後関係各官庁出入禁絶の旨書面草案
4　明治日報探訪者外務省にて出入禁絶の旨通知文
5　自今各社にて機密漏洩の者は外務省の出入を拒絶し官報下付も許さざる旨通知草案

七三　朝鮮事変に由り献金及従軍出願者賞詞　164
1　朝鮮事変に因り献金及従軍願出の輩へ賞詞の儀に付回議書　明治一五年九月五日
（付）御内達案　太政大臣　府県長官宛　明治一五年九月五日
2　軍資金献金従軍請願者に付民権党より駁撃もあり愛国の気象発揚の為一片の賞辞を与へ其志を嘉賞すへき旨建議
3　献金及従軍出願者等へ告諭方の儀各地方長官へ内達に付通牒　太政大臣三条実美　内務・大蔵・陸軍・海軍各卿宛　明治一五年九月五日

七四　外務省稟請在朝鮮国公使館凶変に係る賞金交付　167
1　在朝鮮国公使館凶変に係る事務弁理に付差向金三万円別途御下付の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月三一日
（付）上申の趣聞届　明治一五年九月四日
2　外務省上申の儀予備金より先以て三万円仮渡方上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月九日
3　外務省上申回議書　明治一五年八月一九日
4　外務省上申御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年八月一九日

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年九月四日

5　派出員携帯用意金等出途夥多にて難行に付尚金三万円至急御下付の儀上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一日
（付）上申の趣聞届　明治一五年八月二五日

6　外務省上申の義御下渡の外致方なき旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一九日

7　外務省上申回議書　明治一五年八月二二日

8　外務省請求の通御聞届可然に付仰高裁　第一局　明治一五年八月二二日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年八月二五日

9　両度御下付の金六万円既に払切に付尚金三万円至急御下付の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二六日
（付）上申の趣聞届　明治一五年九月六日

10　外務省上申の件御裁可可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月三〇日

11　外務省上申回議書　明治一五年九月一日

12　外務省上申の件御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年八月三一日
（付）御指令案および大蔵省へ御達按　明治一五年九月六日

七五　外務省稟請朝鮮事変に関し用船費金交付

1　朝鮮国事変に付工部省三菱会社より借入雇上の当省用船費用として通貨一万円銀貨一万五千

円御下付の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二一日
（付）上申の趣聞届　明治一五年九月六日
品川丸・千歳丸・明治丸一ヶ月雇船費概算
2　外務省上申の通御裁可可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月二八日
3　外務省上申回議書　明治一五年八月三一日
4　外務省上申の儀御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年八月三一日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年九月六日
5　追々支払不足に付銀貨二万八千円別途御下付の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一六日
（付）上申の趣聞届　明治一五年一〇月一四日
品川丸・千歳丸・明治丸船費取調額概略
6　外務省上申の通御裁可可然の旨上申　大蔵卿松方正義代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二日
7　外務省上申回議書　明治一五年一〇月九日
8　外務省上申の件御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一〇月九日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一〇月一四日

〔120〕 明治一五年 朝鮮事変始末 三 （R116／195～437）

七六 参事院議官補中山寛六郎朝鮮国より帰朝 198
1 昨五日帰京に付御届 参事院議官補兼太政官権少書記官中山寛六郎 内閣書記官宛 明治一五年九月六日
2 中山寛六郎拝謁仰付酒饌下賜に付来七日参内方御達 宮内卿徳大寺実則 内閣書記官宛 明治一五年一二月四日
3 来一七日参内の儀本人へ相達に付宮内書記官へ御回答案 明治一五年一二月四日

七七 侍従長山口正定朝鮮国より帰朝 201
1 本日帰着に付御届 侍従長山口正定 内閣書記官宛 明治一五年九月七日

七八 中山参事院議官補朝鮮国談判締約の事情を内閣に於て陳述 202
1 中山太政権少書記官昨日帰京本日内閣へ出頭事情陳述に付聖上臨御左大臣参議出席方御取計要請の旨上申 外務卿井上馨 太政大臣三条実美宛 明治一五年九月六日

七九　花房公使外務卿に呈する書翰（附　商弁の手続並馬建忠の挙動報告）　203

1　朝鮮国と談判締約の経過大略に付報告　弁理公使花房義質　外務卿井上馨宛　明治一五年八月三〇日

（付）丁汝昌・馬建忠の挙動報告

談判締約の経過詳細報告

第壱号　近藤領事携帯托仁川府使送寄政府書函　弁理公使花房義質　統理機務大臣・領議政宛　明治一五年八月五日

第弐号　領事兼外務書記官近藤真鋤書翰　仁川府使宛　明治一五年八月一二日

第三号　朝鮮国領議政洪淳穆書翰　日本国弁理公使宛　壬午六月二九日（八月一二日）

イ号　日本公使館書記官掲示　明治一五年八月

第五号　領事近藤真鋤書翰　仁川府使任栄鎬宛　明治一五年八月一四日

第六号　地方官任栄鎬書翰　領事官近藤真鋤宛　壬午七月一日（八月一四日）

第七号　領事近藤真鋤書翰　仁川府使任栄鎬宛　明治一五年八月一四日

第八号　地方官任栄鎬書翰　領事官近藤真鋤宛　壬午七月一日（八月一四日）

第九号　弁理公使花房義質書翰　京畿観察使宛　明治一五年八月一五日

第一〇号　京畿観察使洪祐昌書翰　花房公使宛　壬午七月二日（八月一五日）

第一一号　日本国弁理公使花房義質上奏文　明治一五年八月一四日

第一二号　八月一六日公使進京の途上にて差備官玄昔運呈函

第一三号　八月二〇日公使謁見の節帯書国王に呈閲の後領議政へ交付せる約単

第一四号　弁理公使花房義質書翰　領議政洪淳穆宛　明治一五年八月二一日
第一五号　弁理公使花房義質書翰　領議政洪淳穆宛　明治一五年八月二一日
第一六号　領議政洪淳穆書翰　弁理公使花房義質宛　壬午七月八日
第一七号　領議政洪淳穆書翰　弁理公使花房義質宛　壬午七月八日（八月二二日収到）
第一八号　弁理公使花房義質上奏文　明治一五年八月二二日
第一九号　弁理公使花房義質書翰　朝鮮国政府各位宛　明治一五年八月二二日
第二〇号　領議政洪淳穆書翰　弁理公使花房義質宛　壬午七月一〇日（八月二三日収接）
第二一号　八月二四日仁川府使送寄書翰　明治一五年八月二四日
第二二号　領議政洪淳穆書翰　弁理公使花房義質宛　壬午七月一二日（八月二五日由仁川府使送来）
第二三号　弁理公使花房義質書翰　領議政洪淳穆宛　明治一五年八月二六日（八月二六日托仁川府使発寄）
第二三号　領議政洪淳穆書翰　弁理公使花房義質宛　壬午七月一四日（八月二八日由仁川府使寄来）
第二四号　李裕元全権大臣・金宏集全権副官委任状　開国四九一年七月一四日（八月二八日仁川府使任栄鎬持参）
第二五号　済物浦条約および日朝修好条規続約条文　日本国弁理公使花房義質・朝鮮国全権大臣李裕元・全権副官金宏集　明治一五年八月三〇日

（開国四九一年七月）

八〇　故堀本工兵中尉等葬式の電報　249

1　在馬関宮本外務大書記官より電信到達に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一五年九月八日

（付）九月三日堀本以下済物浦にて葬式済等の旨報知の電報　宮本　井上外務卿宛　九月七日発

2　外務省上申回覧書　明治一五年九月九日

八一　花房公使談判筆記　252

1　中山書記官韓地より携帯の書類一括御入用の由に付差進　公信局長代理外務少書記官斎藤修一郎　内閣書記官宛　明治一五年九月一九日

2　九月三日附花房公使より書翰並談判筆記書類差越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一四日

（付）明治一五年八月二八日於比叡艦花房公使朝鮮全権大臣李裕元副官金宏集と談判大意
同二九日花房公使金宏集と金剛艦に於て接話筆記
八月二九日花房公使花島別将の花山政堂に於て全権大臣李裕元と対話筆記
同三〇日済物浦仮屋に於て弁理公使花房義質朝鮮全権大臣李裕元副官金宏集と対話筆記
談判筆記類取纏差出等の旨書翰　弁理公使花房義質　外務卿井上馨宛　明治一五

年九月三日
八月二三日吏曹参判金宏集従事官李祖淵来館近藤書記官応接大意
漢城仁川遭難者祭文　弁理公使花房義質
堀本中尉以下改葬の節会葬韓官および供物目録

3　朝鮮国八月三〇日以後の実況の儀中艦隊司令官仁礼海軍少将より報告に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一五日
（付）八月三〇日以後の実況報告　済物浦碇泊金剛艦海軍少将仁礼景範　海軍卿川村純義宛　明治一五年九月三日
朝鮮元山津景況報告　元山津碇泊磐城艦長海軍少佐青木住真　海軍少将仁礼景範宛
明治一五年八月二八日

4　海軍卿上申回覧書　明治一五年九月一八日

八二上　英米両公使朝鮮談判結局の祝詞

1　英米両公使より今般の事件に関し祝詞申越に付御回附　吉田外務大輔　岩倉右大臣宛
明治一五年九月一三日
（付）談判好結果懇賀の旨電報訳　パークス　外務卿宛　九月三日
談判結了に付祝詞の旨書翰　ハリー、エス、パークス　井上宛　九月四日
事件平穏結了に付祝賀の旨書翰　ジョン、エー、ビンカム　井上宛　一八八二年九月三日

八二下　仁礼海軍少将より朝鮮国実況郵報　290

1　中艦隊司令官仁礼海軍少将より去月三〇日迄の実況並三〇日各艦進退の義郵報に付御届
海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一一日
（付）秘出第一八号　八月一六日後三〇日迄の実況御届　済物浦金剛艦海軍少将仁礼景範
海軍卿川村純義宛　明治一五年九月
甲号　朝鮮派遣各艦の動静日録（八月一七日～三〇日）
乙号　往復書翰等綴
第壱号　領事兼外務書記官近藤書翰二通　朝鮮国仁川府使宛　明治一五年八月一二日
第二号　領議政洪淳穆書翰　日本国弁理公使宛　壬午六月二九日
第三号　弁理公使花房義質書翰　京畿監察使宛　明治一五年八月一五日
第四号　京畿道観察使洪祐昌書翰　花房公使宛　壬午七月二日（我八月一五日）
第五号　玄昔運書翰
第六号　済物浦条約条文
第七号　弁理公使花房義質書翰　領議政洪淳穆宛　明治一五年八月二一日
第八号　弁理公使書翰　領議政宛　明治一五年八月二一日
第九号　領議政書翰　弁理公使宛　壬午七月八日（八月二二日）
第一〇号　領議政書翰　弁理公使宛　壬午七月八日（八月二二日）
第一一号　弁理公使書翰　朝鮮国政府各位宛　明治一五年八月二二日

第一二号　弁理公使花房義質上奏文　明治一五年八月二二日
第一三号　領議政書翰　弁理公使宛　壬午七月一〇日（八月二四日）
第一四号　領議政宛書翰　明治一五年八月二四日
第一五号　領議政書翰　弁理公使宛　壬午七月一二日（八月二六日）
第一六号　弁理公使書翰　領議政宛　明治一五年八月二六日
丙号　八月二三日吏曹参判金宏集理事官李祖淵来館近藤領事応接大意
丁号　大院君の動向に付当地の巷説通報並に我談判一日も躊躇すへからさる旨進言
（附　馬建忠の榜示書　光緒八年七月一三日）　杉山少佐　堀江大佐宛
八月二八日
秘出第一九号　朝鮮滞泊各艦進退の義に付御届　海軍少将仁礼景範　海軍卿川村純義宛　明治一五年八月三〇日
2　海軍卿上申回覧書　明治一五年九月一二日
3　金剛艦去月六日馬関発航以来一五日迄の現況仁礼海軍少将より郵報に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一三日
（付）馬関発航以来の現況御届　海軍少将仁礼景範　海軍卿川村純義宛　明治一五年八月一六日
甲号　金剛艦の動静日録（八月六日～一六日）
鄭志鎔・仁川府使・接判官尹成鎮書翰
朝鮮政府より日本政府に送りたる書柬謄本
済物浦将校貢衡善等三名宛書翰

丙号　日本国弁理公使花房義質書翰　朝鮮国統理機務大臣・領議政宛
4　海軍卿上申回覧書　明治一五年九月一五日
八三上　在朝鮮国井上参事院議官の信書　331
1　支那の屯兵の挙動・馬建忠天津行等の旨報知　井上毅　山県参議・井上外務卿宛
九月三日
2　井上参事院議官信書回覧書　明治一五年九月一五日
八三下　朝鮮政府に於て犯罪人処罰等の電報　335
1　朝鮮政府本月七日犯罪人九名捕縛一一日処断等の旨報知の電報　馬関宮本　井上外務卿宛
九月一六日発
2　此の上暴徒探捕処罰は止め猶蛮夷侵入云々の碑撤去発令方忠告の旨電報　花房　井上宛
九月一六日
3　馬建忠より罪人捕縛及償金軽減に付内密要請の旨報知の電報　宮本　井上宛　明治一五
年九月一六日馬関発
4　格段なる報聞なき旨報知の電報　宮本　井上宛　九月一七日
八四　和歌浦丸玄武丸帰港及朝鮮国使節並随員の氏名通報　339
1　馬関出張宮本書記官より電報到来に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美　明治一
五年九月一七日

（付）和歌ノ浦丸仁川より帰る旨報知　宮本　井上外務卿宛　九月一六日下関発
井上毅二三日の内帰る等の旨報知　宮本　井上外務卿宛　九月一六日下関発
王妃生存の旨・朴泳孝他使節として来日の旨報知　宮本　井上外務卿宛　明治一五年九月一六日発
玄武丸只今着の旨報知　宮本　井上外務卿宛　九月一六日発
井上毅帰京に付三菱本社へ御達ありたき旨報知　宮本　井上外務卿宛　九月一六日発

八五　朝鮮政府於て洋夷侵入云々の碑を毀つの議ある旨電報　三四五
1　朝鮮政府目今洋夷侵入云々の碑撤去に付評議中等の旨報知の電報　宮本　井上宛　九月一八日発

八六　礼曹判書李会正の書束返却の電報　三四六
1　礼曹判書李会正よりの書束取消方朝鮮政府決議に付本月一三日書束返却の旨電報
宮本　井上宛　九月一八日発

八七上　金剛比叡清輝の諸艦馬関に帰港及天城孟春磐城三艦朝鮮諸港に於て交替　三四七
1　比叡清輝の二艦下ノ関帰着の旨宮本書記官より電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一八日
（付）比叡艦仁川より帰る旨電報　宮本　井上外務卿宛　九月一八日発
二三日の内清輝艦仁川より帰る筈に付電報　宮本　井上外務卿宛　九月一八日発

2　花房両三日の内馬関に着すべき旨電報　宮本　内閣書記官宛　明治一五年九月一九日発
（付）在馬関宮本外務大書記官より電報に付回付　外務少書記官斎藤修一郎　内閣書記官宛　明治一五年九月一八日
3　金剛艦仁川より帰る旨電報　宮本　井上外務卿宛　九月一八日発
4　比叡清輝の二艦馬関帰着の旨宮本書記官より電報に付通知　公信局長代理外務少書記官斎藤修一郎　内閣書記官宛　明治一五年九月一八日
（付）比叡艦仁川より帰る旨電報　宮本　井上外務卿宛　九月一八日発
二三日の内清輝艦仁川より帰る筈に付電報　宮本　井上外務卿宛　九月一八日発
5　宮本外務大書記官電報回覧書　明治一五年九月一九日
6　金剛比叡両艦下ノ関帰着天城孟春磐城三艦交代等の義仁礼海軍少将より電報に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一九日
（付）金剛比叡二艦本日下ノ関到着の旨電報および仁川港へ天城艦釜山浦へ孟春艦を回し磐城艦に帰朝指示の旨電報　馬関仁礼少将　川村海軍卿宛　明治一五年九月一九日
7　海軍卿上申回覧書　明治一五年九月二〇日

八七下　花房公使秘密信及馬建忠書翰　360
1　花房弁理公使よりの機密信及馬建忠書翰三括上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一五年九月二五日
（付）機密第七号　朝鮮屯在の清兵の動向・兇徒処分の件等に付報知　弁理公使花房義質
外務卿井上馨宛　明治一五年九月九日

機密第八号　兇徒処分の件・償金払方の件に付報知　弁理公使花房義質　井上外務卿宛　明治一五年九月一二日

馬建忠来簡写　七月二一日

第七号附録　九月七日東大門外関王廟清国水師提督呉長慶本陣於て中田敬義と弁理各軍営務袁世凱と対話筆記

馬建忠再渡の有無に付袁世凱返書　中田敬義宛

芝罘実況に付呉長慶駐営に中田敬義を遣し尋問の大要報知

2　外務省上申回覧書　明治一五年九月二六日

八八　花房公使及朝鮮使節馬関に帰港　376

1　馬関出張宮本大書記官より電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二二日

（付）花房は明治丸に搭し明日馬関に到着すへき等の旨電報　宮本　吉田宛　明治一五年九月二二日馬関発

2　迅鯨清輝外二艦着発の儀届出に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二五日

（付）迅鯨清輝金剛比叡着発日時報知の旨通知　東海鎮守府・馬関金剛仁礼海軍少将　海軍省・川村海軍卿宛　明治一五年九月二二日・二四日

3　海軍省届回覧書　明治一五年九月二六日

4　公使馬関到着に付仁礼海軍少将より電報に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛

明治一五年九月一九日

（付）公使本日只今着の旨電報　馬関仁礼少将　川村海軍卿宛　九月一八日

5　花房弁理公使及朝鮮使節只今馬関到着の旨電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二三日

6　馬関花房公使より電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二三日

（付）只今馬関到着我が請求に応じ洋夷侵犯云々の碑を毀つべき旨布告等報知の電報　花房　井上宛　九月二三日発

7　花房公使及朝鮮使節を載せ平安にて朝鮮より帰着の旨電報　明治丸ゼームス　外務卿宛　九月二三日発

8　我公使館保護の為一中隊を残し悉く引上・支那の軍艦軍勢の現状等に付報知　花房　吉田大輔宛　九月二三日

八九　花房公使入京参朝及復命手続並に復命書

1　花房弁理公使着京の節の御待遇に付御取調方要請（式部寮記録抄出）　内閣書記官　丸岡式部権頭宛　明治一五年九月二四日

2　花房公使横浜上陸より参朝に至る迄の諸手続に付伺　明治一五年九月二五日

3　花房弁理公使横浜着艦入京参朝手続の事回議書　明治一五年九月二五日

4　花房弁理公使横浜着艦尋て入京手続および花房公使参朝手続

（付）花房弁理公使入京参朝手続御治定に付通牒（式部寮記録抄出）　内閣書記官　宮内

書記官宛　明治一五年九月二五日

5 花房弁理公使横浜着艦より参内迄の手続御廻付　式部頭鍋島直大　外務大輔吉田清成宛
明治一五年九月二六日

6 外務卿への復命等の筋不相立不都合に付手続御追加希望　吉田清成　鍋島式部頭宛　九月二六日
（付）花房弁理公使入京待遇手続

7 花房公使明二六日神戸発の由に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二五日

8 花房弁理公使帰着に付別仕立汽車用意並兵隊差出方上申　宮内卿代理宮内大輔杉孫七郎　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二六日
（付）陸軍省・工部省へ御達按　太政大臣三条実美　明治一五年九月二六日
上申の趣聞届の旨御指令按　明治一五年九月二六日

9 宮内省上申別仕立汽車用意並兵隊差出方の儀御允許に付伺　明治一五年九月二六日
（付）御指令案

10 明二八日花房弁理公使帰朝復命に付諸達按取調伺　明治一五年九月二七日
（付）フロックコート着用参内に付申入　宮内卿代理宮内大輔杉孫七郎　明治一五年九月二七日
護衛騎兵新橋停車場へ参集に付照会　式部頭鍋島直大　陸軍卿大山巌宛　明治一五年九月二七日
明二八日花房弁理公使入京参内に付通達　式部頭　東京府知事・警視総監宛　明

治一五年九月二七日
新橋停車場より皇居迄及皇居より花房公使邸迄の道筋申入　式部寮　陸軍省宛
明治一五年九月二七日
花房公使東海鎮守府埠頭より上陸休憩に付差支なき様取計方照会・申入　式部寮
海軍省・東海鎮守府宛　明治一五年九月二六日
花房公使新橋停車場にて休憩に付場所御取設ありたく照会・申入　式部寮　工部省
・新橋鉄道局宛
花房公使汽車にて横浜出発に付差支なき様取計方申入　式部寮　工部省宛　明治
一五年九月二七日
花房公使参内に付皇居御門御開扉方申入　宮内省・式部寮　近衛局・門監長宛
明治一五年九月二七日
花房公使参内に付拝謁場所布設等取計方申入　内廷課宛　明治一五年九月二七日
花房公使帰着に付兵庫県へ御通信に付伺　式部寮　兵庫県宛　明治一五年九月二
五日
兵庫県より通信回答あり呈高覧　明治一五年九月二六日
花房公使以下乗用の為四人乗馬車二輌借用方照会　式部寮　神奈川県宛　明治一
五年九月二五日
馬車一輌の外なき旨回答　神奈川県　式部寮宛　明治一五年九月二六日
外務大輔より内申に付通牒　内閣書記官　宮内書記官宛　明治一五年九月二六日
神奈川県令より花房公使到着の節横浜市民にて招待願出の旨申出に付申上　吉田清

成　三条公宛　九月二六日
別仕立汽車出発時限御確定次第至急報知方照会　鉄道局　式部寮宛　明治一五年九月二七日
午前九時一五分横浜出発治定の旨回答　式部寮　鉄道局宛　明治一五年九月二七日
新橋停車より仮皇居迄および仮皇居より花房公使邸迄の道筋　御厩課　九月二七日
花房弁理公使帰朝復命に付参内人名
花房公使上陸より復命書奉呈までの手順記事

11　弁理公使花房義質より復命書差出に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月三〇日
（付）復命書　弁理公使花房義質　外務卿井上馨宛　明治一五年九月二八日
済物浦条約および日朝修好条規続約要説

12　外務省上申弁理公使花房義質復命書回覧　明治一五年一〇月三日

〔121〕　明治一五年　朝鮮事変始末　四　（R117／006～132）

九〇　弁理公使花房義質勲位進級

1　朝鮮駐剳弁理公使花房義質叙勲に付仰允裁　賞勲局　明治一五年九月二七日
2　弁理公使花房義質正五位勲三等に進級議案　明治一五年九月二五日
（付）乙号議案　勲二等旭日重光章
3　賞勲局上申裁可書　明治一五年九月二七日
4　賞勲局上申回議書　明治一五年九月二七日
5　弁理公使花房義質明二八日太政大臣奉授式執行に付上申　賞勲局　明治一五年九月二七日
6　弁理公使花房義質奉授式の儀に付伺　明治一五年九月二七日
（付）宮内省へ御達案　明治一五年九月二七日
7　弁理公使花房義質へ勲記の外御沙汰書御渡方要請に付照会　賞勲局主事平井常昌　内閣書記官局宛　明治一五年九月二七日
（付）御沙汰案
8　弁理公使花房義質へ御沙汰に付伺　明治一五年九月二七日

010

（付）御沙汰案　明治一五年九月二八日

九一　参事院議官井上毅朝鮮国より帰朝　019
1　本日帰京に付御届　参事院議官井上毅　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二八日

九二　大蔵大書記官渡辺国武朝鮮国より帰朝　020
1　大蔵大書記官渡辺国武本月二七日帰京に付御届　大蔵卿松方正義代理参事院議長山県有朋
太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二九日

九三　陸軍会計軍吏副今沢和太郎を朝鮮国に派遣す　021
1　陸軍会計軍吏副今沢和太郎朝鮮国差遣に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛
明治一五年一〇月三日
2　陸軍会計軍吏副今沢和太郎朝鮮国差遣の事奏聞書　明治一五年一〇月三日
3　陸軍会計軍吏副今沢和太郎朝鮮国差遣辞令案　明治一五年一〇月四日

九四　陸軍会計卒中西新太郎外一名を朝鮮国に派遣す　024
1　陸軍会計卒中西新太郎朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月三日
（付）伺の趣聞届　明治一五年一〇月四日
2　陸軍会計一等書記田中明格朝鮮国差遣に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明

治一五年一〇月三日

3　陸軍会計卒中西新太郎始二名朝鮮国派遣の儀御允許に付伺　明治一五年一〇月三日

（付）御指令案

九五　陸軍歩兵中尉磯林真三朝鮮国公使館附を命す並告諭　027

1　陸軍歩兵中尉磯林真三朝鮮国公使館附仰付に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月三日

2　陸軍歩兵中尉磯林真三朝鮮国公使館附仰付の事奏聞書　明治一五年一〇月四日

3　陸軍歩兵中尉磯林真三朝鮮国公使館附仰付の事　明治一五年一〇月三日

（付）辞令案　一〇月四日

4　陸軍歩兵中尉磯林真三へ告諭の儀に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月六日

（付）告諭

5　陸軍省上申磯林真三へ告諭の儀に付外務省へ御通達方伺　明治一五年一〇月七日

（付）御通達按　太政大臣　外務卿代理外務大輔吉田清成宛　明治一五年一〇月一〇日

九六　金剛外二艦品川湾へ帰着並仁礼海軍少将帰朝　034

1　金剛比叡清輝三艦本日品川湾へ帰着に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月五日

2　海軍省届回覧書　明治一五年一〇月五日

九七　高島陸軍少将帰朝
1　本日帰京に付御届　陸軍少将高島鞆之助　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月五日　036
九八　荒川海軍主計中監帰朝
1　荒川海軍主計中監去る五日帰朝に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一三日　037
九九　陸軍省稟請朝鮮事変の際準備の費金交付
1　朝鮮事件に係る諸費別紙概算金額至急御下附有之度伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一二日　038
（付）伺の趣聞届　明治一五年一〇月六日
朝鮮事件臨時費予算差引表
2　陸軍省申出の通御許可可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月二五日
3　陸軍省伺回議書　明治一五年九月三〇日
4　陸軍省伺の儀御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年九月二九日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一〇月六日
一〇〇　在清国田辺臨時代理公使より総理衙門の意向大略報告　044

1　田辺臨時代理公使より密信総理衙門の意向略供内覧の旨書翰　吉田清成　三条太政大臣宛
九月二五日
（付）機密信第二八号　総署へ出頭の独乙公使フォンブランド氏より此度清政府は日本の談判に干渉の志望なし等の尋問大意報知　臨時代理公使田辺太一　外務卿井上馨宛
明治一五年九月七日

2　在清国田辺臨時代理公使報知回覧書　明治一五年九月二六日

一〇一　朝鮮事変に関する清国の照会并照復　047

1　朝鮮事変に関する大日本国署理欽差大臣田辺宛書翰　光緒八年八月一九日

2　朝鮮事変に関する大清欽命総理各国事務王大臣宛書翰　明治一五年一〇月一日

一〇二　在上海榎本公使より大院君は直隷総督の管守に附せられし旨を報す　050

1　在上海榎本公使より電報に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛
明治一五年一〇月七日
（付）去月二三日及二七日の詔諭に依り大院君は直隷総督の管守に附せられ帰国禁絶の旨報知　上海榎本　外務省宛　一〇月六日

一〇三　外務省稟して朝鮮使節接待費額を定む　052

1　朝鮮使節滞在中食料其他一ヶ月の概算金五千円の見込に付至急御裁令有之度伺　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月四日

（付）上申の趣聞届　明治一五年一〇月一〇日
朝鮮使節は通常の使節と性質を殊にし接待丁寧に被成候方上申　花房義質　吉田外務大輔宛　一〇月四日

2 外務省上申の件至急を要するに付御裁可可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月九日

3 外務省上申回議書　明治一五年一〇月一〇日

4 外務省上申に付御指令方仰高裁　第一局　明治一五年一〇月一〇日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一〇月一〇日

一〇四 井上外務卿及朝鮮使節東京丸に搭して神戸港を発し横浜に着す　057

1 井上外務卿及朝鮮使節一行本日東京丸乗組神戸出帆の趣電信到来に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一〇日

2 朝鮮国使節一二日横浜到着の旨電報に付旅館手配に付御届　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一〇日

3 井上外務卿及朝鮮使節神戸出帆の事外一件回議書　明治一五年一〇月一一日

一〇五 朝鮮国正使朴泳孝副使金晩植国書捧呈の為め謁見及随員内謁見　060

1 朝鮮国使節朴泳孝本日横浜着港に付御届　外務卿井上馨代外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一三日

2 外務省届朝鮮国使節到着の事　明治一五年一〇月一四日

3　朝鮮国正使国書奉呈に付来る一九日謁見仰付方申進　宮内卿徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一六日

（付）朝鮮国正使朴泳孝副使金晩植国書捧呈の為謁見日時に付照会　外務卿井上馨　宮内卿徳大寺実則宛　明治一五年一〇月一四日

4　宮内省上申朝鮮国正使謁見の事　明治一五年一〇月一六日

5　朝鮮使節一行の閔泳翌（ママ）金玉均明一九日内謁見仰付に付申進　宮内卿徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一八日

（付）閔泳翌金玉均へ内謁見の儀御奏聞の上至急御回答方照会　外務卿井上馨　宮内卿徳大寺実則宛　明治一五年一〇月一七日

6　宮内省上申朝鮮国使及随員内謁見の事　明治一五年一〇月一八日

7　朝鮮国正使国書奉呈に付来る一九日謁見仰付方申進　宮内卿徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一六日

（付）朝鮮国正使朴泳孝副使金晩植国書捧呈の為謁見日時に付照会　外務卿井上馨　宮内卿徳大寺実則宛　明治一五年一〇月一四日

8　宮内省上申朝鮮国正使謁見の事　明治一五年一〇月一六日

9　朝鮮使節一行の閔泳翌金玉均明一九日内謁見仰付に付申進　宮内卿徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一八日

（付）閔泳翌金玉均へ内謁見の儀御奏聞の上至急御回答方照会　外務卿井上馨　宮内卿徳大寺実則宛　明治一五年一〇月一七日

10　宮内省上申朝鮮国使及随員内謁見の事　明治一五年一〇月一八日

一〇六　朝鮮使節より礼曹判書李会正の謝罪状を呈す　074
1　朝鮮使節より礼曹判書李会正の謝罪状本日差出に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一六日
（付）今般軍乱に付礼曹判書李会正書翰　外務卿井上馨宛　壬午八月
兇徒処断等に付書翰

一〇七　外務書記官兼領事近藤真鋤に命して朝鮮国京城に在勤せしむ　077
1　近藤真鋤外務書記官兼領事任命朝鮮国京城公使館在勤仰付に付上申　外務卿井上馨代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月六日
2　近藤真鋤判事兼任従前の通に付御回答申進　外務書記官　内閣書記官宛　明治一五年一〇月七日
3　近藤真鋤辞令に付回議書　明治一五年一〇月六日
（付）宣旨案および辞令案　一〇月一九日
4　近藤真鋤辞令奏聞書　明治一五年一〇月一六日
5　近藤真鋤辞令（辞令録抄出）　太政官　明治一五年一〇月一九日

一〇八　海軍省稟請比叡外二艦朝鮮国回航費交付　082
1　比叡外二艦朝鮮国回航費別途御下付の義上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月五日

（付）上請の趣聞届　明治一五年一〇月一四日
　比叡・清輝・孟春各艦六ケ月分航海費概算　海軍省　明治一五年九月
2　比叡艦外二艦朝鮮国廻航費の内雑給庁費内訳書御送付　南郷海軍権大書記官　太政官第一局井上内閣大書記官宛　明治一五年九月二六日
（付）朝鮮国へ発航軍艦航海費概算雑給庁費内訳書
3　海軍省上請の件御裁可可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年九月一八日
4　海軍省上請回議書　明治一五年一〇月九日
5　海軍省上請に付仰高裁　第一局　明治一五年一〇月九日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一〇月一四日

一〇九　宮本外務大書記官馬関より帰京　092
1　去る九月二九日下ノ関引払一昨一四日帰京に付御届　外務大書記官宮本小一　内閣書記官宛　明治一五年一〇月一六日

一一〇　雇仏国人ボアソナードに慰労金を下賜す　093
1　朝鮮事件の功労の賞として御雇ボアソナードへ金一千円賜与に付仰高裁　明治一五年九月三〇日
2　金千円御恩賜に付御厚遇鳴謝の旨書翰二通　ジエ、ボアソナード　山県参議・井上参議宛
　一八八二年一〇月二四日

一一一　田中海軍少佐朝鮮国より帰朝　095

1　海軍少佐田中綱常九月二七日帰京に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二三日

一一二　近藤外務書記官外七名叙勲　096

1　朝鮮在勤外務書記官近藤真鋤外七名叙勲の儀議定に付仰允裁　賞勲局　明治一五年一〇月一三日

（付）申奏の通

外務書記官兼領事近藤真鋤叙勲議案　明治一五年一〇月一二日

外務二等警部岡兵一以下三名叙勲議案　明治一五年一〇月

朝鮮国公使館在勤元外務一等巡査勲七等小林志津三郎以下三名叙勲議案　明治一五年一〇月一二日

朝鮮国公使館在勤海軍中軍医勲六等佐川晃勲位進級議案　明治一五年一〇月一二日

朝鮮に於る有功者叙勲の儀上申（近藤真鋤等四名）　外務卿井上馨代理外務大輔吉田清成　賞勲局総裁三条実美宛　明治一五年一〇月六日

朝鮮に於る有功者へ叙勲の儀上申（小林志津三郎等三名）　外務卿井上馨代理外務大輔吉田清成　賞勲局総裁三条実美宛　明治一五年一〇月六日

朝鮮に於る有功叙勲の儀上申（佐川晃）　外務卿井上馨代理外務大輔吉田清成　賞勲局総裁三条実美宛　明治一五年一〇月六日

2　賞勲局上申裁可書　明治一五年一〇月二〇日
3　賞勲局上申回議書　明治一五年一〇月一三日
（付）御指令按　明治一五年一〇月二一日
4　近藤真鋤始一〇名叙勲の儀御允裁に付伺　明治一五年一〇月二三日
（付）御沙汰案　明治一五年一〇月二四日

一一三　朝鮮国修好条規続約御批准並に其交換を井上外務卿に委任す　一一〇
1　朝鮮国と取結たる続約書御批准の儀御執奏の上条約書交換の全権拙官へ御委任に付上申
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二一日
（付）日朝修好条規続約条文　日本国弁理公使花房義質・朝鮮国全権大臣李裕元・朝鮮国全権副官金宏集　明治一五年八月三〇日（開国四九一年七月一七日）
修好条規続約批准書および御委任状案
2　外務省上申奏聞書　明治一五年一〇月二七日
3　外務省上申の儀夫々御允許に付回議書　明治一五年一〇月二三日

一一四　朝鮮国修好条規続約交換布告　一一七
1　朝鮮国と取結びたる続約御批准交換済並右御布告相成度儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月三一日
（付）朝鮮国修交条規続約批准交換証書　大日本国外務卿井上馨・大朝鮮国特命全権大臣兼修信使朴泳孝・大朝鮮国副大臣金晩植　明治一五年一〇月三一日（開国四九一年九

月二〇日）

御布告案および修好条規続約条文

2　条約批准書御覧済に付当省より直に外務省へ返却の旨通知　宮内書記官　内閣書記官宛

明治一五年一一月三〇日

3　外務省上申裁可書　明治一五年一一月二〇日

4　外務省上申回議書　明治一五年一一月一七日

5　外務省上申の通仰高裁　第一局　明治一五年一一月一六日

6　外務省上申の件審査結果上申　参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月一六日

（付）布告按　明治一五年一一月二二日

7　修好条約続約批准書・批准書交換証書・続約条文

8　修好条規交換証書中一〇月三〇日は三一日の誤の旨通知　内閣書記官　明治一五年一一月三〇日

〔122〕　明治一五年　朝鮮事変始末　五　（R117／135～350）

一一五　故堀本工兵中尉外二名招魂祭執行靖国神社へ合祀　140
1　故堀本工兵中尉外二名儀戦死者に準し招魂の祭典執行靖国神社に合祀の旨上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一六日
（付）伺の通　明治一五年一一月二日
堀本礼造・岡内恪・池田平之進本籍・氏名
2　陸軍省上申回議書　明治一五年一〇月二四日
3　陸軍省上申の通御允許可然に付仰高裁　第二局　明治一五年一〇月二四日
（付）御指令按

一一六　故広戸一等巡査外五名靖国神社へ合祀　144
1　故広戸一等巡査外五名国家の為に斃れたる者に付靖国神社へ合祀の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二七日
（付）上申の趣特別の詮議を以て聞届　明治一五年一一月二日
京城公使館在勤巡査六名氏名

2　朝鮮国にて戦死の京城公使館雇故水島義外二名儀国家の為め致命に付靖国神社へ合祀の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二七日　153
3　外務省上申朝鮮国に於て戦死者巡査及公使館雇の者靖国神社へ合祀の事回議書　明治一五年一〇月三一日　153
4　外務省上申の両件御允許可然に付仰高裁　第二局　明治一五年一〇月三一日　153
（付）御指令按および陸軍海軍両省へ達按　明治一五年一一月二日　153
5　陸軍外務両省上申奏聞書　明治一五年一一月一日　153

一一七　朝鮮国に於て戦死せし語学生靖国神社へ合祀を許さす　150
1　京城滞在の私費語学生故近藤道堅外一名儀国家の為め損命に付出格の御詮議を以て靖国神社へ合祀の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二七日　150
（付）上申の趣難聞届　明治一五年一一月七日　150
2　外務省上申回議書　明治一五年一一月一日　150
3　外務省上申の義官に奉仕せるにあらす此輩をも合祀の節は終に一般人民をも然かせさるを得す涯際無之に付御聴許不相成方可然仰高裁　第二局　明治一五年一一月一日　150
（付）御指令按　150

一一八　陸軍省稟請故堀本中尉等招魂祭費交付　153
1　堀本礼造外一二名招魂式執行の費用別途下付の儀伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一八日　153

（付）伺の趣聞届全額朝鮮事件費より支弁　明治一六年五月三日
　招魂式執行費用金額
2　陸軍省伺の件御聴許無之該社費を以て支弁方可然の旨上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二八日
3　元来合祀は其勤労の追思に出る儀に付其費用給する方御趣意に相符すへく御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年五月一日
（付）御指令按（甲号・乙号）および大蔵省へ御達按　明治一六年五月三日

一一九　弁理公使花房義質を外務三等出仕に補し外務大書記官竹添進一郎を弁理公使に任し朝鮮国に在勤せしむ　158
1　花房義質へ外務三等出仕並竹添進一郎へ弁理公使朝鮮京城在勤仰付に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二七日
2　外務省上申裁可書　明治一五年一一月二日
3　外務省上申回議書　明治一五年一〇月二七日
（付）宣旨案・辞令案
4　花房義質宣旨　明治一五年一一月六日
5　竹添進一郎辞令　明治一五年一一月六日
6　竹添進一郎朝鮮国京城在勤辞令　明治一五年一一月六日

一二〇　太政官二等属青山勇外三〇名朝鮮事変の際事務勉励に依り慰労金下賜　164

1　二等属青山勇外三〇名朝鮮事変の際事務格別勉励に付慰労金給与願　明治一五年一〇月四日
（付）属官氏名・金額
慰労金給与に付辞令案　明治一五年一一月一一日

一二一　朝鮮国仁川及元山津に軍艦常置並日進天城二艦繋泊　166
1　朝鮮国内乱後人心鎮定と難申に付当分仁川元山に軍艦二艘常置の儀上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一九日
（付）上申の趣聞届　明治一五年一一月一三日
2　外務省上申回議書　明治一五年一〇月二五日
3　外務省上申御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一〇月二四日
（付）御指令按および海軍省へ御達按　明治一五年一一月一三日
4　朝鮮事件に付派遣の軍艦の内日進天城其侭滞在せしめ候に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月一七日
5　海軍省届供高覧　第二局　明治一五年一一月二四日
6　海軍省届朝鮮国に日進天城両艦滞在の事　明治一五年一一月二五日

一二二　陸軍省稟請朝鮮事変に際し弁理公使護衛費交付　172
1　朝鮮事変に付弁理公使護衛として兵士差立の費用御渡方上申　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月四日
（付）上申の趣聞届　明治一五年八月二一日

2　陸軍省申出の通御下付の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月一四日

3　陸軍省上申回議書　明治一五年八月一六日

4　陸軍省上申の儀御指令に付仰高裁　第一局　明治一五年八月一六日

（付）御指令按

5　弁理公使護衛費本月分費用本年度予備金より渡方取計に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年八月三一日

（付）臨時費金額内訳

6　大蔵省上申回覧書　明治一五年九月八日

7　大蔵省上申高覧書　第一局　明治一五年九月八日

一二三　朝鮮事変に際し韓地其他出張の外務陸軍海軍三省官吏に慰労として物品及金円を下賜す　一八一

1　朝鮮事件に付其省官員事務勉励の者賞格取調方御照会案　外務・陸軍・海軍三卿宛　明治一五年一〇月一九日

2　外務陸軍海軍三卿へ御照会按回議書　明治一五年一〇月一六日

（付）御照会按

3　京城仁川滞在勉励の判任官以下へ白絹代及酒肴料下賜の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月七日

（付）慰労金内訳

4　杉村濬外二名にも慰労金下賜の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五

年一二月一一日

（付）慰労金内訳

5　陸軍歩兵大佐堀江芳介以下奏任官四九名へ縮緬代下賜の儀上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二八日

（付）慰労金内訳

6　昨年一一月二八日上申人名中誤謬あり訂正の儀申進　陸軍歩兵大佐児島益謙　内閣書記官宛　明治一六年二月五日

7　判任以下の分下副官以下八六五名へ酒肴料下賜の儀上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二八日

（付）慰労金内訳

8　海軍大佐福島敬典以下一一七名へ金円下賜の儀上申　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二八日

（付）慰労金内訳

9　海軍少尉補今井寛彦以下准士官及判任官八六名へも慰労金給与の儀上申　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二八日

（付）慰労金内訳

10　朝鮮国派遣の軍艦乗組並に中艦隊司令官附の下士以下下卒准卒へ酒肴料給与の儀上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二八日

（付）慰労金内訳

11　陸軍少将高島鞆之助始慰労賜品及賜金の事奏聞書　明治一五年一二月一九日

12　陸軍少将高島鞆之助海軍少将仁礼景範へ慰労賜品の事回議書　明治一五年一二月一一日
（付）金盃花瓶下賜に付高島鞆之助・仁礼景範へ辞令按　明治一五年一二月六日
13　金盃華瓶の代価御差回方御取計要請　堤宮内書記官　内閣書記官宛　明治一六年一月九日
（付）金盃・銅花瓶代価　調度課　明治一六年一月
14　高島陸軍少将へ慰労下賜代金当官へ御返入ありたく照会　内閣書記官　児島陸軍歩兵大佐・海軍書記官宛　明治一六年一月一一日
15　仁礼海軍少将慰労下賜代金御送附　会計局長海軍主計総監有馬純行　内閣書記官宛　明治一六年一月二二日
16　仁礼海軍少将へ賜品代金御送附　内閣書記官　堤宮内大書記官宛　明治一六年一月二三日
17　領収証　宮内大書記官堤正誼　内閣書記官宛　明治一六年一月二三日
18　高島陸軍中将への賜品代金御送附　内閣書記官　堤宮内大書記官宛　明治一六年二月二二日
19　高島中将下賜代金三井銀行預証券を以て御送致　陸軍卿官房長陸軍歩兵大佐児島益謙　内閣書記官宛　明治一六年二月二〇日
20　領収証　宮内大書記官堤正誼　内閣書記官宛　明治一六年二月二一日
21　外務陸軍海軍三省朝鮮国へ出張事務勉励の者取調具申あり夫々御允許に付伺　明治一五年一二月一一日
（付）辞令按および御達按

22　陸軍砲兵中尉松岡利治外一名へも慰労下賜の儀上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月三〇日
（付）慰労金内訳
23　陸軍省上申陸軍砲兵中尉松岡利治外一名慰労の儀御允許に付回議　明治一五年一二月一一日
（付）辞令按　明治一六年一二月二六日

一二四上　在馬関外務省出張所を廃す　239
1　在馬関外務省出張所引払の儀昨一九日栗野外務権少書記官へ相達に付御通牒　朝鮮事務掛長外務権大書記官竹添進一郎　内閣書記官宛　明治一五年一二月二〇日

一二四下　朝鮮政府償還の填補金年賦約定並到達金納付方　240
1　填補金年賦の儀朝鮮修信使と約定に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月一日
（付）朝鮮政府償還の填補金年賦約定書　外務卿井上馨・特命全権大臣朴泳孝・特命全権副官金晩植　明治一五年一〇月二七日（開国四九一年九月一六日）
2　外務卿上申填補金年賦約定の事御覧書　明治一五年一二月七日
3　外務卿上申填補金年賦約定の事回覧書　明治一五年一二月二日
（付）大蔵省へ御達案　明治一五年一二月八日
4　朝鮮政府償還の填補金本年分去る九月九日仁川領事館にて授受済該金額到達に付納付方御指

令ありたく上申　外務省井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一〇月一二日
（付）該金額は大蔵省へ納付すへし　明治一六年一〇月二〇日
5　外務省上申朝鮮政府償還金納付方の事回議書　明治一六年一〇月一三日
6　外務省上申の件御指令案に付仰高裁　第一局　明治一六年一〇月一三日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年一〇月二〇日

一二五　大蔵省稟議朝鮮事変に関する臨時費決算方　247
1　朝鮮事件臨時費の儀更に準備有金より借入支出充当を以て決算結了に付伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二一日
（付）伺の趣聞届　明治一五年一二月一日
太政官・外務省・大蔵省・陸軍省・海軍省へ令達按および会計検査院へ令達按　明治一五年一二月一日
2　朝鮮事件臨時費に付国庫は勿論外務省並陸海軍省共費用支出の区域を定め決算帳を調製し本院に証明すへき様御達相成度上申　会計検査院長岩村通俊　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月一四日
4　大蔵省伺回議書　明治一五年一一月二九日
5　大蔵省伺の件御允許可然御達按修正可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一一月二九日
（付）御指令按　明治一五年一二月一日

一二六　外務省稟請朝鮮事変に関する費用概算不足額交付　252

1　朝鮮事件に付諸費此上銀貨五千円通貨千円御下付方上申　外務卿井上馨代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月一四日
（付）伺の趣聞届　明治一五年一二月一三日
2　朝鮮事変に付要すへき費額概算内訳　外務省　明治一五年一〇月一四日
外務省上請の通御裁可可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一日
3　外務省上申回議書　明治一五年一二月五日
4　外務省申請の通御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月五日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一二月一三日

一二七　孟春艦朝鮮国より帰港　258
1　孟春艦去る一一日横浜港へ帰着の義御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一六日
2　海軍省届孟春艦朝鮮国より帰着の事　明治一五年一二月一八日

一二八　外務省稟議朝鮮事変に際し一時出張官吏旅費滞在手当等支給方　260
1　朝鮮国騒擾に際し一時出張官吏旅費滞在手当等支給方の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月五日
（付）上申の趣此度限り聞届　明治一五年一二月二〇日
朝鮮国京城へ派出の者彼地滞留中月手当賜方調

（参照）当省属官朝鮮国出張旅費及滞在手当当省支給方の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年七月八日
外務大書記官花房義質代理公使として朝鮮国京城へ一時派出の節随行判任官へ支給額および朝鮮国京城へ派出の者彼地滞留中月手当賜方調
3　外務省上申回議書　明治一五年一二月一六日
4　外務省上申此度限り聞届に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月一五日
（付）御指令按　明治一五年一二月二〇日

一二九　大蔵省稟議朝鮮事変に際し一時出張官吏旅舎賄料支給方　266
1　今回の事件に関し渡韓者に限り朝鮮行船客料実費及旅舎賄料支給の儀に付伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月七日
（付）伺の趣聞届　明治一五年一二月二〇日
旅舎賄料・船客料支給の旨達按　太政大臣　其庁宛
2　大蔵省伺の件決算難出来儀相生に付本月五日伺書上申通り取計度に付御回答　外務卿井上馨　参議山県有朋宛　明治一五年一二月一一日
3　大蔵省伺回議書　明治一五年一二月一六日
4　大蔵省伺御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月一五日
（付）御指令按　明治一五年一二月二〇日
（参照）大蔵省見込の賄料を合せ総体の給額を掲く

一三〇　海軍省稟請朝鮮事変に際し一時出張官吏旅費滞在手当等支給方　272

1　朝鮮国派遣の者旅費支給の儀に付伺　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二一日

（付）今度朝鮮事件に関するものに限り聞届　明治一六年二月二七日

2　海軍省伺回議書　明治一六年二月二三日

3　海軍省伺の件該事件にて派遣の者に限り御聞届可然に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二三日

（付）御指令按　明治一六年二月二七日

（参照）朝鮮行船客料及旅舎賄料の儀に付伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月七日

一三一　大蔵省稟請朝鮮事変に係る費金交付　277

1　朝鮮事件に係る費用概算取調に付別途御下付方伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月三〇日

（付）伺の趣聞届　明治一五年一二月二〇日

2　朝鮮事件費概算仕訳書　大蔵省　明治一五年一一月

3　大蔵省伺回議書　明治一五年一二月一九日

大蔵省伺御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月一九日

（付）御指令按　明治一五年一二月二〇日

一三二　太政官稟請朝鮮事変に係る費金交付　281

1　朝鮮事件費用金四千五百円銀貨三四円余に有之既に本年度経費中より支払に付別途御下渡の儀伺　参議山県有朋　明治一五年一二月

（付）朝鮮事件に係る費用概算調書

2　太政官上申の儀御允裁可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一六日

3　太政官上申回議書　明治一五年一二月一九日

4　太政官上申該金額別途御下渡可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月一九日

（付）大蔵省へ御達案　明治一五年一二月二〇日

一三三　工部省稟請朝鮮事変の際尽力せし電信局吏員慰労金は営業費を以て支弁せしむ　287

1　電信局吏員二一二名朝鮮事件中職務尽力に付慰労金別途御渡相成度伺　工部卿佐々木高行　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月一五日

（付）営業費中を以て支弁すへし　明治一五年一二月二五日

2　工部省伺の儀該金額は営業費中より支弁相当に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月七日

3　工部省伺回議書　明治一五年一二月一三日

4　工部省伺の件元と営業上の勉励に付電信局営業費中より支弁すへき旨御指令可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月一三日

（付）御指令按　明治一五年一二月二五日

一三四　朝鮮使節帰国御暇として謁見
1　朝鮮国特命全権公使帰国御暇として謁見願出の儀来る一九日内謁見仰付に付申進　宮内卿
徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一四日　291
（付）朝鮮国特命全権公使朴泳孝副使金晩植二一日帰国に付御暇乞の為謁見願出に付照会
外務卿井上馨　宮内卿徳大寺実則宛　明治一五年一二月一三日
2　宮内省上申朝鮮国全権公使帰国御暇として内謁見仰付の事　明治一五年一二月一四日

一三五　井上外務卿外四名朝鮮使節より寄贈品受領を稟す
1　朝鮮国使節朴泳孝より馨以下へ品物寄贈に付受領の義上申　外務卿井上馨　太政大臣三条
実美宛　明治一五年一二月二六日　294
（付）寄贈品目録

一三六　外務省稟議朝鮮国使節送接汽船航海費支弁方
1　工部省汽船明治丸を以て朝鮮使節送接致したく朝鮮事件費より汽船航海費用支弁の儀上申
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二二日
（付）上申の趣聞置　明治一五年一二月二七日
2　外務省上申回議書　明治一五年一二月二五日
3　外務省上申の儀聞置に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月二五日
（付）御指令按　明治一五年一二月二五日　296

一三七上　朝鮮政府より体恤金領収並に分配及ひ残金処分方

1　朝鮮政府より我遭患者遺族並負傷者への体恤金五万円当省受取に付右分配方早々御指令ありたく上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二三日
（付）受領の金額は大蔵省へ納付し分配方の儀は其省見込取調可申出事　明治一五年一二月二六日

2　外務省上申体恤金受入並分配方の儀に付御指令回議書　明治一五年一二月二五日
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一五年一二月二六日

3　遭害者へ恤金分配方に付当省に於て取調の旨上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一四日
（付）高銀貨五万円此分付方見込書
朝鮮事件遭害者への体恤金支払に付朝鮮国定約

4　外務省上申恤金分配方並残額処分の事奏聞書　明治一六年二月二四日

5　外務省上申恤金分配方の事回議書　明治一六年二月一九日

6　外務省より恤金分与方取調申出の通御裁決に付伺
（付）堀本礼造・佐川晃へ恤金下賜に付御達案　明治一六年二月二八日
外務省・陸軍省・大蔵省へ御達案　明治一六年二月二八日

7　恤金其他朝鮮政府より収入・支払順序等に当り本院へ何等の通知なく検査上差支に付御通知取計方照会　検査官長長岡義之　第一局内閣大書記官井上廉宛　明治一六年八月一八日

8　朝鮮国遭害の故堀本礼造外二名遺族扶助料下賜方取計の旨達　太政大臣三条実美　陸軍省

宛　明治一六年二月二八日

（付）遺族扶助料内訳

9　故堀本礼造外二名遺族扶助料本省払出切符を以て引渡の旨通知　外務卿井上馨　陸軍卿大山巌宛　明治一六年三月二日

10　朝鮮恤金の儀検査官より照会書類御廻に付通知（第一局　内閣書記官局宛　明治一六年八月二四日）および恤金処分に付通牒文（明治一六年八月二八日）

11　恤金残額朝鮮政府へ御進贈の千代田形修補費用充当の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一四日

（付）上申の通　明治一六年三月六日

12　外務省上申恤金残額処分の事奏聞書　明治一六年三月五日

13　外務省上申恤金残額処分の事回議書　明治一六年二月一九日

（付）御指令案　明治一六年三月六日

14　朝鮮国今日の状況御交際上の効果等より本年二月一四日上申の儀当分御差止方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年七月一七日

（付）上申の趣聞置　明治一六年八月二三日

15　外務省上申朝鮮国政府へ物品御進贈当分御差止の事回議書　明治一六年八月九日

（付）御指令按　明治一六年八月二三日

一三七下　陸軍省稟請朝鮮分遣兵諸費交付

1　広島鎮台歩兵第一一連隊第一大隊右半隊朝鮮国へ分遣仰出に付出発より帰着迄の諸入費別途

御下付方伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一一月二日

（付）伺の趣聞届　明治一五年一二月二七日

朝鮮国分遣歩兵半大隊額外諸費概算調

2　陸軍省申請の金額御許可可然に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二二日

3　陸軍省伺回議書　明治一五年一二月二五日

4　陸軍省伺の儀御聴許に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月二五日

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一五年一二月二七日

一三八　朝鮮国使節朴泳孝副使金晩植及随員郵便船名古屋丸に搭し発港　327

1　朝鮮国使節朴泳孝副使金晩植及随員等本日横浜港より名古屋丸に乗組帰国に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二八日

一三九　外務省稟請朝鮮事件費決算帳整理延期　328

1　目下朝鮮使節接待中諸費支出必要に付朝鮮事件費決算帳整理延期の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二一日

（付）来一月二〇日迄に会計検査院へ差出すへし　明治一五年一二月二八日

2　朝鮮使節接待費と併せて決算の義御了承相成度御回答　外務卿井上馨　第一局参議山県有朋宛　明治一五年一二月二六日

3　外務省上申回議書　明治一五年二月二六日

4　外務省上申の儀御聴許の外有之間敷仰高裁　第一局　明治一五年一二月二六日
（付）御指令按　明治一五年一二月二八日
（参照）朝鮮使節接待費額の義に付上申　明治一五年一〇月一〇日

一四〇　朝鮮国京畿道仁川開港　333
1　我商民中熱望もあり明年一月一日より仁川港へ我国人民渡航通商御差許相成度に付上申
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一九日
（付）仁川開港御布告按　太政大臣・大蔵卿
2　外務省上申奏聞書　明治一五年一二月二七日
3　外務省上申参事院勘査進呈に付回議書　明治一五年一二月二五日
4　外務省上申の儀参事院も可然と認め上申に付布達可然に付仰高裁　第一局　明治一五年一二月二二日
5　外務省上申審査する処仁川開港可然と認め布達按上申　参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二五日
（付）仁川開港布達案　太政大臣・外務卿　明治一五年一二月二八日
（参照）明治一五年一〇月外務省上申朝鮮国南陽麻山浦実測の件
（参照）修交条規第五款
（参照）明治九年一〇月第一二八号布告
6　明治一一年五月第九号布告
（参照）明治九年一〇月第一二九号布告

7　仁川繋泊の軍艦を以て実測其地の利害詳細可申出旨海軍省へ御達按　明治一五年一一月九日

一四一　海軍少将仁礼景範勲位進級　3　5　344

1　海軍少将仁礼景範勲位進級の儀議定に付仰御允裁　賞勲局　明治一五年一二月二三日

（付）海軍少将仁礼景範勲二等進級議案　明治一五年一二月

朝鮮国事変に際し其尽力不少等に付勲二等進級方申牒　海軍卿川村純義　賞勲局総裁三条実美・同副総裁大給恒宛　明治一五年一二月二二日

賞勲局上申裁可書　明治一五年一二月二五日

賞勲局上申回議書　明治一五年一二月二三日

〔123〕 明治一五年 朝鮮事変始末 六 （R117／353～503）

一四二 朝鮮国王へ陸海軍士官謁見並操練御覧の景況近藤臨時代理公使より報告 356
1 朝鮮国王へ陸海軍士官謁見並操練御覧の儀に付近藤臨時代理公使より届出に付上申 外務卿井上馨 太政大臣三条実美宛 明治一五年一二月六日
（付）一三日朝鮮国王天城艦長等三名謁見兵員操練見物の模様に付報告 臨時代理公使近藤真鋤 外務卿井上馨宛 明治一五年一一月一六日
2 外務省上申御覧書 明治一六年一月二〇日
3 外務省上申回覧書 明治一六年一月九日

一四三 天城艦長瀧野海軍中佐朝鮮国王へ謁見の概況報告 361
1 天城艦長海軍中佐瀧野直俊朝鮮国王に謁見当日の概況に付報告あり御届 海軍卿川村純義 太政大臣三条実美宛 明治一五年一二月六日
（付）朝鮮国王殿下に謁見当日の鈔記
2 海軍省上申御覧書 明治一六年一月二〇日
3 海軍省上申回覧書 明治一五年一二月一一日

一四四　海軍省稟請朝鮮事変に係る費用交付

1　艦船新造修復兵器製造等朝鮮事件に係り不可欠諸費別途御下付上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一〇月二日

（付）艦船新造修復費を除き別途交付　明治一六年一月二四日

朝鮮事件費概算

2　海軍省上請に付海軍書記官へ照会の回答書写一通差出　庶務局長大蔵権大書記官成川尚義内閣大書記官井上廉宛　明治一六年一月一三日

（付）元来艦船製造修復費は実際不足の折柄朝鮮事件の為め尚不足を来し他に所弁の途なく可然御取計ありたく御答　海軍書記官　大蔵権大書記官成川尚義宛　明治一五年一二月一八日

朝鮮事変に係る経費概算内訳書

3　海軍省上請に付増働時間中増給の賃金に限り別途請求可然其他諸費は朝鮮事件費として別途御交付方上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二七日

4　海軍省上請回議書　明治一六年一月一八日

5　海軍省上請の儀御指令に付仰高裁　第一局　明治一六年一月一八日

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一六年一月二四日

6　艦船製造修復費中区分致し取調上呈に付支給御下付方上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月五日

（付）上請の趣聞届　明治一六年四月一八日

艦船製造修復費の内職工夜業等増働割増給内訳書
7　海軍省今般区分上請の儀朝鮮事件費として御下付可然に付上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月三一日
（付）最前上請総高
8　海軍省上請回議書　明治一六年四月九日
9　海軍省上請の金額御下付可然に付仰高裁　第一局　明治一六年四月九日
（付）御指令按および大蔵省へ御達案　明治一六年四月一八日

一四五　内務省稟請朝鮮事変に係る費用交付　385
1　朝鮮事件に係り支出の費用別途御下付方稟請　内務卿山田顕義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二〇日
（付）稟請の趣聞届　明治一六年一月二七日
朝鮮事変に関し各府県への電報料　内務省　明治一五年一二月二〇日
2　内務省稟申御聴許相成候外有之間敷旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一六日
3　内務省稟請回議書　明治一六年一月一九日
4　内務省稟請御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年一月一九日
（付）御指令案および大蔵省へ御達按　明治一六年一月二七日

一四六　陸軍省朝鮮事件費決算帳整理方延期　390

1　引続韓地在留者費用不分明召集予備兵旅費等錯雑に付来年一月迄決算帳調製御猶予方伺
　陸軍卿大山巌　太政官三条実美宛　明治一五年一二月二七日
　（付）本月二〇日迄に決算帳会計検査院へ差出すへし　明治一六年一月一二日
2　陸軍省伺朝鮮事件に係る決算帳差出方猶予の事　明治一六年一月一一日
3　陸軍省伺の件御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年一月一一日
　（付）御指令按
　（参照）外務省上申朝鮮事件費決算帳整理延期の件
4　目下完結の場合に相成兼候に付両件繰越決算に相立其他は本月中御猶予方再伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二〇日
　（付）伺の趣聞届　明治一六年四月九日
5　陸軍省伺出の内打切決算の義御允許差支無之に付回答　大蔵省調査局長渡辺国武　太政官第一局内閣大書記官井上廉宛　明治一六年一月二七日
6　決算仕訳書調製差出に付申進　会計局計算課長陸軍会計一等副監督柴直吉　内閣大書記官井上廉宛　明治一六年三月一六日
　（付）朝鮮事件費決算仕訳書　陸軍省
7　陸軍省伺回議書　明治一六年三月二四日
8　陸軍省伺御聴許に付仰高裁　第一局　明治一六年三月二四日
　（付）御指令按
　（参照）海軍省水雷並電気燈其他の費用及ひ陸軍省ピーポーシイマルチニー銃買入れ代出途の義に付上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二日

（参照）会計法第二九条未決算事項整理順序の義に付伺　会計検査院長岩村通俊　太政大臣三条実美宛　明治一五年五月一三日

（参照）朝鮮事件に係る決算帳取調差出方御猶予の儀に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二七日

一四七　朝鮮事変に際し清国形勢視察の為め派遣せし外務省用掛処分並費用支弁方　405

1　清国派遣の当省用掛儀旅費等は打切決算相遂け支出金無之上は早々帰国引揚を可相達候哉に付伺　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一四日

（付）派出者速に引揚くへく差置費用は其省密用金より支弁すへし　明治一六年一月二七日

2　外務省上申の件費用打切決算の儀は申出通にて可然爾後費用の儀は猶派出方御決議に候へは該省臨時費として御下付方上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一三日

3　外務省上申回議書　明治一六年一月一九日

4　外務省上申の儀決算方は申出の通りにて可然派出者難引揚の場合該省密用金より支弁可然に付仰高裁　第一局　明治一六年一月一九日

（付）御指令案

一四八　朝鮮事変に関し在外公使館に於て臨時支出の電信料等支弁方　409

1　在外公使館電信料等の報告を待て費額の完結を得難く公使領事より要求の金員其都度大蔵省

へ請求次第別途相渡方同省へ予め御達方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一四日

（付）電信料等経費は朝鮮事件費に加へす別に取纏請求申出へし　明治一六年一月三一日

2　朝鮮事件に関する電信料等の費額目下既定致兼候に付御回答　外務大書記宮本小一　庶務局長大蔵権大書記官成川尚義宛　明治一五年一二月二七日

3　外務省上申の儀御聴許但決算差支に付此分は事件費に不差加方と存候に付上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一八日

4　外務省上申回議書　明治一六年一月二六日

5　外務省上申の儀大蔵卿の意見を採り御指令方仰高裁　第一局　明治一六年一月二六日

（付）御指令按

6　在外公使領事館電信料等の儀本年一月三一日御指令以前の分は事件費より支出取計爾後費用は取纏別途請求致すべく上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二三日

（付）本月四日朝鮮事件費決算方達に準し悉皆該費へ組入決算すへし　明治一六年四月三〇日

7　海外各公館支払の電信料一月三一日以降要する費額概算に付申進　外務省会計局　太政官第一局宛　明治一六年四月一三日

（付）電信料内訳

8　外務省上申の儀朝鮮事件費完結の期に当り悉皆該費へ差加方当然に付上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月六日

9　外務省上申の儀に付意見具状の件至急御指揮相成度照会　庶務局長大蔵権大書記官成川尚義　第一局太政官大書記官井上廉宛　明治一六年四月一二日

10　外務省上申回議書　明治一六年四月二〇日

11　外務省上申の件朝鮮事件費に為相立候方可然に付仰高裁　第一局　明治一六年四月二〇日

（付）御指令按

（参照）朝鮮事件に係る臨時費決算の儀に付伺　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二二日

（参照）朝鮮事件費整理の儀に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月一四日

外務省上申朝鮮事件費整理の儀に付上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一八日

会計検査院伺朝鮮事件臨時費決算の件省議御照会に付回答　大蔵省調査局長渡辺国武　太政官第一局内閣大書記官井上廉宛　明治一六年三月二七日

12　在外公使領事館発信電信料の儀悉皆事件費にて支弁方整理上可然に付意見上陳　大蔵卿松方正義代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一六年六月一九日

（付）上申の趣聞届　明治一六年七月一二日

在外公館電信料探偵費等の儀朝鮮事件費残額の内より見積概額を以て支弁取計方御承認ありたく照会　外務卿井上馨　大蔵卿松方正義宛　明治一六年五月一九日

13　大蔵省上陳回議書　明治一六年六月二九日

14　大蔵省上陳御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年六月二九日
（付）御指令按

一四九　天城艦報告朝鮮国の近況　431
1　朝鮮国派出天城艦仁川港及釜山浦碇泊中探知の近況報告に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二六日
（付）朝鮮廟堂日本支那頑固三党の状況朝鮮駐屯支那兵の動向等に付朝鮮国済物浦・京城・釜山浦近時景況報告
大院君の処置等に付李鴻章書翰
2　海軍省上申御覧書　明治一六年一月三一日
3　海軍省上申回議書　明治一六年一月一七日
4　天城艦報告海軍省より差越に付進達　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一八日
5　朝鮮国派出天城艦より報告に付御通牒　海軍卿川村純義　外務卿井上馨宛　明治一五年一二月二六日

一五〇　弁理公使竹添進一郎朝鮮国王へ謁見国書捧呈手続　445
1　弁理公使竹添進一郎本月一〇日朝鮮国王へ謁見国書捧呈相済の旨申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二四日
（付）朝鮮国王謁見下官言上国王勅答次第手続書

2　外務省上申御覧書　明治一六年二月三日
3　外務省上申弁理公使竹添進一郎朝鮮国王へ謁見国書捧呈手続の事　明治一六年一月三一日

一五一上　外務省より前任公使花房義質外四名へ朝鮮国王恩賜品受領を稟す　四五〇
1　前任公使花房義質外四名へ朝鮮国王より品々恩賜の旨差越に付受領方相達に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二七日
（付）恩賜品目録
2　外務省上申朝鮮国王より前任公使花房義質外四名へ恩賜の事　明治一六年二月六日

一五一下　朝鮮国公使館警備兵当分据置　四五三
1　朝鮮国公使館警備兵中満期予備軍編入の者もあり何れの年月まで御差置候哉伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二六日
（付）当分据置候儀と心得へし　明治一六年一月二七日
2　陸軍省伺回議書　明治一六年一月一九日
（付）御指令案

一五二　朝鮮国事変の際一時出張の御用掛及び雇員等旅費支給方　四五五
1　朝鮮国騒擾の際一時出張の御用掛及び雇員等旅費の儀は外務省見込通取計差支なき旨回答　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二六日
（付）伺の通聞届　明治一六年二月一〇日

朝鮮一時出張の当省御用掛及雇員等旅費支給に付至急回答ありたく申進　外務卿井上馨　大蔵卿松方正義宛　明治一五年一二月二三日

2　朝鮮国騒擾に際し一時出張官吏旅費滞在手当等支給方の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月五日

（付）上申の趣此度限り聞届　明治一五年一二月二〇日
朝鮮国京城へ派出の者彼地滞留中月手当賜方調（明治一〇年一一月一〇日伺済）

3　大蔵省伺回議書　明治一六年二月二日

4　大蔵省伺の儀御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二日

（付）御指令案

一五三　外務省稟請朝鮮国仁川港領事館建築費京城事変の為め冗費に帰せし分支出方　461

1　京城事件の為仁川領事本館建設再挙の旨議決に付職工往返費等の増費は朝鮮事件費中より支出取計方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月一〇日

（付）上申の趣聞届　明治一六年二月二三日

2　外務省上申の通御聴許可然の旨省議回答　庶務局長大蔵大書記官成川尚義　第一局内閣大書記官井上廉宛　明治一六年二月六日

3　外務省上申朝鮮事件費支払方の事　明治一六年二月二二日

4　外務省上申御聞届に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二〇日

（付）御指令按

（参照）朝鮮国仁川開港に付建築費臨時御下付の儀上申に付御指令　明治一五年四月一二日

一五四　外務省稟請朝鮮国臨時出張巡査俸給旅費支出方　　4 6 6

1　花房公使護衛として朝鮮出張の警視庁所轄巡査一五名俸給の儀当省より支給し朝鮮事件費より支出該決算帳へ編入方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二三日

（付）伺の趣聞届　明治一六年二月二八日

2　外務省伺回議書　明治一六年二月二三日

3　外務省伺の通御聞届可然に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二二日

（付）御指令按

4　花房公使護衛警視庁巡査へ旅費支給方伺　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二三日

（付）伺の趣聞届但日当は金三〇銭支給すへし　明治一六年四月一八日

各例規給額表

5　花房公使護衛巡査日当出発より帰朝の日迄通算支給に付回答　外務大書記官宮本小一　内閣大書記官井上廉宛　明治一六年四月七日

6　巡査旅費給与方の件至急御裁令依頼　外務大書記官宮本小一　内閣書記官宛　明治一六年四月七日

7　外務省伺回議書　明治一六年四月一一日

8　外務省伺の件御聴許尤も日当六〇銭支給に及ぶ間敷三〇銭支給可然に付仰高裁　第一局　明治一六年四月一一日

（参照）明治九年第八〇号達巡査旅費日当定則表および一〇年四月九日第四〇号達追加
朝鮮国在勤警部巡査等級俸金の儀外務卿上申（明治一三年三月一九日）および朝鮮国在勤警部巡査月俸表・外国旅費表
明治一四年一月一四日第一号達・同年一二月二八日第百一号達

9　花房公使護衛巡査へ三〇銭の日当にては困難に付六〇銭の見込にて仮渡置候に付日当六〇銭支給御許可方再応上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月二六日
（付）再応の趣は特別を以て聞届　明治一六年五月二五日

10　外務省上申回議書　明治一六年五月一五日

11　外務省上申の件伺を経す出発前仮渡取計は不都合も不得已次第に付御聴許可然に付仰高裁
第一局　明治一六年五月一五日
（付）御指令按

12　花房公使護衛巡査へ旅費支給に付警視庁より訂正の儀申出に付更訂支給取計可然哉伺　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年一二月七日
（付）上申の趣は更訂に不及　明治一七年一月二四日
甲号　各例規給額表
乙号　警視庁請求額
朝鮮出張巡査旅費支給額に付外務省・警視庁往復書
（1）当庁巡査の儀一般等外吏と同様取扱に付普通等外吏の給額に訂正相成度御回答
警視総監樺山資紀代理警視副総監綿貫吉直　外務大書記官宮本小一宛　明治一六年八月二二日

（2）今更当省にて支給法変換困難に付旅費過渡金早々還納方御依頼　外務大輔吉田清成　警視総監樺山資紀代理警視副総監綿貫吉直宛　明治一六年九月二六日

（3）総て曩に御照会の給額に御訂正追給分至急御回金ありたく再応御照会　警視総監樺山資紀　外務大輔吉田清成宛　明治一六年一〇月一日

（4）貴庁へ御問合回答に依り当省にては一般成規として九年第八〇号公達と認め太政官へ上請御裁可の旨申進　外務大輔吉田清成　警視総監樺山資紀宛　明治一六年一一月一〇日

（5）当庁巡査は旅費定則に準拠し等外の旅費額従来給与に付御了知至急給額訂正方申進　警視総監樺山資紀　外務大輔吉田清成宛

（6）別紙太政官へ上申に付御指令次第御通知の旨回答　外務大輔吉田清成　警視総監樺山資紀宛　明治一六年一二月七日

13　外務省上申花房公使護衛巡査出張旅費支給額更訂の事回議書　明治一七年一月一五日

14　先般外務省伺出許可に付更正に不及儀に付仰高裁　第一局　明治一七年一月一五日

（付）御指令按

（参照）明治一六年三月二三日外務卿より朝鮮騒擾の際花房公使護衛として警視庁巡査一時出張の旅費支給方伺　明治一六年四月八日

明治一六年四月二六日外務卿より朝鮮国騒擾の際花房公使護衛として警視庁巡査一時出張の旅費支給方再上申

一五五　大蔵省稟議海軍省水雷並電気燈其他費用及陸軍省ピーポーシーマルチニー銃購求費支出方　495

1　海軍省水雷並電気燈其他費用の儀朝鮮事件費として交付方並に陸軍省ピーポーシーマルチニー銃買入代の儀朝鮮事件費に編入方上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二日

（付）上申の趣聞置　明治一六年二月二八日

2　大蔵省上申海軍省水雷並電気燈其他費用陸軍省ピーポーシーマルチニー銃買入代金朝鮮事件費に編入の事　明治一六年二月二一日

3　事件費編入の義は支障無之候も目下支払を要せさる金額は繰越決算に相立方可然に付仰高裁第一局　明治一六年二月二〇日

（付）御指令案

一五六　海軍省稟請朝鮮国繋泊軍艦費不足額交付　498

1　朝鮮国軍艦繋泊費用不足金九千円該費増額として御下渡ありたく迅速御裁可方上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一六年一月二三日

（付）上請の趣聞届　明治一六年二月二八日

2　海軍省上申の件御聴許可然の旨上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二一日

3　海軍省上申回議書　明治一六年三月二日

4　海軍省上請御聴許に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二八日

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一六年二月二八日

〔124〕 明治一五年 朝鮮事変始末 七 （R118／006～166）

009

一五七上 竹添弁理公使より朝鮮事情報告

1 竹添弁理公使並近藤臨時代理公使より報告に付供高覧 外務卿井上馨 太政大臣・右大臣・各参議宛 明治一六年一月二七日

（1）機密信第一号 漢城屯駐我兵二中隊の内一中隊引上進言 弁理公使竹添進一郎 井上外務卿宛 明治一六年一月一二日

（2）機密信第二号 朴泳孝内話等報告 弁理公使竹添進一郎 井上外務卿宛 明治一六年一月一二日

（付）甲号 牛場卓蔵等七名雇入に付照会 特命全権大臣朴泳孝 日本弁理公使竹添進一郎宛 開国四九一年一一月二八日

（3）機密信第九号 趙寧夏の密啓と称し候者送呈 臨時代理公使近藤真鋤 外務省井上馨宛 明治一五年一二月三〇日

（付）趙寧夏の密啓 壬午一〇月一〇日

（4）機密信第一〇号 朝鮮駐在の為入京の清国中書馬建常・独逸人穆麟徳へ訊問大要報知 臨時代理公使近藤真鋤 外務卿井上馨宛 明治一五年一二月三〇日

(5) 機密信第三号　モルレンドルフ・馬建常任官等内申　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月八日

(6) 機密信第四号　尹相和上書文中客歳変乱後人心景状有之に付差出　弁理公使竹添進一郎　井上外務卿宛　明治一六年二月九日
(付) 前五衛将尹相和上疏

(7) 機密信第五号　楊花鎮の開港を麻浦に転移の旨モルレンドルフ来談に付内稟　弁理公使竹添進一郎　井上外務卿宛　明治一六年二月九日
(付) 甲号　楊花津互市場移転の議

(8) 機密信第六号　別紙甲号乙号差出朝鮮国の開鉱は支那より着手方慫慂の旨進言　弁理公使竹添進一郎　井上外務卿宛　明治一六年二月九日
(付) 甲号　(日訳文・原文)　唐廷樞看山録　清国招商局総弁唐景星京畿江原二道の鉱山を巡覧し其景状を具陳したもの
乙号　唐景星鉱山巡視の節護送の趙存億の日記

(9) 機密信第七号　釜山元山津の輸出入商況等内稟　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月九日

(10) 機密信第八号　清兵引上等に付清国提督呉長慶の談内稟　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月九日

(11) 機密信第九号　馬建常雇入後朝鮮政府の現況等に付朴泳孝内話の旨内稟　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月九日

(12) 機密信第一〇号　朴泳孝漢城判尹任官に付内申　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上

馨宛　明治一六年二月一〇日

(13) 機密信第一一号　清韓商民貿易章程に対し主属分限の事等六点に付鄙見開陳方内申
弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月一三日

(14) 機密信第一三号　海底電線一件に付趙寧夏金宏集洪英植と談判経過内申　弁理公使
竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一六年二月一四日

(15) 機密信第一四号　仁川居留地議定の儀今一五日回答に付報知　弁理公使竹添進一郎
外務卿井上馨　明治一六年二月一五日

(付) 済物浦居留地は各国租界を同一にして区分せざる様致したき旨回答　督弁交
渉通商事務趙寧夏　弁理公使竹添進一郎宛　癸未正月八日

今日清国の朝鮮干渉に付竹添進一郎意見書

小生発京の節は温和親密の胸算も向後は鬼面を扮し応接の覚悟に付内具　井
上・山県宛二月一三日

清露境界村落サウヨーロフカの韓人商業活動をめぐる清露間紛議等に付雑報

一五七中　天津副領事島村久より候選道馬建忠処罰の旨報告

1　天津副領事島村久より馬建忠処罰の儀報告に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一六年一月一七日

(付) 機密信第四一号　去る七日馬建忠処罰待命の旨報告　天津副領事島村久　外務卿井
上馨宛明治一五年一二月一一日

2　外務省上申回覧書　明治一六年一月一七日

一五七下　天城艦一時馬関帰港直ちに元山津へ回航の電報　0087

1　朝鮮国回航の天城艦長より昨日電信に付御届　海軍卿川村純義　三条太政大臣宛　明治一六年二月二一日

（付）只今馬関着艦石炭積入次第元山津不穏の由に付同所回航の旨報知

2　海軍卿上申高覧書　二月二一日

一五八上　朝鮮国安辺釈王寺の僧侶結党襲撃の風聞は誣言に出る旨報告　0091

1　朝鮮国安辺釈王寺の僧侶元山港我領事館襲撃の風聞は誣言に出て事実には無之旨副田領事より差越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月七日

（付）安辺釈王寺の僧侶本館襲撃に付徳源府使へ問合候処全く事実無之旨返答に付上申

在韓元山港領事副田節　外務大輔吉田清成宛　明治一六年二月二〇日

安辺釈王寺の僧本館襲撃企図の情報に付照会　領事副田節　鄭明府宛　癸未一月一六日

該寺僧侶和郁と基化と争闘あり和郁より基化を誣告の旨回答　鄭学点　領事宛　壬午一二月一〇日

2　外務卿上申回覧書　明治一六年三月八日

3　竹添弁理公使より差越の機密信一一通写廻閲の為め送附　外務卿井上馨　各参議宛　三月二日

一五八下　会計検査院稟議朝鮮事変に際し韓地派遣の陸軍々人軍属給与方　099

1　朝鮮事件に際し韓地派遣の陸軍軍人軍属の支度料旅次増俸旅費等給与の儀に付臨時給与法の如きも裁可を経て施行方伺　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月六日

（付）同省限り施行不苦義と心得へし　明治一六年三月七日

今般朝鮮国へ出張の者支度料旅次増俸等支給方達　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　明治一五年八月二日

朝鮮国出張の者の内地上陸中旅篭料は実費支賄方達　陸軍卿大山巌　明治一五年八月五日

2　会計検査院伺回議書　明治一六年二月二四日

3　会計検査院伺の義事務章程に所謂法律規則とは区別有之に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二三日

（付）御指令案　明治一六年三月七日

（参照）諸省事務章程通則（明治一四年一一月第九四号達）・第一〇一号達（明治一四年一二月三日）・陸軍省乙第二五号達（明治一五年四月）

五九　宮内省稟請朝鮮事変に係る経費金交付　106

1　朝鮮国変乱に関する臨時官員派出其他費用別途御下渡方上申　宮内卿徳大寺実則　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月二七日

（付）上申の趣聞届　明治一六年三月九日

朝鮮事件に関する諸費仕訳書　宮内省　明治一五年一二月二七日
山口正定・細田次朝経費内訳

2　宮内省上申の件御聴許の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月一五日

3　宮内省上申回議書　明治一六年三月一日

4　宮内省上申の件御聞届に付仰高裁　第一局　明治一六年二月二八日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一六年三月九日

5　上申当時除外の日進天城両艦乗組人への酒饌料金更に御下付方追申　宮内卿徳大寺実則
太政大臣三条実美宛　明治一六年三月一七日
（付）追申の趣聞届　明治一六年四月三〇日

6　宮内省追申の金額朝鮮事件費として別途御下付方上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月六日

7　宮内省追申回議書　明治一六年四月一三日

8　宮内省追申の件御許可に付仰高裁　第一局　明治一六年四月一一日
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一六年四月三〇日

一六〇　会計検査院稟申朝鮮事件費決算期限

1　外務省・海軍省・陸軍省孰れも決算帳不差出に付朝鮮事件費検査到底御達の期限中に完了難の旨予め上申　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二四日

2　会計検査院上申朝鮮事件費決算期限の事　明治一六年三月九日

3　会計検査院上申の儀御聞置可然に付供高覧　第一局　明治一六年三月五日

一六一　外務省稟請花房公使等へ下附金及一時任所を避くる旅費支出　120
1　朝鮮国騒擾に際し花房公使以下へ下ノ関にて下附金取計及朝鮮国往返に係る旅費官費仕賄方取計に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二八日
（付）朝鮮在勤花房弁理公使以下同国事変に遭難し一時下ノ関迄帰朝の節同所に於て下附金　明治一六年二月
2　外務省上申文中護衛巡査へ月俸の外日当額支給の儀に付照会に対し回答　外務大書記官宮本小一　内閣大書記官井上廉宛　明治一六年三月九日
3　外務省上申朝鮮国騒擾に際し花房公使以下へ下附金及一時任所を避くる為め旅行費官費仕賄方取計の事　明治一六年三月一五日
4　外務省上申の件御聞置可然に付供高覧　第一局　明治一六年三月一四日
（参照）朝鮮国在勤警部巡査等級俸金の儀上申（外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一三年三月一九日）および朝鮮国在勤警部巡査月俸表

一六二　外務省稟請朝鮮国王へ御贈品に係る運送費交付　126
1　朝鮮国王への御贈品に付運賃其他保護に係る諸費別途御下附方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一五年一二月六日
（付）上申の趣聞届　明治一六年三月二〇日
運送費等内訳　外務省　明治一五年一二月六日

2　外務省上申の件御聞届可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二四日

3　外務省上申回議書　明治一六年三月六日

4　外務省上申御聴許に付仰高裁　第一局　明治一六年三月五日

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一六年三月二〇日

一六三　竹添弁理公使報告朝鮮国近況　131

1　朝鮮国近況機密信第一八号竹添弁理公使より申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月九日

（付）機密信第一八号　呉長慶より小官と交誼懇切又馬建常も小官に恭順の応接等支那よりの干渉も今日位を極度と被存候等の旨内申　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨　明治一六年三月五日

甲号　門閥打破人材抜擢の旨朝鮮政府諭告　癸未正月

乙号　李鴻章書翰

2　外務卿上申回覧書　四月一〇日

一六四　海軍省稟請朝鮮事変に際し韓地に於て死亡せし一等兵曹横尾吉三外一七名へ祭粢料下賜　141

1　朝鮮国派遣中脚気虎列刺病等にて死亡者へ祭粢料下賜方陸軍省上申御許可の旨伝承に付照会　海軍書記官　内閣書記官宛　明治一六年二月一三日

2　該件に付陸軍省より伺出なし尤稍類似の件御許可に付海軍書記官へ回答按　明治一六年二

月一四日

（付）明治一五年八月三〇日付陸軍省伺摘要

3　朝鮮国派遣中死亡者の儀出張の精神は毫も戦時に異なるなく特別に各自生前の日給三ヶ月分の金円祭粢料の為給与方御許可上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月七日

（付）上請の趣特別を以て聞届　明治一六年四月九日

朝鮮国出張の艦船乗組下士以下中死亡者一八名および賜金額

4　海軍省上請回議書　明治一六年三月二六日

5　海軍省上請の儀特別の御詮議を以て御裁可に付仰高裁　第二局　明治一六年三月二四日

（付）御指令案　明治一六年四月九日

一六五　外務省稟請韓銭欠銭及毀損の分等棄捐　149

1　韓銭持夫逃亡及済物浦仮事務所土間積置の一個紛失等に付毀損被盗取韓銭支払方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年二月二三日

（付）上申の趣聞届　明治一六年四月一二日

毀損被盗取韓銭内訳

2　外務省上申の金額棄捐払に相立朝鮮事件費中へ編入方上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二八日

3　外務省上申韓銭欠銭毀損及被盗取候支払方の事　明治一六年四月九日

4　外務省上申の件御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年四月九日

（付）御指令按　明治一六年四月一二日

一六六　会計検査院稟議朝鮮事件費決算方

1　本月中整理し得らるべき分を以て一旦区分決算し其他は繰越決算の法に拠り検査完了方の儀伺　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年三月二三日

（付）伺の趣聞届　明治一六年四月一四日

朝鮮事件費決算帳書式

2　会計検査院伺の件省議照会に付回答　大蔵省調査局長渡辺国武　太政官第一局内局大書記官井上廉宛　明治一六年三月二七日

3　客月二二日伺の件御裁可なく至急御裁可取計ありたく照会　検査官浜弘一　太政官第一局書記官宛　明治一六年四月九日

4　会計検査院伺回議書　明治一六年四月二日

5　会計検査院伺朝鮮事件臨時決算の件に付仰高裁　第一局　明治一六年四月二日

（付）御指令按および外務省・陸軍省・海軍省へ御達按　明治一六年四月一四日

（参照）大蔵省上申海軍省水雷並電気燈其他の費用海軍省ピーポーシーマルチニー（ママ）銃買入代金朝鮮事件費に編入の件に付仰高裁

6　朝鮮事件費決算帳の儀に付伺（検査院中の決議）

〔125〕 明治一五年 朝鮮事変始末 八 （R118／169～314）

一六七 竹添弁理公使より朝鮮事情報告 173
1 竹添弁理公使より今朝機密信並私信差越に付供覧 井上馨 三条太政大臣宛 明治一六年五月一〇日
（付）機密信第三四号 閔泳翌（ママ）主義傾向変容等に付内陳 弁理公使竹添進一郎 外務卿井上馨宛 明治一六年四月二〇日
近来朝鮮政府も自主の権相立馬建常は有れども無きが如き等の旨私信 竹添進一郎 井上外務卿宛 明治一六年四月二〇日
3 竹添弁理公使機密信並私信回覧書 明治一六年五月一一日

一六八 竹添弁理公使より朝鮮政府の近況 182
1 朝鮮政府の近況に付竹添弁理公使より差越に付上申 外務卿代理外務大輔吉田清成 太政大臣三条実美宛 明治一六年五月二四日
（付）機密信第五四号 朴泳孝免職一件馬建常モルレンドルフ動向等に付内陳 弁理公使竹添進一郎 外務卿井上馨宛 明治一六年五月七日

2　外務省上申高覧書　五月二五日

一六九　会計検査院及陸軍省稟議朝鮮政府へ贈与せし兵器費支出方　1888

1　朝鮮国政府へ贈与兵器費及鍬兵束装具等の費途支出の儀本院へ御達なき旨上申　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月一三日

2　会計検査院上申回覧書　明治一六年五月一七日

3　会計検査院上申の儀は陸軍省伺御裁可の上通牒可相成供高覧　第一局　明治一六年五月一七日

4　朝鮮国へ寄贈の兵器代金朝鮮事件費より支払決算方伺　陸軍卿大山巌代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一六年五月一〇日

（付）伺の趣聞届　明治一六年五月三〇日

5　陸軍省伺回議書　明治一六年五月一七日

6　陸軍省伺の義御聴許に付仰高裁　第一局　明治一六年五月一七日

（付）御指令案　明治一六年五月三〇日

一七〇　陸軍省稟請朝鮮事変の際該地に於て流行病等に罹り死没者遺族へ弔慰料下賜　1944

1　朝鮮出張の兵卒中病没者の遺族へ金二五円宛又患者看護死体埋葬の人夫中病没者等へ金一五円宛下賜の義伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月一九日

（付）伺の趣聞届　明治一六年六月一日

2　該死亡人名取調別紙二通差進に付可然御取計方申入　卿官房長児島益謙　内閣書記官宛

明治一六年四月二五日

（付）明治一五年自八月至一〇月朝鮮国出張中死亡人名・明治一五年朝鮮国出張軍役夫死亡人名表

3　陸軍省伺回議書　明治一六年五月一六日

4　陸軍省伺の通御允許可然に付仰高裁　第二局　明治一六年五月一五日

（付）御指令案　明治一六年六月一日

（参照）明治一六年三月七月海軍省上請

（参照）明治一〇年一二月一日第八九号達および手当表抄録

5　明治一五年八月朝鮮国出張中死亡人員金額表

6　本年四月二五日附申進別紙死亡人名中記載洩に付御差加方申入　陸軍卿官房長児島益謙

内閣書記官宛　明治一六年六月二三日

（付）明治一五年朝鮮国出張中死亡者追加

7　陸軍省申牒過般伺済の人名中差加の旨申出に付大蔵陸海軍省会計検査院等へ通牒方伺　明治一六年六月二五日

一七一　陸軍省稟議朝鮮国分遣兵諸費決算方　207

1　歩兵半大隊朝鮮国分遣中諸費の儀事件費決算完結の目途難相立に付会計年度分界の上決算方伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年五月一四日

（付）伺の趣聞届　明治一六年六月二一日

2　陸軍省伺の義該費額は朝鮮事件費の方相除き通常の費途に改め決算方可然に付上申　大蔵

卿松方正義代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一六年六月六日

3　朝鮮国分遣兵駐在諸費に付朝鮮事件費を通常費に改め決算方可然に付上申　会計検査院副長安藤就高　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月二日

4　陸軍省伺回議書　明治一六年六月一六日

5　陸軍省伺の件に付仰高裁　第一局　明治一六年六月一五日

（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一六年六月二一日

（参照）陸軍省一六年五月一四日朝鮮事件費決算の儀に付伺および同年六月六日陸軍省伺の義に付大蔵省上申

6　今般大坂鎮台歩兵第八連隊第一大隊右半大隊へ交代に付諸費概算金額別途御下付方等に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年四月一〇日

（付）伺の趣聞届　明治一六年七月一七日

明治一六年従四月至六月朝鮮事件費仕訳書・明治一六年従七月至九月朝鮮事件費仕訳書

7　陸軍省伺の儀御聴許の外有之間敷に付上陳　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一六年五月一七日

8　陸軍省伺回議書　明治一六年七月三日

9　陸軍省伺の件に付仰高裁　第一局　明治一六年七月三日

（付）御指令案および大蔵省へ御達按　明治一六年七月一七日

一七二上　陸軍省稟議朝鮮事変に付購買品代価公使館護衛兵費用組替方

1　公使館護衛兵へ引継使用の被服陣具代価の儀臨時費より護衛兵費用へ流用組替方伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一六年六月五日
（付）伺の趣は分遣隊諸費用中より支払ふへし　明治一六年八月三日
朝鮮事件臨時費の内公使館護衛兵費用に組替金額取調表
2　陸軍省伺の義分遣隊諸費より支払方可然の旨上申　大蔵卿代理参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美　明治一六年七月一三日
3　陸軍省伺回議書　明治一六年七月二四日
4　陸軍省伺の件大蔵卿の意見相当に付仰高裁　第一局　明治一六年七月二三日
（付）御指令按　明治一六年八月三日

一七二下　外務省稟議朝鮮国公使館護兵中一中隊引揚方　226
1　朝鮮国形勢既に鎮静等に付竹添弁理公使申立の通り公使館護衛兵二中隊中一中隊引揚方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一六年七月三日
2　外務省上申奏聞書　明治一六年七月五日
3　外務省上申回議書　明治一六年七月三日
（付）陸軍省へ御達案　明治一六年七月五日

一七三　陸軍省稟議故堀本工兵中尉等遺族扶助料給与方　229
1　故堀本工兵中尉寡婦より遺族扶助料下賜以前陸軍恩給令に拠り扶助料願書差出居候も恩給令に拠り一般の扶助料下賜不相成方可然に付伺　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明

治一六年四月二〇日
（付）特別の扶助料下賜に付恩給令の扶助料下賜不相成儀と可心得事　明治一六年七月一二日
恩給令抜粋
2　四月二〇日伺出に付御指令なく遺族より難渋の趣申出に付至急御指令取計方依頼　陸軍少輔小沢武雄　内閣書記官井上毅宛　明治一六年六月一八日
3　陸軍省伺参事院勘査進呈に付回議書　明治一六年六月二八日
4　陸軍省伺の件参事院意見の通御指令可然に付仰高裁　第二局　明治一六年六月二八日
（付）陸軍省伺の件審査陸軍卿意見の通可然に付指令案上申　参事院議長山県有朋　太政大臣三条実美宛　明治一六年六月二五日

一七四　井上外務卿朝鮮人金玉均と談話筆記　235
1　一六年七月二日井上外務卿金玉均と談話筆記摘要
2　対話筆記摘要回覧書　明治一六年七月一三日

一七五　会計検査院稟議陸軍省朝鮮事件費検査方　251
1　陸軍省朝鮮事件費検査の際朝鮮国内本邦人民居留地にて購買の物品代価領収証に印紙なき向数通発覚も該費の検査は無印紙の侭結了致したく伺　会計検査院長岩村通俊　太政大臣三条実美宛　明治一六年一二月一日
（付）伺の趣聞届　明治一六年一二月二六日

2　会計検査院伺陸軍省朝鮮事件費検査の事　明治一六年一二月二二日
3　会計検査院伺の件印紙の貼用なきが為め該証全く失効にも無之其侭結了の儀御聴許可然に付仰高裁　第一局　明治一六年一二月二一日
（付）御指令按　明治一六年一二月二六日
（参照）七年七月二九日布告第八一号証券印税規則抜粋

一七六　大蔵省稟議朝鮮事件費支弁方　255
1　朝鮮事件費支弁の儀準備部へ償戻すへき営業資本及繰換金の内増繰入は見合せ該費決算結了方至急御裁定相成度伺　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一七年二月四日
（付）伺の趣聞届　明治一七年二月二一日
2　朝鮮事件費支弁方伺書の内営業資本及繰替金算出見合方御照会に付回答　調査局長大蔵大書記官渡辺国武　太政官第一局権大書記官大谷靖宛　明治一七年二月六日
（付）営業資本及繰替金貸在高と償戻高差引額
朝鮮事件費（一七年二月六日調）
明治一六年一月二六日親展封書を以て進達書の内抜粋
3　大蔵省伺回議書　明治一七年二月一二日
4　大蔵省伺の通御聴許可然付仰高裁　第一局　明治一七年二月六日
（付）御指令案　明治一七年二月二一日

一七七　臨時代理公使島村久より朝鮮国統理衙門督弁其他更迭の近況報告　265

1　臨時代理公使島村久より別紙申越に付進達　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年四月二六日

（付）機密第三六号　統理軍国衙門督弁閔台鎬他更迭同衙門一変革に付探偵大要内陳　臨時代理公使外務書記官島村久　外務卿井上馨宛　明治一七年四月一四日

2　外務卿上申高覧書　明治一七年四月二九日

一七八　臨時代理公使島村久より朝鮮国京城駐留清国兵営六営の内三営撤却帰国の報告　2269

1　臨時代理公使島村久より別紙届出に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年六月二八日

（付）機密第五〇号　当地清兵撤帰の噂に付記名提督朱先民へ問合候処呉長慶師帯六営中三営引払帰国に付申進　臨時代理公使外務書記官島村久　外務卿井上馨宛　明治一七年五月三〇日

2　外務卿上申高覧書　明治一七年六月二八日

一七九　外務省稟告朝鮮国暴動事件に関し我遭害者に与ふべき恤金配分残金処分方　2272

1　恤金残額の儀他日相当の寄贈品購入の節運賃等の費用支弁の為増殖法相立或る銀行へ預入方予て上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年五月三日

2　外務省上申回覧書　明治一七年五月九日

3　外務省上申の儀差向寄贈の見込無之上は一旦大蔵省へ納付し其需用に臨み支出方可然に付供高覧　第一局　明治一七年五月六日

4 横浜正金銀行等へ預置の恤金残額満期に至り候に付右元利金併て悉皆在横浜三井銀行支店へ預け高別紙の通に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年七月一九日

（付）在横浜三井銀行支店へ預け高調書　明治一七年七月

5 恤金残額銀行へ預け高取調書中書損に付修正の上差出方可然に付回答　外務書記官中村博松　内閣大書記官井上廉宛　明治一七年七月二三日

6 外務省上申聞置可然も何銀行へ何程の利朱を以て預入候哉其旨上申致させたく上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一七年七月五日

7 外務省上申回覧書　明治一七年七月二八日

8 外務省上申の件供高覧　第一局　明治一七年七月二四日

9 恤金残額処分の儀千代田形軍艦修覆費用一時本省にて繰替支払に付納付の際引去計算方上申外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一一日

（付）上申の趣聞届　明治一八年三月二五日

恤銀残額及利子請入調書　明治一八年三月

10 恤金五万円配賦残金の儀同省上申の通御裁可可然に付回答　大蔵卿松方正義　第一局掛内閣書記官長土方久元宛　明治一八年三月一八日

11 外務省上申回議書　明治一八年三月二三日

12 第一局上申按　明治一八年三月二一日

（付）御指令按　明治一八年三月二五日

一八〇　外務省稟告朝鮮政府より受入るべき填補金処分方

1　朝鮮国政府より一〇ケ年賦完納の填補金五〇万円の内四〇万円を彼国独立開明賛助の目的を以て此際返却方上申　外務卿井上馨　左大臣有栖川熾仁親王宛　明治一七年一〇月一三日

（付）上申の趣聞届　明治一七年一〇月一六日

2　外務省上申奏聞書　明治一七年一〇月一六日

3　外務省上申回議書　明治一七年一〇月一三日

（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一七年一〇月一六日

4　填補金返還の儀は当初より機密に付し候へ共彼国にては既に世人に伝称する所と相成に付竹添公使と彼政府との往復中指支なき廉を抄録し公使の報告として官報登録方可然に付上申

外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一七年一一月二九日

（付）填補金返還に付竹添欽差大臣書翰　金朝鮮督弁交渉通商事務宛　明治一七年一一月九日

丙号　金朝鮮督弁交渉通商事務書翰　竹添欽差大臣宛　甲申九月二四日

5　外務省上申回議書　明治一七年一二月二日

6　外務省上申御允裁可然に付仰高裁　第一局　明治一七年一二月二日

（付）大蔵省へ御達案　明治一七年一二月六日

一八一　外務省稟告朝鮮国填補金返還処分　303

1　竹添公使より填補金返還方取計相済の趣具稟に付上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一七年一一月二七日

（付）機密第九三号　小官赴任国王へ謁見の上填補金返完決定の旨言上に付内申　弁理公使竹添進一郎　外務卿井上馨宛　明治一七年一一月一二日

甲号　一一月二日朝鮮国王殿下へ謁見奏上筆記

乙号　填補金還付に付竹添欽差大臣照会　金督弁宛　明治一七年一一月九日

丙号　金督弁返書　竹添欽差大臣宛　甲申九月二四日

2　外務省上申御覧書　明治一七年一二月五日

3　外務省上申回覧書　明治一七年一一月二八日

〔同朝鮮政府より償還の填補金逓送手数料別途下付　一八年八月二八日指令　公文録外務省の部に編す〕

〔126〕　明治一七年　朝鮮事変始末　一　（R119／006～135）

一　在漢陽公使館報告朝鮮京城変動我公使館兵燹に罹るの件
1　一二月一三日長崎発在漢陽公使館報告（第四四一号官報抄録）　010

二　朝鮮国居留我人民保護の為め比叡艦発航の件
1　長崎碇泊の比叡艦仁川港へ御発遣方海軍省へ御達要請　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月一四日　011
2　外務省上請奏聞　明治一七年一二月一五日　012
3　外務省上請海軍省へ御達に付伺　明治一七年一二月一四日　013
（付）仁川港へ比叡艦発航致すべき旨御達按
4　比叡艦発向等の儀御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月一六日　014
（付）昨午後九時発向の旨電報　松村海軍少将　海軍卿宛　明治一七年一二月一六日
御達に付比叡艦へ相達一五日長崎港発向方御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月一六日

5　海軍省届供回覧　明治一七年一二月一六日　015

三　外務卿内稟朝鮮事変実地視察の為め参事院議官井上毅出発の件

1　伊藤山県両参議と会合井上参事院議官へ実地取調の要点を訓示し派遣方議決し伺を経ず同議官出立せしめたる旨内稟　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月一六日　016

2　外務卿内申供高覧　明治一七年一二月一七日　017

四　参議井上馨を特派全権大使として朝鮮国へ差遣陸軍中将高島鞆之助外一七名随行等の件

1　参議井上馨全権大使朝鮮国差遣辞令および陸軍中将高島鞆之助等一八名随行辞令・外務大輔吉田清成外務卿代理辞令（職務進退録抄録）　明治一七年一二月二一日　019

五　特派全権大使井上馨携帯御国書并御委任状及内訓書案の件

1　特派全権大使携帯の御国書案取調に付本日中御下付方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二〇日　021

（付）御国書案

2　御委任状二通御内訓案一通取調に付至急御下付方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二〇日　023

（付）御委任状案二通および内訓案一通　太政大臣三条実美　明治一七年一二月二一日

事変の際中外の疑図を氷釈の為め朝鮮国王より我皇帝陛下へ謝書を呈せしめたき旨覚

書

3　御国書并御委任状及内訓書の事裁可　明治一七年一二月二一日　031
4　御国書并御委任状及内訓書の事回覧　明治一七年一二月二一日　032

六　陸軍中将高島鞆之助外一名へ訓示の件

1　朝鮮滞在の陸軍兵并軍艦進退の儀に付特派全権大使随行の高島陸軍中将樺山海軍大輔へ予め相達方御下命要請　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二〇日　033
2　呉大徴（ママ）とは何事も引合をなさざる事および我より出兵の事清国政府に報知要請　井上大使　明治一七年一二月二五日　034
3　高島陸軍中将より電報にて申出に付上申　陸軍卿西郷従道　太政大臣三条実美・左大臣熾仁親王宛　明治一七年一二月二五日　035
（付）護衛兵の儀平時二大隊派遣に内決方報知　馬関高島中将　西郷陸軍卿宛　明治一七年一二月二五日
4　派遣の護衛兵進退の義は大使と協議の上何分の命令を相待申すべき旨訓示案　037
5　陸軍中将高島鞆之助海軍少将樺山資紀へ訓示の事裁可　明治一七年一二月二六日　039
6　護衛兵進退の儀は大使と協議の上指揮致すべき旨陸軍中将高島鞆之助へ訓示案　041
7　護衛艦進退の儀は大使と協議の上指揮致すべき旨海軍少将樺山資紀へ訓示案　042
（付）樺山資紀への訓示草案
8　陸軍中将高島鞆之助・海軍少将樺山資紀へ訓示案正文　044
9　訓示の趣敬承の旨高島陸軍中将電信　三条太政大臣宛　一二月二六日　046

10　本日朝鮮国へ出発の旨報知　陸軍中将高島鞆之助　太政官宛　明治一七年一二月二二日　047

七　全権大使護衛として金剛艦を報知船として春日艦を朝鮮国に向て発航の件

1　護衛の為め金剛艦を又報知船として春日艦を朝鮮国へ御指遣方海軍省へ御達要請　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二〇日　048

2　外務省上申奏聞　明治一七年一二月二六日　049

3　外務省上申の通御允裁に付伺　明治一七年一二月二〇日　050

（付）海軍省へ御達按

4　金剛艦昨二一日横浜抜錨（明治一七年一二月二二日号外官報抄録）　051

5　当省所轄春日艦昨二五日横浜出艦に付海軍省御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二六日　052

6　海軍省届供回覧　明治一七年一二月二七日

7　春日艦本日横浜抜錨に付海軍省御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二五日

8　海軍省届供回覧　明治一七年一二月二五日　053

八　井上全権大使乗船薩摩丸へ信号士官并信号夫乗組の件

1　薩摩丸へ信号士官一名信号夫水兵一名乗組申付に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二二日　054

2　海軍省届供回覧　明治一七年一二月二二日　055

九　高島陸軍中将護衛兵を率い馬関出港の件
1　高島陸軍中将より電報を以て届出に付御届　陸軍卿西郷従道　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二九日　056
（付）護衛兵を率い唯今出港に付馬関高島陸軍中将報知　明治一七年一二月二八日

一〇　朝鮮事変後不穏に付我人民保護の為め釜山港へ龍驤艦派遣の件
1　京城事変後我人民に抗抵の気色あり不穏の旨前田総領事より具申もあり龍驤艦釜山へ差廻方海軍省に至急御達要請　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月七日　058
2　外務省上申の通御允裁に付伺　059
（付）海軍省へ御達按

一一　全権大使井上馨帰朝復命の件
1　朝鮮国より帰朝復命書写一通差上　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二二日　060
（付）復命書　特派全権大使井上馨　明治一八年一月一九日
2　井上全権大使復命書回覧　明治一八年一月二三日　075

一二　日韓両国締結の約書告示の件

1　今般締結の約書は其性質を異に致候に付布告式でなく告示式を用ひ公衆に知らしむるに止め可然旨上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月　078
（付）告示案および約款条文
2　特派全権大使朝鮮国政府と締約の旨趣告示の事奏聞　明治一八年一月二一日　084
3　結約書告示に付伺　明治一八年一月二〇日　086
（付）客歳朝鮮事変に関し今般談判を遂け結約の旨告示案　太政大臣・外務卿　明治一八年一月二一日
約款条文　特派全権大使井上馨・特派全権大臣金宏集　明治一八年一月九日

一三　海軍大輔樺山資紀等帰朝の件
1　海軍大輔樺山資紀帰朝届　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二三日　092
2　陸軍中将高島鞆之助帰朝届　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二四日　093
3　海軍少佐鮫島員規・海軍中尉三浦重郷・海軍中尉吉田鉄吾帰京に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二七日　094
4　海軍大尉町田実隆帰京に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二七日　095

一四　全権大使護衛として派遣せし熊本鎮台歩兵第一四連隊第一大隊更に同国公館護衛として駐屯の件
1　先般朝鮮国へ派遣の熊本鎮台歩兵第一四連隊第一大隊同国日本公使館護衛として駐屯の旨御

沙汰上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二九日　096

一五　朝鮮国使節徐相雨モルレンドルフ渡来の件
1　朝鮮使節渡来の義に付近藤代理公使并小林領事より電報あり右写上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一〇日　097
（付）今日出帆の小菅丸にて当国使節馬関に向け出帆の旨近藤代理公使并小林領事電報　二月七日仁川発
2　一〇日馬関到着の朝鮮使節は徐相雨モルレンドルフ他随行員六名の趣馬関区長より電報に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一二日　099
3　朝鮮使節渡来の件・在英河瀬公使電報供高覧　明治一八年二月一二日　101

一六　朝鮮国使節入京并旅館の件
1　朝鮮国使節入京の上は京橋伊藤勘助宅を旅館に充当に付御届　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一四日　102
2　朝鮮国使節徐相雨穆麟徳外六名昨一五日入京旅館駐留の旨上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一六日　103
3　外務省上申回覧　104

一七　朝鮮国使節謁見并国書捧呈の件
1　朝鮮国使節国書奉呈に付外務卿より照会あり二〇日午前一〇時謁見方仰出の旨申進　宮内

卿伊藤博文　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一八日　105
2　朝鮮国正副使本日謁見国書奉呈相済に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二〇日　106
一八　朝鮮国使節より井上外務卿及御用掛三輪甫一へ寄贈品受納の件
1　朝鮮国使節より馨へ別紙物件寄贈に付受納方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一一日　107
（付）寄贈品目録
2　朝鮮国使節より本省准奏任御用掛三輪甫一へ別紙物件寄贈に付受納方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一一日　109
（付）寄贈品目録
一九　朝鮮国使節帰国の件
1　朝鮮国使節帰国に付明後二三日新橋停車場より発程の旨通知　外務書記官　内閣書記官宛　明治一八年三月二一日　111
2　朝鮮国使節本日横浜港より名護屋丸に乗組帰国に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月二三日　112
二〇　在朝鮮近藤臨時代理公使報告事変の際磯林陸軍大尉を殺害せし罪犯処刑済并乱党処分の件
1　臨時代理公使近藤真鋤より機密信第九号及附属書類并に機密信第一〇号及附属書類申越に付

上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一六日　113

（1）機密第九号　磯林を殺害せし兇徒処分済の事　臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月五日

（付）甲号　近藤真鋤書翰　金督弁宛　明治一八年一月二七日

乙号　大朝鮮督弁交渉通商事務金書翰　大日本署理公使近藤宛　甲申一二月一二日（我一月二七日）

丙号　近藤真鋤書翰　金督弁宛　明治一八年一月二七日

丁号　大朝鮮督弁交渉通商事務金書翰　大日本署理公使近藤宛　甲申一二月一二日（我一月二七日）

金大興供辞および首犯元漢甲供辞

戊号　大朝鮮督弁交渉通商事務金書翰　大日本署理公使近藤宛　甲申一二月一三日（我一月二八日）

大日本代理公使近藤書翰　大朝鮮督弁交渉通商事務金宛　明治一八年一月二九日

巳号　朝報抄録　甲申一二月一四日（我一月二九日）

日記抄録（明治一八年一月二九日陸軍大尉磯林真三等暴殺の罪犯金太興元漢甲二名懲弁景況）

（2）機密第一〇号　金玉均朴泳孝等の家人并其党類捕縛処分の件　臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月四日　128

（付）朝報抄録　甲申一二月九日（我一月二四日）・一二日（二七日）・一三日（二

2　近藤臨時代理公使より機密信供回覧　明治一八年二月一七日　133

八日）

〔127〕　明治一七年　朝鮮事変始末　二　（R119／138～269）

二一　在北京榎本公使電報朝鮮事変に関し総理衙門大臣に論述の件
1　朝鮮人が我公使館を攻撃したる件清兵が日本人を殺害したる件の二点に付総理衙門大臣に毎度論述の旨榎本公使来電訳　明治一七年一二月二一日北京発　143

二二　在天津原領事電報利運号朝鮮へ派遣理由の件
1　利運号にて清兵搭載の儀は実事に非ず李鴻章の命令を清将に達する為に朝鮮へ派遣の旨原領事来電訳　明治一七年一二月二一日天津発　144

二三　海門艦長児玉海軍中佐報告朝鮮政府より同国人民へ告諭書の件
1　朝鮮政府より告諭書の写海門艦長児玉海軍中佐より報告に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月三一日　145
（付）朝鮮政府告諭書領事館より落掌に付進呈の旨海門艦長海軍中佐児玉利国書翰　海軍卿川村純義宛　明治一七年一二月一九日
告諭書写　甲申一一月一日

二四　在馬関松村海軍少将電報石田陸軍中尉千年丸にて仁川港より帰着伝聞の件
1　朝鮮国事件に関し松村海軍少将より電報に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛
明治一七年一二月三一日　149
（付）支那軍艦二隻日進艦を見て軍備穏やかならず又支那兵朝鮮にて砲台を設け警備等の旨
報知　松村海軍少将　一二月三〇日馬関発

二五　我軍艦に於て済物浦在留英国人民保護の件
1　元山并釜山に於て暴挙の節我軍艦に於て英国人民の利益保護の義英国総領事より依頼に付右
保護方艦長へ相達置候旨御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二
月三一日　151
（付）本日在仁川竹添弁理公使より別紙電信申来に付元山釜山淀泊の艦長へ至急御訓令方照
会　外務卿代理外務大輔吉田清成　海軍卿川村純義宛　明治一七年一二月二七日
済物浦在留の英国総領事より日本の軍艦により英国人民利益保護に付依頼あり各艦長
に海軍卿より命令方要請の旨竹添公使来電　一二月二五日仁川発
2　海軍省届児玉少佐報告書・松村少佐電報・英国人民保護の件三件供御覧　明治一八年一月
六日　154
3　海軍省届三件供回覧　明治一七年一二月三一日　155

二六　元山津碇泊海門艦長児玉海軍中佐報告朝鮮国近状の件

1　元山津景況等海門艦長児玉海軍中佐より報告に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月三〇日　157
（付）危倹を犯し軍艦を以て派遣被致程の景況とは察せられさる旨報告　海門艦長海軍中佐児玉利国　海軍卿川村純義宛　明治一七年一二月一八日
元山至て静謐の由にて京城辺の景況全く相分からず領事館へ探偵人差出方依頼もケ様の人物なき等の旨報告　海門艦長海軍中佐児玉利国　海軍卿川村純義宛　明治一七年一二月一八日
照会日館　二〇日
2　海門艦長報告の事供御覧　明治一八年一月六日　163
3　海門艦長報告の事供回覧　明治一七年一二月三一日　164

二七　在上海安藤領事報告韓城事変に関し清国諸新聞紙評論の件
1　京城事変に関し清国諸新聞紙の評論に付安藤領事より機密信第四号申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二日　165
（付）機密信第四号　韓京事変概略バルフラール紙へ公掲の儀願出　領事安藤太郎　外務卿井上馨宛　明治一八年一月二二日
2　外務省上申安藤領事来信供高覧　明治一八年二月二日　167

二八　近藤代理公使報告京城事変後国情の件
1　朝鮮京城事変後同国情に付近藤代理公使より報告に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条

実美宛　明治一八年二月七日
（付）機密報告第一号抜粋　金允植の話一件および井上角五郎密報告三件　一月二一日　169
2　外務卿内申供回覧　明治一八年二月七日　172

二九　在天津原領事報告日韓清事情に関するの件
1　仏清事件に関し在上海安藤領事機密信第六号写并日韓清事情に関し在天津原領事機密信第三号及同領事より外務省中某氏宛私信写三通上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一八年二月一九日　173
（付）機密第三号　李氏との面談大要　領事原敬　外務卿代理外務大輔吉田清成宛　明治一八年一月一八日
朝鮮事件落着後は清国との一事にて近来彼は一切の悪事を朝鮮の乱徒に負はせ自ら其責を遁れんとするものの如き旨私信　原敬　外務省中某宛　明治一八年一月一八日

三〇　在北京榎本公使報告日韓清事情に関するの件
1　在清国北京榎本公使より機密信を以て申来に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛
明治一八年二月一八日　180
（付）機密第二号（朝鮮事変第四信）　日清両兵駐韓は紛擾の種と雖も両兵退韓して露兵入るよりは万々愈されりとの旨英公使の談話等報知　榎本武揚　外務卿代理吉田外務大輔宛　明治一八年一月一四日

2　外務省上申供回覧　明治一八年二月一九日　185

三一　榎本公使報告朝鮮事変に関し総署大臣と問答の件
1　朝鮮事変に関し北京駐箚榎本特命全権公使より機密信第三号申越に付上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一九日　186
（付）機密第三号（朝鮮事変第五信）　朝鮮事変に付総署大臣并郡王との談判筆記　榎本武揚　外務卿代理吉田外務大輔宛　明治一八年一月二一日
2　榎本武揚機密信第三号供回覧　193

三二　在朝鮮近藤臨時代理公使報告京城事変後景況の件
1　京城事変後の模様に関し近藤臨時代理公使より機密信第一五号申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二一日　194
（付）機密第一五号　呉大澂動向報知　臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月一〇日
2　近藤臨時代理公使機密信供回覧　198

三三　在天津原領事報告朝鮮事変に関し李鴻章と面談の件
1　京城事変に関し在天津原領事より機密信第四号申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二一日　199
（付）機密第四号　条約締結後清国より大使を出ささりしは両国の為に得策なりしとの李鴻

章談話等報知　領事原敬　外務卿井上馨宛　明治一八年一月二六日
2　外務省上申原領事機密信供回覧　明治一八年二月二三日　203
三四　在朝鮮近藤臨時代理公使報告韓廷大臣等に関する風説及同国王移宮并に呉大徴(ママ)帰国後の余聞に関するの件
1　韓廷大臣等の風説に関し機密信第二〇号同国王移宮の儀に関し機密信第二六号呉大澂帰国後の余聞に関し機密報告第二号近藤臨時代理公使より申越に付写三通上申　外務卿井上馨
太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一一日　204
（1）機密第二〇号　「三履（金宏集・金允植・魚允中）」「六蘗（尹雄烈・安鼎玉・李範晋・趙存斗・李允用・閔肯植）」の流言に付報知　於漢陽臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月二三日
（付）宋伯玉建白書
（2）機密第二六号　朝鮮国王景福宮移御の事　在漢城臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月二四日
（3）機密報告第二号　呉大澂出立前朝鮮三大臣及金允植魚允中の五名との晤談要領　於漢陽臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年二月二三日
2　近藤代理公使機密信三通供高覧　明治一八年三月一一日　215
三五　近藤臨時代理公使報告韓廷内状の件
1　韓廷内状に関し在京城近藤臨時代理公使より機密信第七三号報告に付上申　外務卿井上馨

太政大臣三条実美宛　明治一八年六月五日　216
（付）機密報告第七三号　金宏集は目下無力魚允中は官位褫奪庶人と相成金允植の身位頗る難渋の旨報知　於漢城臨時代理公使近藤真鋤　外務卿井上馨宛　明治一八年五月二六日
2　近藤代理公使機密信供回覧　明治一八年六月八日　220
三六　近藤臨時代理公使報告朝鮮政府に於て清国へ使節派遣等の件
1　朝鮮政府に於て清国へ使節派遣の義に付近藤臨時代理公使より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一八日　221
（付）袁世凱在韓中の所為を賞賛せる朝鮮国王の宸書并に近時事変報告書を以て清国へ使節派遣決定および朝鮮政府よりパークス氏へ兵士差送方依頼の旨近藤臨時代理公使来電訳文　三月一三日朝鮮発・一六日長崎発
2　近藤臨時代理公使電報供回覧　明治一八年三月一八日　224
三七　在天津原領事報告清官呉大徴在韓中奏聞書の件
1　清官呉大澂在韓中奏聞の写在天津原領事より申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月八日　225
（付）欽差会弁北洋事宜都察院左副都御史呉大澂奏聞書　光緒一〇年一一月二九日
2　呉大澂奏聞書写供回覧　明治一八年四月九日　231

三八　在仁川海門艦長松村中艦隊司令官報告大院君帰国等風説の件
1　大院君帰国云々の義に付松村中艦隊司令官より届出に付御届　海軍卿川村純義　太政大臣
三条実美宛　明治一八年五月二五日　232
（付）大院君帰国決定の由又昨夕龍驤艦到着海門艦は明朝発出等の旨海門艦長電信報知（五月二四日仁川発）　松村中艦隊司令官　大山（ママ）海軍卿宛
2　海門艦長よりの電報供回覧　明治一八年五月二五日　235

三九　陸軍省稟告歩兵大尉磯林真三朝鮮国暴徒の為に殺害せられし件
1　歩兵大尉磯林真三朝鮮国変乱の際南門外にて暴徒蟻集し殺害の旨届出に付御届　陸軍卿西郷従道　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月一三日　236

四〇　陸軍省稟告故磯林歩兵大尉外五名靖国神社へ合祀の件
1　昨年朝鮮国事変の節戦死の故磯林歩兵大尉外五名今般靖国神社へ合祀に付上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月九日　237
（付）上申の趣聞届　明治一八年四月二三日
朝鮮事変戦死者六名姓名
2　陸軍省上申裁可　明治一八年四月二一日　238
3　陸軍省上申供回議　明治一八年四月一五日　239
4　陸軍省上申既に先例もあり御裁可可然に付仰高裁　第二局　明治一八年四月一五日
（付）御指令按および御達按　明治一八年四月二二日　239

（参照）本年朝鮮国事変の節殺害の故堀本礼造外二名儀戦死者に準し靖国神社へ合祀方陸軍省上申　明治一五年一〇月

四一　故磯林歩兵大尉外五名靖国神社へ合祀に付勅使参向の件

1　五月五日招魂式翌日祭典執行に付勅使参向の義は六日午前九時に致度旨上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二三日　241

2　宮内省へ照会の処別紙の通同省書記官より申出に付御了承の旨児島陸軍卿官房長へ通牒案　明治一八年四月二七日　241

（付）来一一月六日例祭の節勅使参向の序を以て合祀御祭文奏告方可然の旨回答　宮内書記官　内閣書記官宛　明治一八年四月二七日

3　陸軍省上申の儀一応御回付に付至急御申出相成度宮内書記官へ照会按　明治一八年四月二四日　242

（参照）一六年五月故武市半平太以下合祀の節宮内省回答抜粋　242

四二　外務省稟告朝鮮事変の際同地在留米国公使フート氏我国避難の人民を庇保せしに対し米国政府へ伸謝并フート氏待遇向等の件

1　朝鮮国変乱の際米国公使フート氏我国避難人民を館内に庇隠仁川港迄無事護送等尽力に対し米国政府へ伸謝且又近く東京滞留中の礼遇表彰に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月二七日　244

（付）伺の趣聞届取調猶申出へし　明治一八年一月三〇日

2　外務省上申回議　明治一八年一月二八日　245
3　外務省上申外交上尤の義に付仰高裁　明治一八年一月二六日　247
（付）御指令按

四三　宮内省稟告朝鮮国在留米国公使フート氏夫妻滞京中内謁見の件
1　外務卿より照会奏聞候処七日午前一一時内謁見仰付の旨仰出に付申進　宮内卿伊藤博文
太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二日　248
（付）フート氏夫妻滞京中特旨を以て両陛下へ謁見其節謝意の勅語且物品賜ひ候様致したく
照会　外務卿井上馨　宮内卿伊藤博文宛　明治一八年一月三一日
2　外務卿照会ありフート氏夫妻七日内謁見の儀御延引に付申進　宮内卿伊藤博文　太政大臣
三条実美宛　明治一八年二月四日　250
（付）フート氏妻儀病気に付七日内謁見の儀御延引要請　外務卿井上馨　宮内卿伊藤博文
宛　明治一八年二月三日
3　外務卿より照会奏聞候処一六日午前一〇時内謁見仰付の旨仰出に付申進　宮内卿伊藤博文
太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一〇日　251
（付）フート氏妻病気快復一一日より一六日迄滞留に付内謁見仰付方照会　外務卿井上馨
宮内卿伊藤博文宛　明治一八年二月九日
4　宮内省上申フート氏夫妻への内謁見の事　明治一八年二月一〇日　252
5　フート氏夫妻へ内謁見更に一七日午前一一時仰付の旨仰出に付申進　宮内卿伊藤博文
太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一三日　252

四四　陸軍省稟候朝鮮事変に付従軍及献金願の者処分方の件

1　朝鮮事変以来各地方有志より従軍及献金等願出に付如何相心得可然哉伺　陸軍卿大山巌
太政大臣三条実美宛　明治一八年三月五日　253
（付）伺の趣は篤く賞慰し願書は却下の事　明治一八年二月二六日
朝鮮事件に付各府県有志従軍願人名および朝鮮事件に付各地有志者より金円物品等献納願人名
2　陸軍省伺出に付何れも其衷情を賞慰して願書却下可然尤も別に一般へ御内達に及ふましく左案の通御指令可然に付伺　明治一八年三月一八日　258
（付）御指令按
（備考）一五年九月御内達　府県長官宛
3　従軍及献金願の者処分方の義に付御指令に準し願書却下も有志者神妙の衷情御聞置相成度上申　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月二一日　260
（付）従軍願の部姓名および献納願の部姓名

〔128〕 明治一七年 朝鮮事変始末 三 （R119／272～402）

四五 参議伊藤博文を特派全権大使として清国へ差遣并に参議西郷従道同国差遣の件
1 参議伊藤博文・西郷従道清国差遣の件回覧 明治一八年二月二四日 276
2 参議兼宮内卿伊藤博文外一名清国差遣の事裁可 明治一八年二月二四日 277

四六 参事院議官井上毅外一〇名伊藤全権大使随行の件
1 井上毅・伊東巳代治・鄭永寧・牧野伸顕・花房直三郎特派全権大使伊藤博文随行辞令案回覧 明治一八年二月二四日 278
2 宮内少書記官高辻修長特派全権大使伊藤博文随行辞令案回覧 二月二四日 279
3 参事院議官井上毅以下六名特派全権大使伊藤博文随行の事奏聞 明治一八年二月二四日 280
4 本日発程に付御届 宮内少書記官高辻修長 内閣書記官宛 明治一八年二月二八日 281
5 仁礼景範・黒岡帯刀・関文炳特派全権大使伊藤博文随行辞令案回覧 明治一八年二月二六日 282
6 海軍少将仁礼景範以下三名特派全権大使伊藤博文随行の事奏聞 明治一八年二月二六日 283
7 参事院議官補蒲生仙伊藤博文随行並農商務権少書記官河上謹一西郷従道随行辞令案回覧

明治一八年二月二六日　284
8　参事院議官補蒲生仙外一名清国差遣の事奏聞　明治一八年二月二七日　285
四七　清国皇帝へ御国書并伊藤全権大使御委任状附与の件
1　清国皇帝へ御国書并特派全権大使伊藤博文へ御委任状の件回覧　明治一八年二月二五日　286
（付）国書および委任状（日文・漢訳文）　外務卿井上馨　明治一八年二月二五日
2　清国皇帝へ御国書并特派全権大使伊藤博文へ御委任状の件奏聞　明治一八年二月二五日　291
四八　伊藤全権大使西郷参議へ内訓の件
1　参議兼宮内卿伊藤博文参議兼農商務卿西郷従道清国派遣に付内訓の事裁可　明治一八年二月二四日　292
2　参議兼宮内卿伊藤博文参議兼農商務卿西郷従道清国派遣に付内訓の事回覧　明治一八年二月二四日　293
（付）聖意を奉体し使務を協議し弁理ありたく内訓　太政大臣三条実美　伊藤博文・西郷従道宛　明治一八年二月二四日　294
四九　伊藤全権大使清国へ差遣に付各長官へ内諭の件
1　特派全権大使伊藤博文清国へ被差遣に付各長官へ内諭の事回覧　明治一八年二月二七日　295
（付）御内諭案　明治一八年二月二七日

五〇　伊藤西郷両参議護衛巡査は随行に及ばざるの件
1　護衛巡査の議は随行に不及に付内務卿へ御内達案　太政大臣　内務卿宛　明治一八年二月二四日　297

五一　西郷参議清国出張に付従者二名随従の件
1　清国出張に付従者二名を召連願　参議西郷従道　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二六日　298
（付）願の趣聞届　明治一八年二月二六日
2　西郷参議従者召連願の事御允許に付伺　299
（付）御指令按　明治一八年二月二六日
本文御通知方報知　内閣書記官局　会計局宛　明治一八年二月二六日
3　西郷参議願書中二名は一名の誤写には無之哉の旨御照会に付特別を以て御允許方会計検査院へ回答按　明治一八年四月二日　300
（付）会計検査院照会文　内閣書記官局宛　四月一日

五二　伊藤参議外四名清国出張に付従者一名随従の件
1　清国へ差遣に付従者一名召連願　参議兼宮内卿伊藤博文　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二七日　301
（付）願の趣聞届　明治一八年二月二七日
2　伊藤特派全権大使随行に付従者一名召連願　参事院議官井上毅　太政大臣三条実美宛

明治一八年二月二七日　302
（付）願の趣聞届　明治一八年二月二七日
3　伊藤特派全権大使随行に付従者一名召連願　参事院議官補兼太政官大書記官伊東巳代治
太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二七日　303
4　参議伊藤博文外二名清国出張に付従者召連願の事御允許に付伺　明治一八年二月二七日　304
（付）願の趣聞届　明治一八年二月二七日
5　清国出張に付旅費定則外国の部第九章に準し従者一名召連願　海軍少将仁礼景範　太政大
臣三条実美宛　明治一八年二月二七日　305
（付）願の趣聞届　明治一八年二月二七日
6　海軍少将仁礼景範清国出張に付従者召連願の件御允許に付伺　明治一八年二月二七日　306
（付）御指令按　明治一八年二月二七日
7　清国出張に付従者召連願　海軍中佐黒岡帯刀　内閣書記官宛　明治一八年二月二七日　307
8　海軍中佐黒岡帯刀清国出張に付従者召連願の件御允許に付伺　明治一八年二月二七日　308

五三　天津滞在伊藤全権大使電報李鴻章談判の全権を委任せられ呉大徴（ママ）副大臣に任せられし件
1　天津滞在伊藤大使より電報あり井上外務卿と往復中に付上申　吉田外務大輔　三条太政大
臣宛　明治一八年三月一六日　310
2　清国政府は天津にて談判を欲するも拙官は北京に赴く方可然と思考に付内閣の決議を待つ旨
伊藤全権大使電報訳文　三月一五日発　311
3　外務省上申回覧　明治一八年三月一七日　313

五四　在天津原領事報告伊藤全権大使西郷参議北京へ向け出発の件
1　原領事より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一九日　314
（付）大使は水路西郷は陸路にて昨晩北京へ出発の旨在天津原領事電報訳文　明治一八年三月一八日発
2　外務省上申回覧　明治一八年三月一九日　317

五五　在北京榎本公使電報伊藤全権大使到着の件
1　榎本公使より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月二一日　318
（付）大使只今到着の旨在北京榎本公使来電訳　明治一八年三月二一日北京発

五六　榎本公使電報大使謁見のことを総理衙門大臣と商議情況等の件
1　榎本全権公使より電信申越に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月二七日　320
（付）総理衙門大臣より謁見の議不可行旨答へ且天津にて会議の必要を主張の旨榎本公使より来電訳文　明治一八年三月二六日発
2　外務省上申回覧　明治一八年三月二七日　323

五七　榎本公使電報伊藤全権大使と共に天津に向け出発の件
1　榎本公使より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月三〇日　324
（付）伊藤大使と共に明日天津へ出発四月二日着見込の旨榎本公使来電訳文　明治一八年三月二九日北京発
2　外務省上申供回覧　明治一八年三月三一日　327
五八　榎本公使報告伊藤全権大使来清始末書の件
1　伊藤大使来清始末書第一信より第三信まで榎本公使より申越有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二七日　328
（1）機密信第九号（伊藤大使来清始末書第一信）　二月二八日総署にて徐用儀等諸大臣と晤談要旨報知　榎本武揚　井上外務卿宛　明治一八年三月四日
（付）大日本欽差全権大臣海軍中将榎本照会文（大清欽命総理各国事務王大臣宛、明治一八年二月二六日）
大清欽命総理各国事務王大臣返書（大日本欽差全権大臣海軍中将榎本宛、光緒一一年一月一三日）
井上外務卿英文電報（榎本宛、二月二五日東京発）
榎本英文電報（外務卿宛、三月一日北京発）
井上外務卿英文電報（榎本宛、三月二日東京発）
井上外務卿英文電報（榎本宛、二月二六日東京発）

井上外務卿英文電報（榎本宛、二月二四日東京発）

（2）機密信第一〇号（伊藤大使来清始末書第二信）　本使は二〇日大使は二一日着京・パークス英公使長逝等報知　榎本武揚　井上外務卿宛　明治一八年三月二五日

（付）榎本武揚書翰（三月九日）

大日本欽差全権大臣海軍中将榎本照会文（大清欽命総理各国事務王大臣宛、明治一八年三月九日）

大清欽命総理各国事務王大臣返書（大日本欽差全権大臣海軍中将榎本宛、光緒一一年一月二五日）

大日本欽差全権大臣海軍中将榎本照会文（大清欽命総理各国事務王大臣宛、明治一八年三月二一日）および大使随員名簿

大清欽命総理各国事務王大臣返書（大日本欽差全権大臣海軍中将榎本宛、光緒一一年二月六日）

大日本欽差全権大臣海軍中将榎本照会文（大清欽命総理各国事務王大臣宛、明治一八年三月二三日）

（3）機密信第一一号（大使来清始末書第三信）　談判場所等に付李鴻章との晤談要旨等報知　榎本武揚　井上外務卿宛　三月二六日

（付）大清欽命総理各国事務王大臣照会文（大日本欽差全権大臣海軍中将榎本宛、光緒一一年二月一〇日）

癸号　榎本英文電報（外務卿宛、北京発）

辛号　井上外務卿英文電報（榎本宛、三月二九日東京発）

庚号　榎本英文電報（外務卿宛、三月二九日北京発）
2　伊藤大使来清始末書供回覧　明治一八年四月二八日　357
五九　榎本公使電報総理衙門大臣と面晤の件
1　榎本特命全権公使より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二八日　358
（付）昨日総理衙門大臣と面晤彼等今回の結局不満足ならさる様に見受けたる旨榎本公使より電報訳文　明治一八年四月二七日発
2　榎本公使電報供回覧　明治一八年四月二九日　361
六〇　西郷参議外四名帰朝の件
1　昨二八日帰朝に付御届　農商務卿西郷従道　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二九日　362
2　昨二八日帰朝に付御届　海軍少将仁礼景範　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二九日　363
3　昨二八日帰朝に付御届　会計一等副監督川口武定　太政官宛　明治一八年四月二九日　364
4　昨二八日帰朝に付御届　宮内少書記官高辻修長　内閣書記官宛　明治一八年四月二九日　365
5　昨二八日帰朝に付御届　一等警視佐和正　内閣書記官長土方久元宛　明治一八年四月二九日　366

六一　伊藤全権大使清国全権大臣李鴻章と朝鮮駐防営兵撤回并清国官兵戒飾等談判約書訂結の件
1　別紙機密に付し置く様注意ありたき旨覚書　368
2　伊藤全権大使清国全権大臣李鴻章と撤兵の議に付約書を訂結し朝鮮駐在清国官兵戒飾の議并兵員暴状の議に付李鴻章より照会有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月一日　369
（付）日清両国の朝鮮撤兵等に付約款（日文・漢文）　明治一八年四月一八日（光緒一一年三月四日）
漢城の変の際中国兵による日本人殺掠の見証あれは厳罰の旨李鴻章照会文（日文・漢文）　光緒一一年三月四日
3　伊藤大使李鴻章と談判顛末書供回覧　明治一八年五月五日　375

六二　清国と締約の条約書へ御批准の件
1　清国と締約の条約書へ御批准書御下渡の儀上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月一一日　376
（付）批准書および約款条文
2　清国と締約の条約書へ御批准書御下渡の事裁可　明治一八年五月一六日　380
3　外務省上申仰高裁　明治一八年五月一二日　381

六三　朝鮮国公使館警備兵中一大隊撤回の件
1　京城事変後日清兵員の鬥殴殺傷等三回に及び葛藤の原因杜絶喫緊に付駐在兵員の内一大隊は

速に撤回相成たく上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月二六日　382
2　外務省上申奏聞　明治一八年五月二八日　383
3　外務省上申の儀陸軍省へ御達に付伺　明治一八年五月二六日　384
（付）御達按　明治一八年五月二九日
4　熊本鎮台司令官より電報届出に付御届　陸軍卿大山巌　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月二四日　385
（付）朝鮮分遣隊昨日帰営の旨電報　熊本鎮台三好司令官　大山陸軍卿宛　明治一八年六月二三日
5　陸軍省届在朝鮮警備隊の内帰営の事供回覧　明治一八年六月二五日　388

六四　朝鮮国駐防兵隊悉皆撤去の件
1　朝鮮国駐留兵隊撤去に付清国公使より照会あり我方も同時に悉皆撤兵相成候様致したく上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月三〇日　389
（付）上申の趣聞届　明治一八年七月二日
全面撤兵日時に付大清欽差大臣徐照会文　大日本国外務卿井上宛　光緒一一年五月一八日
2　朝鮮国駐留兵隊撤去に付上申書副本一通差出　外務書記官　内閣書記官宛　明治一八年七月三日　391
3　外務省上申裁可　明治一八年七月二日　392
4　外務省上申の儀其筋へ御達に付伺　明治一八年七月一日　394

（付）御達案および御指令案　明治一八年七月二日
5　高平臨時代理公使より電報有之に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月二七日　398
（付）我兵二〇日に京城撤去二一日済物浦解纜すべき旨高平臨時代理公使来電訳　明治一八年七月二七日馬関発
6　外務省上申供回覧　明治一八年七月二八日　399
7　朝鮮国残留の熊本鎮台歩兵第一四連隊第一大隊第一中隊二七日帰営該国駐在我兵隊全数撤回に付上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月三一日　400
8　外務省上申供回覧　明治一八年八月一日

〔全権大使伊藤博文復命書　別冊の印刷あり此に之を略す〕

〔129〕　明治一七年　朝鮮事変始末　四　（R119／405～550）

六五　外務省稟候朝鮮事変に係る費用別途下附の件
1　事務弁理費用・大使并随行員派遣旅費用意金・汽船雇上費用等朝鮮国京城暴動事件に係る費用別途御下付の儀上申　外務卿代理外務大輔吉田清成　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月一三日　410
（付）先以て金八万円を目途とし下付　明治一八年一月二七日
2　外務省朝鮮事件費別途請求の件は先以て通貨金八万円を目途とし海外電信料金以外渾て通貨を以て処弁候様御指揮相成たく副申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月一五日　411
3　外務省上申供回議　明治一八年一月一九日　412
4　外務省上申の儀は大蔵省副申の通可然に付仰高裁　明治一八年一月一九日　413
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一八年一月二七日

六六　海軍省稟候比叡艦朝鮮国仁川港へ航海費別途下附の件
1　比叡艦仁川港航海費金三万七八一六円至急別途御下付の義上請　海軍卿川村純義　太政大

臣三条実美宛　明治一七年一二月二五日　414
（付）上請の趣聞届　明治一八年二月二日
比叡艦朝鮮国航海費仕訳書　海軍省　明治一七年一二月
2　海軍省上請の通御裁可可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月一三日　415
3　海軍省上請供回議　明治一八年一月一九日　416
4　海軍省上請御聴許可然に付仰高裁　明治一八年一月一九日　416
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一八年二月二日

六七　海軍省稟候金剛春日両艦朝鮮国航海費同上の件
1　金剛春日両艦航海費金六万九五四四円至急別途御下附の義上請　海軍卿川村純義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月七日　417
（付）上請の趣聞届　明治一八年二月四日
朝鮮国軍艦回航費仕訳書　海軍省　明治一八年一月
2　海軍省上請の通御聴許相成たく上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年一月一四日　420
3　海軍省上請供回議　明治一八年一月二〇日　420
4　海軍省上請御聴許可然に付仰高裁　明治一八年一月二一日　420
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一八年二月四日

六八　陸軍省稟候朝鮮事変に係る費用別途下附の件

1　朝鮮分遣隊へ糧食被服送付の汽船雇上・将校派遣旅費糧食被服費等別途金御下渡の儀伺　421
陸軍卿西郷従道　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二四日
（付）伺の趣聞届　明治一八年二月四日

2　陸軍省伺の通御聴許相成たく上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一七年一二月二六日　422

3　陸軍省伺供回議　明治一八年一月二一日　422

4　陸軍省伺御聴許可然に付仰高裁　明治一八年一月二一日　422
（付）御指令案　明治一八年二月四日

六九　特派全権大使清国へ差遣費用外務省へ下附の件

1　特派全権大使清国へ差遣費用として銀貨三万円紙幣一万円外務省へ御下付に付仰高裁　明治一八年二月二四日　424
（付）外務省へ御達案および大蔵省へ御達案　明治一八年二月二四日

2　特派全権大使清国へ被差遣差向の費用外務省へ御下付の事供回議　明治一八年二月二四日　425

七〇　外務省稟候遣清大使乗船費用別途下附の件

1　特派全権大使清国差遣の際汽船二艘雇上其費額金四万円余の見込に付別途御下附の儀上申　426
外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月二六日
（付）上申の趣聞届　明治一八年二月二八日

2　外務省上申供回議　明治一八年二月二七日　427
3　外務省申白の通御聴許可然に付仰高裁　明治一八年二月二七日　428
（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一八年二月二八日

七一　外務省稟候朝鮮国へ差遣特派全権大使一行の者旅費支度料支給方の件
1　馨儀先般特派全権大使として朝鮮国へ派遣の節一行の旅費支度料等支給方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一九日　429
（付）上申の趣聞届　明治一八年三月六日
朝鮮行大使一行の者旅費支給額一覧
2　外務省上申供回議　明治一八年二月二六日　432
3　黒田大臣等へ下賜の金員より稍超過相成も月手当除却に付外務卿申白の通御聴許方仰高裁
明治一八年二月二六日　433
（付）御指令按　明治一八年三月六日
（参照）明治九年三月九日黒田弁理大臣届（附　大久保弁理大臣派清に付手当調・清国出張旅費調）

七二　外務省稟候朝鮮事変に付船舶雇入に係る費用支出の件
1　先般朝鮮事変に付拙者儀特派全権大使として韓地出張の際雇入の汽船中国海峡にて船底破損に付修繕費は雇船賃と共に今回事件費より支出方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月一〇日　440

（付）上申の趣聞届　明治一八年四月六日
共同運輸会社船を臨時用船申付の旨命令書　外務省　明治一七年一二月
近江丸・相模丸・薩摩丸御用船中の実費請求書　共同運輸会社　外務省会計局宛
明治一八年二月二八日
近江丸御用船中実費勘定調・相模丸御用船中実費勘定調・薩摩丸御用船中実費勘定調
共同運輸会社へ下付すべき報酬金調書　明治一八年三月
2　外務省申出の通御聞届可然に付御回答　大蔵大書記官渡辺国武　太政官第一局書記官宛　485
明治一八年三月一九日
3　外務省上申供回議　明治一八年三月三一日　486
4　外務省稟申の通御聞届可然に付仰高裁　明治一八年三月三一日　487
（付）御指令按　明治一八年四月六日

七三　外務省稟候朝鮮差遣大使一行陸海軍警視庁各員其他旅費支給方の件
1　先般特派全権大使として拙官朝鮮派遣の際陸海軍警視庁各員の旅費の儀も前条御裁可の等級に応し支給致すべく取調に付伺　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月二三日　489
（付）伺の趣聞届　明治一八年四月六日
朝鮮行大使一行陸海軍警視庁及ひ外務省小使等旅費支給額
2　外務省伺供回議　明治一八年三月二八日　491
3　外務省伺御允許可然に付上申案　第一局　明治一八年三月二七日　492

（参照）明治一八年二月外務卿より特派全権大使一行の者旅費支度料等支給方の儀上申（附朝鮮行大使一行の者旅費支給額）

七四　外務省稟候朝鮮事件別途費増額の件

1　現今までの支出高最前御指令の金額に対し不足を告け目下払見込額等加算に付此際金五万円銀貨五千円支給御下渡方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月一三日　495

（付）上申の趣聞届　明治一八年五月一一日

2　外務省上申御聴許の外有之間敷尤も此上増額請求せさる様御指示相成たく上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二二日

（付）一月二七日御裁可高中内払額・差引額および仕払見込高・差引不足高

3　外務省上申供回議　明治一八年四月二九日　498

4　外務省上申御聴許の外有之間敷に付仰高裁　明治一八年四月二九日　499

（付）御指令按および大蔵省へ御達按　明治一八年五月一一日

七五　外務省稟候遣清大使一行の者旅費支度料等支給方の件

1　伊藤博文遣清大使一行旅費支度料等に付拙官朝鮮国派遣の節の伺済に準し支給方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月三日　500

（付）上申の趣聞届　明治一八年六月一八日

遣清大使一行の者旅費支給額および遣清大使一行陸海軍警視庁員旅費支給額

2　外務省上申供回議　明治一八年六月一〇日　503
3　外務省上申御聴許可然に付仰高裁　明治一八年六月一〇日　504
（付）御指令案　明治一八年六月一八日
（参照）朝鮮国出張旅舎賄料（明治一八年四月二四日外務省伺　同五月二二日裁可）

七六　陸軍省稟候故磯林歩兵大尉外五名靖国神社へ合祀費用下付の件
1　故歩兵大尉磯林真三外五名靖国神社合祀費用の義は別途金額御下渡方伺　陸軍卿大山巌
太政大臣三条実美宛　明治一八年四月二八日　506
（付）伺の趣聞届　明治一八年五月二二日
合祀費用内訳
2　陸軍省伺の通御聴許可然の旨上申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月一一日　508
3　陸軍省伺供回議　明治一八年五月一六日　509
4　陸軍省伺御聴許可然に付仰高裁　明治一八年五月一六日　510
（付）御指令案および大蔵省へ御達案　明治一八年五月二二日

七七　外務省稟候朝鮮国京城駐在兵撤回後同地公使領事館并居留人民護衛費一八年度在外公館経費に増額の件
1　朝鮮国京城駐在兵撤回後は同地公使館領事館并に居留人民の保護の為巡査七名警部一名増加希望に付別途支給方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月九日　511

（付）伺の趣年々費減削し其他申出の通聞届　明治一八年六月二〇日
京城公使館護衛費増額調および京城領事館警察費増額調
2　外務卿上請は年々費九ケ月分減削し一時限の費用は申出の通一八年度在外公館費増額方可然に付副申　大蔵卿松方正義　太政大臣三条実美宛　明治一八年六月一一日　517
3　外務省上申供回議　明治一八年六月一三日　518
4　外務省上申左按の通御指令可然に付仰高裁　明治一八年六月一二日　519
（付）御指令按および御達按　明治一八年六月二〇日

七八　外務省稟候朝鮮事変の際我官民の被むりたる損害補填金適宜分配方の件
1　当省にて朝鮮事変の際被りし損害補填要求の当否を判別し朝鮮国政府よりの填補金額の内を以て適宜に分配方予め上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年三月二五日　520
（付）上申の趣聞置　明治一八年四月八日
2　外務省上申回覧　明治一八年三月二七日　521
3　外務省上申の義は御聞置可然に付仰高裁　明治一八年四月二日　522
（付）御指令案　明治一八年四月八日

七九　外務省稟候朝鮮政府より払入の補填金大蔵省預金局へ利付預金に取計の件
1　朝鮮政府より払入の填補金大蔵省預金局へ利附預金に致し置きたく今回の二万五千円は無定期預入に取計を以て大蔵卿へ引渡方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一

八年六月二七日　523
2　外務省上申供回覧　明治一八年六月二九日　524
3　外務省供高覧に付上申書案　明治一八年六月二九日　525

八〇　外務省稟候朝鮮事変の際在勤員へ遭難手当金給与の件
1　朝鮮国京城変乱に際し在勤員所有の物品烏有に帰し洒寒の折柄一層難渋に付竹添公使以下へ在勤年俸一ケ月分遭難手当として下賜方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年二月一三日　526
（付）伺の趣聞届　明治一八年三月一九日
遭難御手当
2　外務省上申供回議　明治一八年二月一七日　529
3　外務省上請の通御裁可可然に付仰高裁　明治一八年二月　530
（付）御指令案　明治一八年三月一九日
（参照）明治一五年朝鮮国擾乱の際在勤候者へ被下候御手当金額

八一　伊藤参議内稟大使随行員井上参事院議官外八名へ慰労金給与の件
1　先般特派全権大使として清国へ出張の節随行員の内九名は終始格別勉励に付大使費用金の内を以て慰労金給与方内申（附　慰労金額一覧）　参議伊藤博文　太政大臣三条実美宛　明治一八年五月一六日　533
（付）上申の趣聞届　明治一八年五月二〇日

2　伊藤参議申出の趣御允許に付伺　明治一八年五月一八日　535
（付）御指令案　明治一八年五月二〇日
3　機密費金四千五百円領収証　内閣大書記官谷森真男　太政官大書記官伊東巳代治宛　明治一八年五月二〇日　537
（付）伊藤大使清国派遣の節携帯用意金の内機密費支払の請求証書相回すべき旨外務省より照会に付至急内閣書記官より御送致相成たく通報　伊東秘書官　谷森内閣書記官宛　明治一九年九月一六日

八二　外務省稟候仁川在勤領事小林端一外二〇名慰労金給与の件
1　先般朝鮮事件に付拙官同国へ派遣の砌及び伊藤大使清国派遣の節両国関係の公使領事館官員・雇外国人・内密探偵報告向等尽力の外国人等へ慰労報酬手当下賜方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年七月一日　536
（付）上申の趣聞置　明治一八年七月九日
慰労金額一覧
2　外務省上申の趣も聞置可然に付伺　明治一八年七月四日　542
（付）御指令案　明治一八年七月九日

八三　外務省稟候仁川領事館在勤御用掛武田邦太郎へ同上の件
1　朝鮮事件大使派遣の際通訳に従事し格別勉励に付仁川領事館在勤外務省御用掛武田邦太郎へ金五十円支給方上申　外務卿井上馨　太政大臣三条実美宛　明治一八年八月八日　543

（付）上申の趣聞置　明治一八年八月一八日
2　外務省上申御允許に付伺　明治一八年八月一五日　544
（付）御指令按　明治一八年八月一八日

八四　恩給局稟候故磯林歩兵大尉寡婦へ手当金支給方の件
1　朝鮮国京城変乱の際殺害の歩兵大尉故磯林真三寡婦へ特別扶助料下賜方に付仰高裁　恩給局　明治一八年八月一〇日　545
（付）内務省へ御達按および大蔵省へ御達按　明治一八年八月一五日
2　恩給局上申供回議　明治一八年八月一一日　547
3　恩給局上申の通御裁可可然に付仰高裁　明治一八年八月一一日　548

〔130〕

自明治一五年至同一八年　公文別録

仏清事件　一

（R120／006～230）

一　在香港領事安藤太郎報告西貢仏藩と安南政府の間不協和の件　013
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一五年三月二四日
2　明治一五年第二五号公信　安藤太郎　外務大輔上野景範宛　明治一五年三月一一日
3　回覧書　明治一四年四月二四日
4　第一局供覧書　明治一五年四月二一日

二　在上海総領事品川忠道報告法国兵安南を征すること並に上海申報載する所安南非琉球之比説の件　018
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一五年六月二日
2　領事報告第一二号　品川忠道　井上馨宛　明治一五年五月一七日
3　安南非琉球之比説
4　回覧書　明治一五年六月二三日

三　在香港安藤太郎報告仏藩政府東京州ハノイ府へ進兵の件　026
1　左大臣熾仁親王宛外務卿井上馨進達　明治一五年四月二一日
2　明治一五年第三六号公信　明治一五年四月一一日
3　回覧書　明治一五年四月二四日

四　在香港領事安藤太郎報告仏兵東京州進撃の件　032
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一五年五月二九日
2　法朗西の東京遠征　新聞抜粋
3　回覧書　明治一五年五月三〇日
4　供覧書　日付なし

五　在天津副領事島村久報告在清仏公使挙動等の件　046
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一月二〇日
2　一五年機密第四六号　明治一五年一二月二三日

六　在天津副領事島村久報告李鴻章安南事件弁理大臣被命其他各所防御分任並壮兵徴募等の件　048
1　一六年機密第二四号　明治一六年五月九日

七　在北京公使榎本武揚電報李鴻章代人を安南に送らんとするの意あり並に在清仏公使北京出発猶予の件　050

1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年五月一四日
2　榎本公使来電　明治一六年五月一三日
3　回覧書　明治一六年五月一五日

八　在北京公使榎本武揚報告李鴻章安南行の風説及仏公使フーレー氏談話等の件　052
1　機密信第二三号　明治一六年五月一四日

九　在北京公使榎本武揚報告仏清両国の関係其他吃緊事項仏公使フーレー氏より密話の件　060
1　榎本公使報告　安南事件　明治一六年四月二八日
2　中島雄識　安南法蘭西との関係　明治一六年三月三日
3　回覧書　明治一六年五月二三日

一〇　在上海総領事品川忠道電報李鴻章の上海到着の件　080
1　品川忠道電報　明治十六年五月二十五日
2　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治十六年五月二九日

一一　在上海総領事品川忠道報告李鴻章貴州両広並に雲南の経略使に新撰せらるるの風聞並にクライアット及英商マクドーガル通信訳仏清関係事件等の件　083
1　機密第二四号　明治一六年五月一五日
2　マクドーガル通信訳　明治一六年五月一一日

3　クライアット氏書簡訳　明治一六年五月一二日
4　李鴻章南方四省経略の説　明治一六年五月一五日
5　回覧書　明治一六年五月三一日

一二　在上海総領事品川忠道報告各地の報知は大率平和の意を表する等の件　094
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治一六年六月一四日
2　在上海品川総領事電報　明治一六年六月一三日
3　回覧書　明治一六年六月一五日

一三　在上海総領事意品川忠道報告東京に在る仏国人南定城征討の件　098
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年五月一一日
2　東京に在る仏国人南定城の征討　明治一六年三月三一日
3　回覧書　明治一六年六月六日

一四　在上海総領事品川忠道報告仏公使トリクー氏李鴻章と面談の件　107
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治一六年六月二〇日
2　品川総領事暗号電報　明治一六年六月九日
3　回覧書　明治一六年六月二一日

一五　在北京公使榎本武揚報告安南事件及清露交渉事件魯国代理公使ウェーブル氏談話の件　111

1　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治一六年六月二一日
2　榎本公使密電　明治一六年五月二九日
3　回覧書　明治一八年六月二二日

一六　在上海総領事品川忠道報告清国安南を援けさる説並に越南事件本末節略の件　116
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治一六年六月二三日
2　機密信第四〇号　明治一六年六月一二日
3　越南事件本末節略
4　回覧書　明治一六年六月二五日

一七　在上海総領事品川忠道報告仏国公使ツリコー氏李氏と会話並に清国仏と戦はす却て隣国と戦ふの意ある節等の件　128
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理吉田清成進達　明治一六年六月二五日
2　機密信第三八号　明治一六年六月一二日
3　機密信第三九号　明治一六年六月一二日
4　米国新聞切抜訳
5　バルフォール氏書簡写　一八八三年六月一一日
6　回覧書　明治一六年六月二六日

一八　在上海総領事品川忠道報告天津状況並にガルリー氏と面話の件　138

1　品川総領事機密信　日付なし

一九　在北京公使榎本武揚報告李氏仏公使トリクー氏と談判の景況並に安南関係近事等の件　141
1　機密信第三五号　明治一六年七月一六日

二〇　在上海総領事品川忠道電報安南及東京海岸封鎖等の件　150
1　三条実美太政大臣宛外務卿井上馨進達　明治一六年八月一四日
2　品川忠道電報　明治一六年八月一二日
3　回覧書　明治一六年八月一六日

二一　在上海総領事品川忠道電報仏清両兵交戦の件　160
1　品川忠道電報　明治一六年八月二五日

二二　在北京公使榎本武揚報告米公使ヨング氏談話清仏両大臣安南事件談判の大要及該件目今景況の件　161
1　機密信第三八号　明治一六年八月一二日
2　回覧書　明治一六年九月四日

二三　在上海総領事品川忠道報告寧波地方増兵及俄艦甬江に集るの説の件　172
1　録事報告　明治一六年一一月二九日

二四　在上海総領事品川忠道電報東京にある仏国文武官の間に軋轢を生せし件　一七三
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二〇日
2　品川領事電報　明治一六年九月二九日
3　回覧書　明治一六年九月二一日
二五　在北京公使榎本武揚報告仏国に於て非戦党多数を占むるを以て平和に氷釈すべし等の説あるの件　一七七
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二一日
2　榎本公使来電　明治一六年九月一九日
二六　在上海総領事品川忠道電報仏清談判は平和に帰し難し並に仏兵敗北黒旗隊河内襲撃の勢ある等の件　一七九
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二七日
2　品川領事電報　明治一六年九月二五日
3　同右　明治一六年九月二六日
二七　在北京公使榎本武揚電報英仏公使到着等の件　一八二
1　榎本公使来電　明治一六年九月二六日
2　回覧書　明治一六年九月二八日

二八　在上海総領事品川忠道電報仏公使と李鴻章と談判の件　185
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二八日
2　品川領事電報　明治一六年九月二七日
3　回覧書　明治一六年九月二九日

二九　在北京公使榎本武揚電報天津談判は彊境一条に異義を生せし等の件　189
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一〇月一日
2　榎本公使電報　明治一六年九月二九日

三〇　在上海総領事品川忠道電報仏兵フホアイに進む等の件　191
1　品川領事電報　明治一六年九月二九日
2　回覧書　明治一六年一〇月二日

三一　在上海総領事品川忠道報告浮水砲台落成並に清国少しく威像を顕すの件　194
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一〇月四日
2　品川総領事機密信　明治一六年九月一六日
3　回覧書　明治一六年一〇月五日

三二　在上海総領事品川忠道電報安南政府は仏蘭西の認可を以て黒旗隊の東京を退去して其貿易を防

げざるを約せし件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一〇月八日
2　品川領事電報　明治二六年一〇月七日
3　回覧書　明治一六年一〇月九日　199

三三　在上海総領事品川忠道電報新聞の説に依れば仏兵は尚ほ援兵を要し仏兵黒旗隊と平和の報と背馳するの件
1　品川総領事電報　明治一六年一〇月一五日
2　回覧書　明治一六年一〇月一七日　203

三四　在上海総領事品川忠道電報在安南仏軍総督交代の件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一一月九日
2　品川領事電報　明治一六年一一月八日
3　回覧書　明治一六年一一月一〇日　207

三五　在北京公使榎本武揚電報仏兵北寧波及東京に在る清国管内に侵入せば開戦すべき旨海陸軍指揮官へ上諭ありし世評の件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一一月一二日
2　榎本公使電報　明治一六年一一月一一日
3　回覧書　明治一六年一一月一三日　211

三六　在北京公使榎本武揚電報安南を清国の藩属国と公言したる回文を総理衙門より各国公使館に差送りたる件　215
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治二六年一一月一九日
2　榎本公使電報　明治一六年一一月一八日
3　回覧書　明治一六年一一月二〇日

三七　在上海総領事品川忠道電報イツウンに於て清仏両兵交戦黒旗隊敗走の件　219
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一一月二六日
2　品川領事電報　明治一六年一一月二四日
3　回覧書　明治一六年一一月二八日

三八　在上海総領事品川忠道電報安南海防を襲撃せし等の件　223
1　品川領事電報　明治一六年一二月一〇日

三九　在上海総領事品川忠道及在上海大原里賢電報暴徒広東に在る仏領事館に乱入の件　224
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一二月一一日
2　品川領事電報　明治一六年一二月九日
3　大原里賢電報　明治一六年一二月九日
4　回覧書　明治一六年一二月一二日

自明治一五年至同一八年　公文別録

〔131〕

仏清事件　二

（R120／233～416）

四〇　在上海総領事品川忠道報告仏国総督ミロット氏兵を引率して東京に来着の件　240
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年三月四日
2　品川総領事電報　明治一七年三月二日
3　回覧書　明治一七年三月五日

四一　在上海総領事品川忠道報告北津間の来報及仏国新兵再着並に欧州来報の件　245
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年三月二五日
2　北津間の来報　品川忠道　明治一七年三月一二日
3　回覧書　明治一七年三月二七日

四二　在上海総領事品川忠道報告北寧落城の件　251
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年三月二一日

2　機密信第三二号　明治一七年三月一九日

四三　在天津領事原敬報告安南近況及大院君帰国の事項李鴻章に面話の件　253
1　在天津原領事機密信　明治二七年三月五日
2　回覧書　明治一七年四月一日

四四　在北京臨時代理公使吉田二郎報告総理衙門の管理長任命及上諭を以て雲南巡撫唐畑に山西落城の責を広西巡撫徐延旭に北寧棄去の責を帰するの件　264
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年四月一五日
2　吉田二郎電報　明治二七年四月一四日
3　回覧書　明治一七年四月一五日

四五　在北京臨時代理公使吉田二郎及天津領事原敬報告仏国政府より軍費賠償を清政府に要求せし説あるの件　268
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年五月七日
2　吉田代理公使機密電信　明治一七年三月三一日
3　天津原領事機密信　明治一七年四月二日
4　回覧書　明治一七年五月八日

四六　在天津領事原敬電報仏国政府は平和条約の談判をフールムエー氏に訓令し李氏の住居に於いて

該条約記名の件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年五月一三日　275
2　在天津原領事電報　明治一七年五月一二日

四七　在上海領事安藤太郎及松村海軍少将電報清兵諒山鎮に於いて仏兵を要撃せし件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年六月三〇日　277
2　安藤太郎電報　明治一七年六月二九日
3　松村海軍少将電報　明治一七年六月二九日

四八　在北京臨時代理公使吉田二郎及原領事電報仏公使と総理衙門との談判切迫の件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年七月一七日　280
2　吉田二郎・原敬電報　明治一七年七月一七日
3　回覧書　明治一七年七月一八日

四九　在北京臨時代理公使吉田二郎電報総理衙門より外国公使へ回章の件
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年七月二二日　284
2　吉田臨時代理公使来電　明治一七年七月二〇日
3　回覧書　明治一七年七月二二日

五〇　在上海領事安藤太郎電報結局の議延期の件　288

1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年七月二三日
2　安藤領事電報　明治一七年七月二二日
3　回覧書　明治一七年七月二四日

五一　在北京臨時代理公使吉田二郎及松村海軍少将安藤領事電報在東京兵営引払の上諭あり及和議の基礎定まりたる等の件　292
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年七月一九日
2　吉田二郎・松村少将・安藤太郎電報　明治一七年七月一八日
3　回覧書　明治一七年七月二五日

五二　在上海領事安藤太郎電報清仏両委員の談判初め期望せし如き好都合にあらざるの件　296
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年八月一日
2　在上海領事安藤太郎電報　明治一七年七月三一日

五三　在上海領事安藤太郎電報償金を払うべしとの本旨は遂に仏国公使及両江総督曽国筌の間に協議を得たるの件　298
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年八月二日
2　在上海安藤領事電報　明治一七年八月一日
3　回覧書　明治一七年八月四日

五四　在北京臨時代理公使吉田二郎電報清国政府米国にて清仏事件の仲裁を為さんことを請求せし件　三〇二
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年八月四日
2　吉田臨時代理公使電報　明治一七年八月二日
3　回覧書　明示一七年八月五日

五五　在北京公使榎本武揚及安藤領事松村海軍少将電報仏国にて米国の調停謝絶及仏人台湾島の鶏籠を取るの件　三〇六
1　榎本公使・安藤領事・松村少将電報　明治一七年八月九日
2　回覧書　明治一七年八月一一日

五六　在北京臨時代理公使吉田二郎報告諒山の一役に付清国政府より各国公使へ照会の件　三一〇
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年八月二〇日
2　照会文（漢文）
3　回覧書　明治一七年八月二二日

五七　在北京臨時代理公使吉田二郎電報在北京仏公使館引払の件　三一六
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年八月二二日
2　安藤領事電報　明治一七年八月二二日

五八　在天津領事原敬電報清国政府は仏国と開戦すべきに決し諸砲台へ内訓あるの件　三一八

1　在天津原領事電報　明治一七年八月二二日

五九　在上海領事安藤太郎電報仏水師提督クールベー氏に福州の砲撃を始むべきの告示ありし件　三一九
1　安藤領事電報　明治一七年八月二三日

六〇　在上海領事安藤太郎電報仏兵台湾攻撃の件　三二〇
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月六日
2　上海安藤太郎電報　明治一七年一〇月五日

六一　在上海領事安藤太郎電報軍勢総督劉銘伝氏鶏籠を退き水師提督クールベー氏之を追躡するの件　三二二
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月一〇日
2　安藤領事電報　明治一七年一〇月九日
3　回覧書　明治一七年一〇月一一日

六二　在上海領事安藤太郎電報ゼネラルネグレユ諒山鎮近傍に於いて清兵と戦い大勝を得るの件　三二六
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月一三日
2　安藤領事来電　明治一七年一〇月一二日
3　回覧書　明治一七年一〇月一三日

六三　在上海領事安藤太郎及在香港町田領事代理電報東京地方に於いて清仏交戦形況の件　三三〇

1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月一八日
2　安藤領事・町田領事代理電報　明治一七年一〇月一六日
3　回覧書　明治一七年一〇月一八日

六四　在上海領事安藤太郎報告仏艦隊台湾攻撃形況等の件　334
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月二二日
2　安藤領事来電　明治一七年一〇月二一日
3　回覧書　明治一七年一〇月二二日
4　左大臣熾仁親王宛外務卿井上馨進達　明治一七年一一月一日
5　安藤領事報告　明治一七年一〇月一三日
6　回覧書　明治一七年一一月四日

六五　在北京公使榎本武揚報告台湾攻撃米公使ヨング氏調停の情況及び同氏談話琉球案の件　344
1　左大臣熾仁親王宛外務卿井上馨進達　明治一七年一〇月三一日
2　機密第六六号　明治一七年一〇月一五日
3　フレイーガン・ヨング往復　一八八三年九月一三日、一六日
4　回覧書　明治一七年一一月四日

六六　在上海領事安藤太郎電報仏清両国間に直接の照会を開き且つ英国より仲裁を申込みたるは虚説の件　355

1　太政大臣三条実美宛外務卿臨時代理吉田清成進達　明治一七年一一月一〇日
2　在上海安藤領事電報　明治一七年一一月一〇日
3　回覧書　明治一七年一一月一一日

六七　在北京公使榎本武揚報告仏清和議一案顛末の件　359
1　太政大臣三条実美宛外務卿臨時代理吉田清成　明治一七年一二月五日
2　榎本公使機密信　明示一七年一一月一二日
3　回覧書　明治一七年一二月五日

六八　在上海領事安藤太郎及在香港町田領事代理電報香港太守より仏清両国軍艦へ石炭等給与禁止公布の件　365
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年一月二六日
2　安藤領事来電　明治一八年一月二三日
3　町田領事代理電報　明治一八年一月二四日
4　回覧書　明治一八年一月二七日

六九　在上海領事安藤太郎報告東京地方の状況及び台湾実況の件　370
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年二月四日
2　機密信第三号　明治一八年一月二二日
3　回覧書　明治一八年二月四日

4　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年二月一九日
5　機密信第六号　明治一八年二月四日
6　回覧書　明治一八年
7　三条実美太政大臣宛外務卿井上馨進達　明治一八年二月二一日
8　機密信号第八号　明治一八年二月一一日
9　回覧書　明治一八年二月二三日

七〇　在上海領事安藤太郎電報仏兵シアロン砲台を毀滅しカスルヒルを攻撃するの準備を為す並に英国水師提督軍備を整ふべきの命を受くるの件　388
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年三月一六日
2　安藤領事電報　明治一八年三月一四日
3　回覧書　明治一八年三月一七日

七一　在北京公使榎本武揚電報仏国は清国と和局を結ぶ意あるの件　393
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年三月二七日
2　榎本公使来電　明治一八年三月二六日
3　回覧書　明治一八年三月二八日

七二　在上海領事安藤太郎電報仏兵ペスカドレス島略取の件　397
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年四月四日

2　安藤領事電報　明治一八年四月二日
3　安藤領事電報　明治一八年四月三日

七三　在上海領事安藤太郎電報仏国公使北京へ向け出発の件　400
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年四月二〇日
2　安藤領事電報　明治一八年四月一八日
3　回覧書　明治一八年四月二〇日

七四　在北京公使榎本武揚電報天津条約清国皇帝に於いて批准の件　404
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年五月二四日
2　榎本公使電報　明治一八年五月二三日
3　回覧書　明治一八年五月二六日

七五　在上海領事安藤太郎電報仏清新条約大意の件　408
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年六月一三日
2　在上海安藤領事電報　明治一八年六月一二日
3　回覧書　明治一八年六月一四日

七六　在天津領事原敬電報仏清条約要点の件　412
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年六月一六日

2　在天津原領事電報　明治一八年六月一五日

自明治一五年至同一八年　公文別録

〔132〕

仏清事件　三

（R121／0065～247）

七七　在仏国公使井田譲報告東京事件に付仏清両国間葛藤景況の件　011
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一五年一一月二四日
2　公信第一〇六号　明治一五年一一月二四日
3　公信第一二一号　明治一五年一二月一五日
4　公信第一二七号　明治一五年一二月二二日
5　回覧書　明治一六年四月二五日
七八　在仏国蜂須賀公使電報東京軍資議決の件　030
1　蜂須賀公使電報　五月二七日
七九　仏国蜂須賀公使電報仏国の与論清国と開戦を非難するの件　031
1　蜂須賀公使電報　明治一六年六月一九日
八〇　仏国蜂須賀公使東京出兵費額の件　033

1　蜂須賀公使電報　明治一六年六月一〇日

八一　仏国蜂須賀公使電報仏国が東京に於ての政策を変ぜず安南を清国の属藩と認めざるの件　034
1　蜂須賀公使電報　明治一六年六月一八日
2　回覧書　明治一六年六月二〇日

八二　仏国蜂須賀公使報告清国に係る仏国近況の件　037
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月一〇日
2　機密第三号明治一六年七月一三日
3　回覧書　明治一六年九月一一日

八三　仏国蜂須賀公使電報仏清談判不穏に趣きたるの件　043
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一〇月一三日
2　在仏蜂須賀公使来電　明治一六年一〇月一一日
3　回覧書　明治一六年一〇月一五日

八四　仏国蜂須賀公使電報東京実況に付仏国の内閣は同議院に其の関係の困難なるを報ぜし件　047
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年一〇月三〇日
2　在仏蜂須賀公使来電　一八八三年一〇月二九日
3　回覧書　明治一六年一〇月三一日

八五　仏国蜂須賀公使及び清国上海領事安藤太郎電報仏国援兵東京及び台湾に出発並に黒旗党及び雲南省清兵敗走の件　051
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理外務大輔吉田清成進達　明治一七年一一月二五日
2　蜂須賀公使・安藤領事電報　明治一七年一一月二四日
3　回覧書　明治一七年一一月二六日

八六　仏国蜂須賀公使報告仏国下院東京費調査委員会議の件　055
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理外務大輔吉田清成進達　明治一八年一月一三日
2　機第八八号　明治一七年一一月一四日
3　回覧書　明治一八年一月一六日

八七　仏国蜂須賀公使報告仏国遠征を非難するを以て大統領勅令の件　064
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年二月二日
2　機密第一一二号　明治一七年一一月二八日
3　回覧書　明治一六年二月二日

八八　仏国蜂須賀公使電報仏国は再び談判を開くの便利を得る為に開戦の公告を為さざる等の件　068
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年二月一二日
2　蜂須賀公使来電　明治一八年二月一一日

3　回覧書　明治一八年二月一三日

八九　仏国蜂須賀公使電報仏国新内閣組織及び東京軍費支出の件　072
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年四月四日
2　蜂須賀公使電報　明治一八年四月二日、三日
3　回覧書　明治二八年四月六日

九〇　仏国蜂須賀公使電報清仏談判の風説並に仏国内閣近状の件　077
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一八年四月六日
2　蜂須賀公使来電　明治一八年四月五日
3　回覧書　明治一八年四月六日

九一上　在朝鮮国弁理公使竹添進一郎報告安南事件に関し李鴻章の近況在朝鮮清営李延裕と談話の件　081
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年七月六日
2　公信第一〇〇号　明治一六年六月一七日
3　回覧書　明治一六年七月一二日

九一下　在朝鮮国弁理公使竹添進一郎と同国機務衙門参理モルレンドルフ氏と対話筆記中安南事件に関する件　087
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年七月二一日

2　竹添弁理公使とモルレンドルフ氏と対話筆記　明治一六年六月三一日
3　回覧書　明治一六年七月二三日

九二　在朝鮮国弁理公使竹添進一郎内申安南事件切迫の時は我兵引揚のことを呉長慶と談話の件　092
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年八月九日
2　機密信第九七号　明治一六年七月二五日
3　回覧書　明治一六年八月一〇日

九三　安南より来電仏兵再び黒旗隊の為に敗北の件　097
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二二日
2　安南よりの来電　明治一六年九月二〇日
3　回覧書　明治一六年九月二一日

九四　在安南海防通信者報告の件　101
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月二六日
2　報告　一八八三年七月三〇日
3　回覧書　明治一六年九月二七日

九五　在伯林日本領事カール・ウヲルフソンより清仏葛藤に係る報告の件　111
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年八月三一日

2　在伯林日本領事来翰　一八八三年七月二日
3　上奏書　明治一六年九月三〇日
4　回覧書　明治一六年九月五日

九六　在英国公使森有礼報告仏清紛議に関し英人の論評の件　115
1　太政大臣三条実美宛外務卿代理参議伊藤博文進達　明治一六年一二月一四日
2　報告書　明治一六年一〇月五日
3　上奏書　明治一七年二月五日
4　回覧書　明治一六年一二月二一日

九七　宮島誠一郎清公使黎庶昌と安南事件筆談の件　125
1　宮島・黎筆談録　明治一六年六月一日、一七日

九八　安南事件並に条約改正等に付外務卿仏国代理公使と対話筆記の件　130
1　太政大臣三条実美宛外務卿井上馨進達　明治一六年九月五日
2　外務卿・代理公使対話筆記
3　回覧書　明治一六年九月六日
4　仏国公使通牒　台湾封鎖の件　一八八四年一〇月一九日

［原綴のまま］

九九　仏国公使通牒水師提督クールベー氏台湾島封鎖の命を受くるの件　143
1　外務卿井上馨上申　左大臣有栖川熾仁親王宛　明治一七年一〇月二七日
（付）官報告示案等
2　告示訂正関係事務書類　明治一七年一一月
3　回覧書　明治一七年一〇月二〇日

一〇〇　外務省稟議清仏事件に付局外中立実施方外務卿へ御委任の件　155
1　局外中立実施方委任の議に付外務卿井上馨上申　太政大臣三条実美宛　明治一七年八月三〇日
2　在北京吉田二郎臨時代理公使電報　明治一七年八月三〇日　清国上諭発表の件
3　上奏書　明治一七年九月一日
4　閣議書　明治一七年九月一日

一〇一　外務省局外中立規則設定及び実施等に関する外国人雇使並費用別途支出方の件　165
1　太政大臣宛外務省上申　明治一七年九月六日
2　回議書　明治一七年九月五日

一〇二　外務省稟告英政府の発議に応じ軍艦二艘清国へ派遣の件　168
1　太政大臣宛外務省上申　明治一七年四月一七日
2　上奏書　明治一七年四月二一日

3　閣議書　明治一七年四月二一日

一〇三　外務省清国へ派遣の軍艦艦長へ訓令付与並内訓の件　171
1　太政大臣宛外務省上申　明治一七年一月一四日
2　内訓案
3　軍艦派遣に付英国公使・外務卿往復
4　訓令案
5　上奏書　明治一七年一月一七日

一〇四　外務省清国へ軍艦増発の件　200
1　太政大臣宛外務省上申　明治一七年八月二〇日
2　上奏書　明治一七年八月二〇日
3　閣議書　明治一七年八月二〇日

一〇五　外務省局外中立に関する勅旨及び規則案修正上呈の件　204
1　太政大臣宛外務省上申　明治一七年一〇月二五日
2　局外中立規則　活版
3　局外中立に付太政大臣より達　活版
4　局外中立勅旨　活版
5　局外中立に付外務卿より地方官へ訓令　活版

一〇六上　外務省本邦駐剳仏国公使来翰並中立施行方廟議を仰ぐの件　239
1　太政大臣宛外務卿上申　明治一八年二月一〇日
2　仏国公使来翰　一八八五年二月七日
3　上奏書　明治一八年二月一二日

一〇六下　外務省清仏事件に付臨時雇入英国人ラウダへ金円贈与の件　243
1　太政大臣宛外務省上申　明治一八年四月七日

自明治一五年至同一八年　公文別録

〔133〕

仏清事件　四

（R121／250～485）

一〇七　清国派遣中艦隊司令官海軍少将松村淳蔵報告仏清事件現況の件　253

1　太政大臣三条実美宛海軍卿川村純義進達　明治一七年六月二〇日

2　松村淳蔵報告　明治一七年六月五日

3　回覧書　明治一七年六月二三日

4　清仏交渉事件に付松村淳蔵報告の件　明治一七年八月　258

5　清仏紛議に付松村淳蔵報告の件　明治一七年九月　275

6　清仏事件に付松村淳蔵近況報告の件　明治一七年九月　285

7　清国現況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年九月　298

8　清仏景況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年九月　315

9　福州河へ石舟沈没に付松村淳蔵報告の件　明治一七年九月　348

10　在上海松村少将報告の件　明治一七年一〇月九日　353

11　天城艦香港碇泊中報告の件　明治一七年一〇月一六日　368

12　清仏景況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年一〇月二三日　382

13　清国現況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年一一月一日　392
14　清国現況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年一一月一一日　403
15　清仏現況に付松村淳蔵報告の件　明治一七年一一月一三日　413

一〇八　清国派遣中艦隊司令官海軍少将松村淳蔵電報仏国司令官艦隊を以て媽姐より台湾島へ発向の件　419
1　太政大臣三条実美宛海軍卿川村純義進達　明治一七年二月二日
2　松村少将電報　明治一七年一〇月二日
3　回覧書　明治一七年一〇月三日

一〇九　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報仏兵鶏籠攻取尋て淡水攻撃の件　423
1　左大臣有栖川熾仁親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月五日
2　松村少将電報　鶏篭攻撃　明治一七年一〇月五日
3　回覧書　明治一七年一〇月六日
4　左大臣有栖川熾仁親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月一四日
5　松村少将電報　淡水攻撃　明治一七年一〇月一四日
6　回覧書　明治一七年一〇月一四日

一一〇　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報山東省地方にて米国の耶蘇教師殺害せられし件　437
1　左大臣有栖川親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月六日

2　松村少将電報　明治一七年一〇月六日

一一一　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報東京ランカプに於て支那兵敗走の件　439
1　左大臣有栖川親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月一五日
2　松村少将電報　明治一七年一〇月一四日
3　回覧書　明治一七年一〇月五日

一一二　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報日本人北京満州山東省地方へ遊歴軍備を探索する者多きを以て厳重注意すべき旨総理衙門より上海道台に秘密電信の件　443
1　左大臣有栖川親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月一六日
2　松村少将電報　明治一七年一〇月一六日
3　回覧書　明治一七年一〇月一六日

一一三　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報東京ロクナムに於て清仏接戦並に呉淞江艦船入港停止の件　447
1　三条実美太政大臣宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月一八日
2　在上海松村少将電報　明治一七年一〇月一七日
3　回覧書　明治一七年一〇月一八日

一一四　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報台湾封港の件　451

1　左大臣有栖川親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月二一日
2　在上海松村少将来電　明治一七年一〇月二〇日
3　回覧書　明治一七年一〇月二一日

一一五　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報仏国軍艦近況の件　455
1　左大臣有栖川親王宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月二四日
2　在上海松村少将電報　明治一七年一〇月二四日
3　回覧書　明治一七年一〇月二四日

一一六　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報台湾に於て清仏戦況の件　459
1　三条実美太政大臣宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一一月一二日
2　電報　明治一七年一一月一一日
3　回覧書　明治一七年一一月一二日

一一七　清国派遣中艦隊司令官松村淳蔵電報超武号揚威号上海より済物浦へ発向の件　463
1　松村少将電報　明治一七年一二月一五日
2　回覧書　明治一七年一二月一六日

一一八　在福州海軍留学生仁礼敬之報告清法両軍馬尾交戦景況の件　466
1　三条実美太政大臣宛海軍卿川村純義進達　明治一七年九月一六日

2　仏清両軍馬尾交戦の景況　明治一七年八月二七日
3　回覧書　明治一七年九月一七日

一一九　在英国海軍小佐八田裕次郎報告清仏事件その他景況の件
1　三条実美太政大臣宛海軍卿川村純義進達　明治一七年一〇月一八日
2　八田裕次郎報告　明治一七年九月四日
3　回覧書　明治一七年一〇月二一日

自明治一五年至同一八年　公文別録

〔134〕

仏清事件　五

（R122／006～267）

一二〇　歩兵大尉池田正介外一名報告清仏両兵交戦の件　自第一号至第一七号内第六第九号欠　008
1　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年八月六日　河内にて　009
（付）回覧書　明治一六年八月二八日
2　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第二号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年八月一四日　河内にて　025
（付）回覧書　明治一六年九月一一日
3　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第三号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年八月一八日　河内にて　041
（付）回覧書　明治一六年九月一四日
4　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第四号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年八月二九日　河内にて　059
5　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第五号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年九月八日　河内にて　078

（付）回覧書　明治一六年九月二八日

6　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第七号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年　101
九月一七日　河内にて

（付）回覧書　明治一六年一〇月一八日

7　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第八号　参謀本部長大山巌宛　明治一六年　106
一〇月一〇日　河内にて

（付）回覧書　明治一六年一一月二二日

8　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一〇号　参謀本部長大山巌宛　明治一六　116
年一一月二〇日

（付）回覧書　明治一六年一二月一五日

9　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一一号　参謀本部長大山巌宛　明治一六　124
年一二月六日

（付）回覧書　明治一六年一二月二八日

10　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一二号　参謀本部長大山巌宛　明治一六　139
年一二月二七日　河内にて

（付）回覧書　明治一七年一月二五日

11　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一三号　参謀本部長大山巌宛　明治一七　171
年一月一一日　河内にて

（付）回覧書　明治一七年二月一五日

12　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一四号　参謀本部長大山巌宛　明治一七

年一月二九日　河内にて
（付）回覧書　明治一七年二月二三日　185
13　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一五号　参謀本部長大山巌宛　明治一七年二月二〇日　河内にて　200
（付）回覧書　明治一七年三月二七日
14　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一五号（ママ）　参謀本部長山県有朋宛　明治一七年三月一四日　河内にて　210
（付）回覧書　明治一七年四月一八日
15　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一六号　参謀本部長山県有朋宛　明治一七三月二六日　215
（付）回覧書　明治一七年四月二六日
16　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正保報告　第一七号　参謀本部長山県有朋宛　明治一七年四月一九日　238
17　歩兵大尉池田正介・歩兵中尉小泉正介（ママ）報告　第一八号　参謀本部長山県有朋宛　明治一七年五月八日　245
（付）回覧書　明治一七年六月六日

一二一　循環日報抄出総署より法署公使に照会文の件　256
1　循環日報抄　八月七日、七月二九日
2　電報供覧　文書局　明治一七年八月二〇日

一二二　上海メルキュリー新聞抄訳の件

2　1　新聞抄訳　九月四日

2　回覧書　九月一八日

大正五年　公文別録

〔138〕

南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件　（R123／006～277）

一　南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件

1　南満州鉄道に依る露国兵輸送に関する件　内閣総理大臣通牒　満鉄総裁宛　大正五年二月二日　007

露国兵輸送に付協力要請

（付）同件に付外務大臣上申　大正五年二月一日

2　内閣総理大臣通牒　満鉄総裁宛　大正五年二月四日　015

外務大臣上申送付　便宜依頼

（付）外務大臣上申　大正五年二月三日

3　幣原外務次官申進　江木内閣書記官長宛　大正五年二月九日　021

露国兵大連にて仏船に乗船の予定

（付）露国駐日大使書簡　石井外務大臣宛　大正五年二月一日

4　露国軍隊輸送に関する露国・都督府・満鉄協議覚　大正五年二月三、一六日　032

5　内閣総理大臣通牒　満鉄総裁宛　大正五年二月八日　037

露国外相通知報知

6 内閣総理大臣通牒　満鉄総裁宛　大正五年二月八日　039
露国公使の外務大臣宛照会公文送付
（付）露国軍隊兵員数

7 内閣総理大臣通達　満鉄総裁宛　大正五年二月一二日　047
仏船大連到着予定

8 内閣総理大臣照会　陸海軍大臣宛　大正五年二月一四日　050
便宜供与依頼

9 外務次官手簡　二月一九日　055

10 内閣総理大臣電報　寺内朝鮮総督宛　大正五年二月一五日　069
露国兵大連移送新聞記事差し止め依頼

11 海軍省報告　内閣総理大臣宛　大正五年二月一七日　071
二月一四日照会の件各艦隊等へ下達

12 外務大臣報告　内閣総理大臣宛　大正五年二月一六日　076
露国大使通報送付
（付）露国兵移動予定　江木内閣書記官長・国沢満鉄副総裁往復

13 露国提議に対する回答書の件　大正五年二月二六日　112

14 第一隊輸送の件　大正五年二月二六日　114

15 第二隊輸送の件　大正五年二月二八日　138

16 第三隊輸送の件　大正五年二月二八日　140

17　第四隊輸送の件　大正五年三月三日　173
18　第四隊の残部及第五隊輸送の件　大正五年三月一一日　188
19　第六隊輸送の件　大正五年三月一二日　190
20　第七隊輸送の件　大正五年三月一三日　192
21　第八隊輸送の件　大正五年三月一六日　216
22　露国兵輸送終了に付満鉄総裁報告　内閣総理大臣宛　大正五年三月二三日　220
23　露国兵輸送に付露国皇帝感謝来信披露上奏　内閣総理大臣　230
24　露国軍隊及転送に関する件　234
25　露国兵輸送終了に付関東都督報告　外務大臣宛　235
26　露国兵輸送終了に付外務大臣報告　内閣総理大臣宛　248
27　露国兵輸送終了に付満鉄報告書提出　251
（付）輸送賃金請求の件
28　露国兵輸送の際大連埠頭における撮影写真　262

〔139〕 韓国併合に関する書類 （R124／006～299）

一　韓国司法事務・監獄事務委任及び司法監獄事務に関する具状書　伊藤博文　桂太郎内閣総理大臣宛　明治四二年七月三日　010

二　韓国司法事務・監獄事務委任及び司法監獄事務費負担に関する条約書案　014

三　韓国司法事務・監獄事務委任等の件に付伊藤公爵へ返電の件　曾根統監宛桂内閣総理大臣宛電報　明治四二年七月六日　七月六日閣議決定　016

四　韓国司法事務・監獄事務委任等の件に付曾根統監へ電報　桂内閣総理大臣　明治四二年七月六日　閣議決定通知　017

五　軍部廃止に付請訓　在京城日本大使館　明治四二年七月六日　018

六　韓国併合に関する閣議決定書　明治四二年七月六日　019
（付）対韓施設大綱　七月六日閣議決定
明治四二年韓国併合に関する外務大臣案
［閣議を経ざるものと注記あり］
七　司法及監獄事務委託に関する件に付曾根統監より小村外務大臣へ電報の件　035
該件は将来のため覚書形式　軍部廃止は追って発表
八　司法及監獄費に付桂内閣総理大臣より曾根統監へ電報の件　明治四二年七月二四日　036
倉富次官至急上京命令
九　寺内正毅勧告統監京城派遣に付御親書案　037
一〇　韓国併合に関し各種の意見　038
1　韓人の国法上の地位
2　併合の際外国領事裁判に係属中の事件の処理及び領事庁に拘禁中の囚徒の処分
3　裁判所に於いて外国人に適用すべき法律
4　居留地の処分
5　外国人の有する借地権の処分

6　日韓開港間及び韓半島開港間に於ける外国船舶の沿岸貿易
7　馬山港閉鎖の時期及び方法
8　日韓間に輸出入せらるる貨物に対する課税
9　間島に於ける韓人
10　清国人の内地雑居に対する制限
11　外国人の土地所有権
12　外国人の条約上又は慣例上獲得せる譲与
13　宗教に関連せる現行条約上の権利

一一　合併後韓半島統治と帝国憲法との関係　陸軍省罫紙　076

一二　韓国の施政に関する件・韓国合併に関する件　陸軍省罫紙　明治四三年五月　088

一三　渉外事務に関する意見　130
　統監府に外事局設置意見

一四　統監府外務部総督府外事局事務対象　136

一五　国家結合及び国家併合類例　活版　146
（付）柴田内閣書記官長宛石井外務次官送付状　明治四三年七月二九日

一六　日本と韓国以外の条約目録　176
一七　清国居留地及び各国居留地に関する件　外務省罫紙　184
一八　外国旅券に関する件　外務省罫紙　185
一九　韓国に於ける発明・意匠・商標及び著作権の保護に関する日米条約の件　187
二〇　韓国併合後韓国に於ける英国の商標登録に関する件　外務省罫紙　189
二一　小村外相・寺内統監秘密往復電報　明治四三年八月一四日～八月二八日
　条約締結手続・韓国行程勅書案他　191
二二　朝鮮王族及び公族支配に関する皇室令発布の件に対し寺内統監より意見進達の件　明治四三年八月二八日
　韓国王室に対する規制強化必要　199
二三　併合処分の法令に関する件
　第一次・第二次・第三次処分案　202

二四　日韓合邦の先決問題　宗秉畯　208
　韓国皇室の待遇・両班の処置・地方軍隊の増設・特別法の施行・太皇陛下を東京へ
二五　日韓合邦後の韓国制度　宋秉畯　225
二六　韓帝渡日譲国の議　宋秉畯　228
二七　韓国特別就産所設置案　宋秉畯　231
二八　韓国併合の際に於ける処理法案大要閣議決定　明治四三年七月八日　238
二九　韓国併合実行に関する方針決定につき通牒　内閣総理大臣桂太郎　朝鮮統監寺内正毅宛
　明治四三年七月八日　253
三〇　韓国併合後の帝国憲法解釈について閣議合意書　明治四三年七月二日　内閣罫紙　258
三一　韓国併合後の経費補充に関する寺内統監照会　桂内閣総理大臣宛　明治四三年七月一二日　259
三二　詔勅条約宣言案　261

根本草案・八月二三日閣議決定案

三三　韓国統治に関する寺内統監条件　統監府罫紙　二七七

三四　朝鮮総督府官制抜粋及び御委任時項　二八一

三五　王公族の国法上の地位及び皇室典範との関係　内閣罫紙　二八三

三六　刑事訴訟に関する規定を皇室裁判令中に存置するを至当とする理由　司法省意見　二九四

公文別録　総覧

総覧　凡例

一　本総覧は、公文別録の全体の資料名を国立公文書館の整理順に配列したものである。

二　上段に現行の国立公文書館における配列を示し、下段には既刊の「公文別録総目録」上巻、中巻、下巻の巻末に付した「総覧」を対照のため掲載した。

三　第四期収録資料はゴシックで表示した。

四　各資料名は、原則としてその簿冊の表紙に記入されたものである。

公文別録　総覧

1	太政官（1～5）	明治元～明治10	（上中下巻「総覧」）
2	太政官（1～3）	明治15～明治18	
3	機密探偵書（1～2）	明治15～明治17	
4	宮内省	明治15～明治25	
5	**外務省（1～4）**	明治15～明治18	
6	**条約改正一件**	明治13～明治16	
7	**内務省（1～4）**※第二冊のみ第四期	明治15～明治18	
8	大蔵省（1～6）	明治15～明治18	
9	陸軍省・海軍省	明治18	
10	司法省	明治16～明治18	
11	文部省	明治15～明治18	
12	農商務省	明治15～明治18	
13	工部省	明治15～明治18	
14	官符原案	明治11～明治18	
15	府縣	明治18	

1	太政官（1～5）	
2	太政官（1～3）	
3	機密探偵書（1～2）	
4	宮内省	
5	内務省	
6	大蔵省（1～6）	
7	陸軍省・海軍省	
8	司法省	
9	文部省	
10	農商務省	
11	工部省	
12	官符原案	
13	府縣	

16 官吏雑件（1～2） 明治15～明治16
17 官吏選挙慰労内規 明治15～明治18
18 諸建白書 明治3～明治6
19 上書建言録（1～3） 明治11～明治18
20 地方巡察使（1～3） 明治15～明治16
21 地方巡察使復命書（1～6） 明治16
22 地方巡察使復命書（1～9） 明治16
23 地方巡察使復命摘要 明治16
24 巡察記 明治16
25 北海道事件（1～2） 明治3
26 琉球廃藩置縣処分（1～4） 明治8
27 琉球書類 18通合綴 明治15
28 板垣退助遭害一件 明治15
29 福島縣人民暴動一件 明治15
30 新潟縣下頚城自由党逮捕一件 明治16
31 清国通信始末 明治2～明治6
32 清国機密公信 明治8～明治16

14 官吏雑件（1～2） 明治15～明治16
15 官吏選挙慰労内規 明治15～明治18
16 諸建白書 明治3～明治6
17 上書建言録（1～3） 明治11～明治18
18 地方巡察使（1～3） 明治15～明治16
19 地方巡察使復命書（1～6） 明治16
20 地方巡察使復命書（1～9） 明治16
21 地方巡察使復命摘要 明治16
22 巡察記 明治16
23 琉球廃藩置縣処分（1～4） 明治8
24 琉球書類18通合綴 明治8
25 板垣退助遭害一件 明治15
26 福島縣人民暴動一件 明治15
27 新潟縣下頚城自由党逮捕一件 明治16
28 清国通信始末 明治2～明治6
29 清国機密公信 明治8～明治16

33　処蕃趣旨書　明治8
34　使清弁理始末　明治8
35　探偵書　明治7
36　使鮮日記　明治8
37　朝鮮巡行日誌　1866
38　朝鮮事件　明治元～明治4
39　朝鮮尋交始末　明治9
40　朝鮮国詳細　明治9
41　朝鮮江華島砲撃始末（1～2）　明治8
42　朝鮮始末（1～3）　明治6～明治8
43　朝鮮始末続録　明治9～明治15
44　朝鮮事変始末（1～8）　明治15
45　朝鮮事変始末（1～4）　明治17
46　仏清事件（1～5）　明治15～明治18
47　未決並廃案書類（1～3）　明治20～大正4
48　南満州鉄道ニ依ル露国兵輸送ニ関スル件　大正5

30　処蕃趣旨書
31　使清弁理始末
32　探偵書
33　未決並廃案書類（1～3）

49 韓国併合ニ関スル書類 明治42

50 士族其他勧業資本金貸ニ関スル件 明治19～明治23

51 軍艦千島衝突事件 明治26～明治28

52 大津事件（1～9） 明治24

53 臨時制度整理局書類 大正元

54 大正3・4年戦役文官行賞査定表 大正10

55 内閣 明治19～大正元

56 内務省 明治19～明治30

57 大蔵省（1～3） 明治19～大正6

58 陸軍省 明治19～大正7

59 海軍省（1～3） 明治21～大正6

60 農商務省 明治27～大正10

61 逓信省 明治26～明治39

62 綱紀粛正ニ関スル件 大正7

63 大正3・4年戦役ニ継グ戦役各省行賞査定 大正10

64 行政整理ニ関スル書類 大正11

34 士族其他勧業資本金貸ニ関スル件

35 軍艦千島衝突事件

36 大津事件（1～9）

37 臨時制度整理局書類

38 大正3・4年戦役文官行賞査定表

39 内閣

40 内務省

41 大蔵省（1～3）

42 陸軍省

43 海軍省（1～3）

44 農商務省

45 逓信省

46 綱紀粛正ニ関スル件

47 大正3・4年戦役ニ継グ戦役各省行賞査定

48 行政整理ニ関スル書類

65　陸軍省衆規渕鑑公文年月表　明治元～明治8
66　陸軍省衆規渕鑑目録　明治元～明治8
67　陸軍省衆規渕鑑抜萃1～37巻　明治元～明治8
68　海軍公文類纂並拾遺抄録　明治元～明治3
69　海軍公文類纂抄録　明治5～明治7
70　海軍省公文類纂索引　明治元～明治6
71　肥前国浦上村耶蘇宗徒処置一件　明治20
72　行政整理関係書類　大正13～大正15
73　行政並軍備整理関係書類　昭和6
74　親任官任免（1～12）　明治22～昭和22
75　内閣（1～7）　大正12～昭和19
76　内務省　大正14～昭和3
77　大蔵省・陸軍省・海軍省・司法省・大東亜省　大正12～昭和19
78　内務省・大蔵省・陸軍省・海軍省・商工省・逓信省・大東亜省　昭和6～昭和18
79　内閣（企画院上申書類）　昭和15～昭和18

49　陸軍省衆規渕鑑公文年月表
50　陸軍省衆規渕鑑目録
51　陸軍省衆規渕鑑抜萃1～37巻
52　海軍公文類纂並拾遺抄録
53　海軍公文類纂抄録
54　海軍省公文類纂索引
55　肥前国浦上村耶蘇宗徒処置一件
56　行政整理関係書類
57　行政並軍備整理関係書類
58　親任官任免（1～12）
59　内閣（1～7）
60　内務省
61　大蔵省・陸軍省・海軍省・司法省・大東亜省
62　内務省・大蔵省・陸軍省・海軍省・商工省・逓信省・大東亜省
63　内閣（企画院上申書類）

80 総動員計画関係書類

昭和4～昭和20

64 総動員計画関係書類